

# 第VII章 総括

## 1 弥生集落の変遷と構成

五斗長垣内遺跡は、淡路島北部の標高約200mの丘陵上に営まれた集落跡で、主に弥生時代後期と中世以降の2時期に営まれたことが明らかとなった。遺跡周辺の地形をみると、現在では急峻な地形を開墾し、段状に造成した水田を経営しているが、弥生時代において水田を営むような地形には恵まれていない。そのような場所にあって、弥生時代後期に突如として出現し、古墳時代までに姿を消してしまう。その後、再び人の暮らしが始まるのが平安時代の終わり頃になってからである。このような現象は、本遺跡に限られたことではなく、淡路島北部の丘陵上において顕著な集落動態であり、弥生時代後期の遺跡数は中期に比較して約10倍に増加することが知られている。(伊藤2000) 今回の調査では、比較的まとまった面積の調査を行う機会に恵まれたため、集落の構成や変遷を少なからず明らかにすることができた。そこで、まずははじめに、出土した土器からみた弥生時代後期における建物の変遷と構成を検討してみたい。

なお、淡路島における弥生土器の編年は、今のところまとまった作業は行われていない。しかし、近年増加した発掘調査資料をもとに、後期の土器編年案が提示されている。(山田1996、岸本1998) また、特徴的な土器の消長により、時期決定の指標とする作業もみられる。(森岡1999・2003、的崎2006) ここでは、それらを参考に、各堅穴建物跡出土土器を検討し、それらの変遷を考えてみたい。

### I期

まず、集落の出現時期であるが、数量的には少ないものの遺物包含層出土の土器にIV様式終わり頃の土器が数点みられる。しかし、その時期の土器がまとめて出土する遺構は確認されておらず、現段階では集落の出現時期を後期初頭と考えている。

そこで、最初に出現する建物はSH-204である。出土した土器量は少ないが、甕は口縁部をヨコナデ調整し、体部を外面ハケ、内面ヘラ削りするAa I 1技法の甕である。また、壺も体部内面を肩部までヘラ削りするものであり、高壺の脚部も直線的に開く外反度の弱い脚であるほか、水差し形土器のものとみられる把手の破片が出土しているなど、いずれの器種においても古い要素が看取される。これらのことから、この建物をI期とした。なお、SH-204では、床面にサヌカイト剥片や碎片が多数出土し、それらは台石が置かれた周辺で濃い分布密度を示すことから、サヌカイト製石器の製作に関わる建物跡と考えられる。同時期の建物は、出土遺物が少なく断定はできないもののSH-317や、柱穴と中央土坑の位置関係などがSH-204と同じ配置を探るSH-201がこの時期の可能性がある建物である。この段階では鍛冶作業を行った様子は認められない。

### II期

甕は、前段階と同じAa I 1技法の甕に、体部外面のハケ調整が粗くなり、叩きを残すものが出現するなど、新しい要素がみられる。しかし、底部や体部の破片には、体部外面にハケ調整を施すものが多い。また、有稜高壺Aの口径に対する口縁部の長さの比を示す立ち上がり指数は、SH-205やSH-305、SH-311出土の土器が0.11から0.12と小さな値を示し、古い要素が看取される。鉢では、鉢Aが出現するが、口縁部の屈折度が弱いA aが主体である。甕の製作技法において、後期後半に出現するとされる「淡路

型叩き甕」はまだ出現していない段階と考える。

この段階の建物跡として、炉跡を有する大型のSH-205が出現する。SH-202下層、SH-305もこの段階とみられる。また、SH-311は時期幅のある土器が同時に出土しており、遺構の重複等も想定できるが、その内の古い様相を示す土器の一群が本段階に入る。五斗長垣内遺跡における鍛冶作業の始まりがこの時期である。

### III期

甕の口縁部にBc技法を用いるいわゆる「淡路型叩き甕」が出現する。体部はⅡ1またはⅡ2技法が主流になるなど、Ⅱ期よりも新しい要素がみられる。有稜高壺Aの口縁部立ち上がり指数も大きくなる傾向にあるほか、円盤充填技法を用いる脚部が多い中にも挿入付加法を用いる中実の脚部が出現するなどもより新しい要素である。

この段階の建物として、SH-203やSH-206がある。そのほか、SH-307、SH-310、SH-312、SH-314はこの段階が中心と考えられるが、次段階のやや新しい要素もみられる。この段階においても炉を有する大型建物が継続して建てられるほか、遺跡東端の丘陵上部にも建物が増加する傾向が認められる。

### IV期

甕は、BcⅡ2、BcⅢ2技法が主流となり、口縁部のBc技法は鉢や高壺にも用いられるなど盛行する。高壺の脚部は中実で挿入付加法のものが多くなり、外反度も増す。高壺口縁部の立ち上がり指数も0.15～0.17を示すなどより新しい傾向を示す。

この段階の建物として、SH-301、SH-303、SH-313などがある。なお、これら建物出土土器には前段階のやや古層を示す土器も一部含まれる。また、SH-311の新しい要素を有する土器群がこの段階に入る。この段階では、丘陵南の緩斜面地帯に炉を有する大型建物が出現するとともに、炉を有する建物が増加する傾向にある。

### V期

甕は、BcⅢ2技法が主流となる。底部外面をヘラケズリする技法が出現し、小型の鉢などに用いられるものが多くみられる。高壺口縁部の立ち上がり指数も0.20のものが出現するなど、最も新しい傾向を示す。

最大規模の建物SH-302をはじめ、SH-306、SH-308、SH-309、SH-316などがこの段階の建物である。なお、SH-304は土器が少なく判断が難しいが、Ⅲ～V期のいずれかの段階に入るものとみられる。

No.	建物跡	1	2	3	4	5
1	SH-201	?				
2	SH-202					
3	SH-203					
4	SH-204					
5	SH-205					
6	SH-206					
7	SH-301					
8	SH-302					
9	SH-303					
10	SH-304					
11	SH-305					
12	SH-306					
13	SH-307					
14	SH-308					
15	SH-309					
16	SH-310					
17	SH-311					
18	SH-312					
19	SH-313					
20	SH-314					
21	SH-315					
22	SH-316					
23	SH-317					

…炉を有する建物跡

第109図 積穴建物変遷図

以上をまとめたものが、第109図である。竪穴建物単位でみた土器の様相から、本遺跡は弥生時代後期初頭に出現し、後期末に終焉を迎えるものと考えられる。その間、各時期で規模や形態の異なる竪穴建物が複数棟存在した様相が窺える。

竪穴建物は、直径が8m以上の規模の大きな建物と直径がそれ以下の規模の小さな建物に分けることができる。大型の建物はⅡ期に出現する。その後、各時期に大型の建物が1～2棟と小型の建物が何棟か組み合わさる形で存在していたものとみられ、それらが少しずつ場所を移しながら、一定のエリアで存続し続ける状況が認められる。その内、床面に炉跡を有するものが12棟認められたが、それらはⅡ期に出現し、それ以降の各時期に複数棟存在する。

各時期の主な建物構成は、Ⅰ期に④-2地区でSH-204など1～2棟が建てられたほか、①地区でも1棟存在した可能性があるが、いずれも小型の建物で、炉を有する建物は認められない。なお、SH-204では、石鏃などの石器が出土したほか、床面に広くサヌカイトの剥片や碎片が散らばった状態が認められていることから、石器製作に関わる建物跡と考えられる。

Ⅱ期の段階で、炉を有する大型建物SH-205が④-1地区に出現するとともに、小型の建物SH-202やSH-305がやや離れた④-3地区に存在する。なお、このSH-202、SH-305は明確な炉跡は確認されなかったが、いずれも中央土坑の縁の一部が被熱している状況が認められるとともに石製工具類が出土している点で共通している。この後、炉を有する建物が④-3地区や③地区に展開していくこととなる。

Ⅲ期には、SH-205に替わり④-2地区に大型のSH-203が建てられるほか、④-3地区にSH-307が出現する。いずれも炉を有する大型建物である。長方形を呈し床面に炉を有する小型建物SH-304は、出土遺物が少なく時期の確定はできないが、Ⅲ～Ⅴ期のいずれかの時期に存在したものと考えられる。

また、SH-206もこの時期に存在したと考えられる建物である。この建物は、尾根上の水が集まる、漏斗状を呈する谷地形の底に建てられている。上部には、谷を横切る形で掘られた溝が何本も存在し、流れ込む水をコントロールしようとした形跡が見受けられる。なお、床面上では、原形に復元しうる状態の高壙や器台が複数出土しているほか、絵画土器の破片も出土しているなど、別の用途を目的として建てられた建物であることが想定される。なお、この建物から出土した土器には時期幅を有する土器が出土しており、前段階から出現する可能性も残している。

Ⅳ期には、④-3地区に大型建物SH-303が存在し、規模は不明であるが張り出しを有するSH-301なども当該期に存在したものとみられる。やや傾斜が急な①地区・②地区についても本期に炉を有するSH-313が存在する。なお、①地区・②地区ではⅡ期以降に複数棟の建物が存在し、Ⅳ期、Ⅴ期に炉を有する建物が存在するが、大型の建物は認められない。

Ⅴ期には、④-3地区で最大規模のSH-302が存在するが、3～4回の建て替えが行われていることから、やや長い存続期間を想定する必要があろう。また、③地区で確認されたSH-308、SH-309も本期に存在した建物であるほか、SH-306も炉を有する建物として本期に存在したものと考えられる。

Ⅱ期に出現する炉を有する建物跡は、SH-205やSH-302にみられるように、鉄製品とともに台石や敲石、砥石といった石製工具類が出土するほか、炉跡の周囲に炭層の堆積が認められるなど、鍛冶作業に関連する建物跡と考えられる。今回行った竪穴建物埋土の水洗選別作業の結果、炉跡を有する建物跡から微細な鉄片が採集できたほか、磁石を用いた採集作業において、炉跡を有する建物床面から採取した土に含まれる砂粒や土器片、サヌカイト片までもが磁石に付着することが確認された。その量は、比較資料として同様の作業を行った地山の土や炉を有しない建物の埋土に比べ格段に多いことが確認されており、

これらの事象も鍛冶作業を傍証する要素となろう。

さらに、掘立柱建物跡が4棟検出されているが、いずれも梁行1間の側柱建物で、高床倉庫の可能性もある。これらの建物がどの時期に何棟存在したのかは確定することができないが、おそらくはⅡ期以降のいざれかの時期に、大型建物を中心とした複数の堅穴建物と併存した景観が復元できよう。

## 2 遺構について

今回の調査では、23棟の堅穴建物跡が確認された。堅穴建物の構造は、直径が8m以上ある規模の大きな建物と直径がそれ以下の規模の小さな建物が存在する。規模の大きな建物は平面形態が全て円形であるのに対し、規模の小さな建物には円形、方形、隅丸長方形など、様々な形態が認められる。なお、隅丸長方形の建物は、傾斜が急な①地区に集中する傾向が認められることから、これは地形的制約から採られた形態ともとれる。

床面に炉跡を有する建物跡が12棟確認されたが、特に大型の円形建物では全て複数の炉跡が検出された。それらの大型建物では柱が周壁に近い位置に立てられる傾向が認められる。それが顕著なSH-302では、柱と壁の距離が平均52cmで、10.5mを測る直径に対する比率は10%となる。これら建物で検出された炉跡が中央部付近に集中する傾向があることから、作業空間を確保するために採られた構造とも考えられ、大型建物の用途を考える上で、炉のあり方などとともに重要な要素と考えられる。

検出された炉の数は40基を数える。その内、39基が掘り込みを持たず、床面をそのまま炉底として使用する構造で、村上氏の分類（村上2007）でIV類とされるものである。なお、SH-302で検出された炉跡R30209だけは構造が異なり、浅く凹む構造を持つ炉で、底に薄く炭層が堆積するものである。

IV類に分類される炉跡の検出状況は、熱を受けた範囲の床が赤く焼けた状態が認識されている。今回、その内のいくつかの炉で、赤く焼けた範囲の中に色調の変化した核が認められ、その部分が周囲に比べ硬く焼け締まる状況が確認されている。色調の変化は、核となる部分を中心に、外に向かって同心円状に色調が暗くなる傾向にある。

今回行った鍛冶作業復元実験については、解決すべき課題も残されたが、当時の鍛冶作業を想定する上で一定の成果は得られたものと考えられる。その中において、作業終了後の炉跡で、類似する痕跡が確認されている。実験では、炉内温度を上昇させるために用いた送風管の先端部が挿入された部位の床面が硬化し、そこを核とした同心円状の色調変化が認められた。その際、送風管の先端部の温度が1,197°Cにまで上昇することが確認されており、核が形成される状態にあることが、この温度計測値からも認識できる。一方、同時に実験を行った炊飯作業に伴う焚火の温度は、700°C前後の計測値に止まっており、残された炉跡には同心円構造は認められなかった。したがって、この核を有する同心円構造は、炉内温度を上昇させる必要があった作業を行った結果、形成される痕跡であるものと考えられ、通常の煮炊きや焚き火による焼土面と区別する上において、重要な要素になるものと考えられる。

また、今回検出されたIV類に分類される炉は、鍛冶復元実験でも用いたような床面に燃料となる炭を盛り上げた程度の単純な構造であったことが想定されるが、炉内的一部分であったにせよ、1,200°C近くにまで温度上昇することが確認され、鍛冶作業に十分な温度が得られることがわかった。しかし、この構造の炉であれば、温度上昇が得られる部位が送風管の先端付近に限られることから、大型の鉄器を扱った鍛冶作業には困難が予想される。このことは、五斗長垣内遺跡で出土した鉄器の多くが鉄鎌などの小型の製品であることとも符合する。

なお、温度上昇には炉内に空気を送り込む作業が必要であり、土製の羽口が出土していない状況において、それに代わる用具が必要となる。今回の実験では、遺物として残らない可能性が強い有機質素材の「蓮の茎」と「細竹」を送風管として用いたが、いずれの素材であっても送風管としての役目を十分に果たすことが確認された。したがって、空気を送ることができる筒状の素材であれば、これ以外の素材であっても使用することが可能であるものと考えられる。なお、有機質素材である以上、炉に挿入された先端部が焼け、次第に短くなることは間違いない事実である。それを防止する目的で、炉に挿入する送風管の先端部位に粘土を巻き付けたところ、粘土が脱落しない限り、耐久時間は著しく伸びることが確認された。その場合、作業途中に粘土が脱落し、焼けた土の塊が生成されることとなったが、この焼土塊には送風管として用いた蓮の茎や竹が接触していた痕跡が凹面として残った。

今回の調査では、第V章3.B土製品で述べたように、焼けた土の塊が多数出土している。それらは、土器片とは明らかに異なるもので、その中に、内外面の被熱温度が異なるものや筒状の物質が付着していたような凹面を有するものが確認されている。このように、上記の焼土塊との共通性も認められることや、それらが鍛冶作業を行ったとみられるSH-205やSH-306などの堅穴建物から多く出土していることから、鍛冶作業に伴う遺物であることも視野に入れ、今後の類例の増加を待ちたい。

また、SH-302で検出された炉R30209は、わずかな窪みを持つ構造で、他の炉とは唯一構造の異なるものである。これについて、第VI章の1で述べられているように、残留磁化の測定において地球磁場方向と異なる数値を示し、焼土が移動している可能性が指摘されている。計測に供した資料が、浅い窪みに堆積した炭層の上に押しつぶされたような状況で堆積した粘土であることから、粘土が熱を受けた後に動いた可能性を考えたい。言い換えれば、炉の一部を構成した何らかの粘土が廃炉とともに崩れ、堆積した可能性も想定できるのではないかだろうか。もしそうであれば、当時の炉の構造を復元するうえにおいて、重要な資料となるものと考えられ、今後の検討課題としたい。なお、この炉が本遺跡における鍛冶関連遺構の最終段階に築かれていることにも注目しておきたい。

### 3 遺物について

まず、本遺跡を特徴づける遺物に鉄器がある。出土した鉄器は、第V章にあるように、製品として鎌や工具が多く認められる。中でも、多様な形態の鉄鎌や全体形状が初めて判明した鑿形鉄製品は、その製作技法や分布の面で注目すべき遺物であるほか、針や錐を含む小型鉄製品は用途が注目される。また、出土鉄器のうち圧倒的多数を占める素材や裁断片などの鉄片は、鍛冶工房における鉄器のあり方を象徴しており、当時の鉄器製作の様相を知る重要な資料となる。なお、その中で出土した鋳造鉄斧片を含む鋳造鉄器類や板状鉄斧は、入手ルートや用途について検討を要する資料として重要である。いずれにせよ、本遺跡で出土した多種多様な鉄器類は、弥生時代後期の鍛冶工房における鉄器製作の実態を知ることができると重要な資料と考えられる。

また、同時に出土した石製工具類には、敲石や台石、砥石などがあるが、それらは大きさや形状、石材などの面で多種多様な工具がみられる。大きさや重さ、硬さなど、作業に応じた工具の選択が背景にある構成とも見て取れる。前述の鉄器とともに、鍛冶作業の実態を知ることができる重要な資料である。

また、土器については、肉眼観察において、何種類かの胎土が確認できる。器形や製作技法、胎土の面から、明らかに他地域で製作された搬入土器と認められるものがあるが、その数は多くない。地域の特定が困難な土器が多いが、相対的には西方の瀬戸内方面からの搬入土器が多い傾向が認められ、鉄器

製作技術の伝播を考えるうえで重要な要素となろう。なお、それらの土器を対象として行った胎土分析の結果、b類に分類された土器を注目しておきたい。形態的には讃岐地域の土器に類似する特徴を有する土器を含んでいる。分析結果では、鉱物組成上、在地と讃岐の両地域の可能性が指摘されている。b類胎土の土器は、在地土器が確実視されるa類の土器とは、製作技法の面でも明らかな違いが看取できる。土器全体に占めるb類土器の割合は相当量に上る。これが、製作地の違いを背景としたものであるか、あるいは時期差を反映したものであるのか等について、周辺遺跡の資料も加えた詳細な分析と検討が必要であり、ここではその事実を指摘するにとどめ、今後検討すべき課題としたい。

また、イイダコ壺とみられる土器が出土している点も注目される。本遺跡は、海岸から約3km離れた標高200mの丘陵上に位置するが、海との関係は保持されていることを知る重要な資料である。なお、軽石も3点出土しているが、これも海との関わりを示す資料となろう。さらに、特徴的な土器として小型土器と呼称した土器がある。全長が10cm前後の小さな土器であるが、基本的に粘土紐巻き上げにより製作されており、通常の大きさの土器の製作技法を踏襲している。いわゆる手捏のミニチュア土器とは異なる土器である。水差し形土器や壺形土器、甕形土器、鉢形土器、高壺形土器などがあり、器種の面でも通常の大きさの土器に相当する器種が認められている。SH-202では11個体の小型土器が出土したが、2点を除く9点が上層埋土から出土しており、9点の器種は鉢形土器に限られる。これらは建物が廃棄された後に使用された様相が窺える。このほか、本遺跡では総数51点を数える小型土器が出土している。今回出土した土器を見る限りにおいては、内容物を知るような痕跡を認めることができず、用途については定かではない。イイダコ壺も含め鉄器製作との関係など今後検討すべき課題である。

さらに、注目すべき土器として、線刻絵画土器1点が出土している。器台か高壺の脚部裾に描かれている。絵の内容は不明であるが、出土した竪穴建物跡SH-206は他の建物跡と立地を異にする谷底に建てられた建物で、SH-206の用途について示唆を与えてくれる土器であろう。

また、そのほか特筆すべきも遺物として赤色顔料が付着した石器がある。詳細な成分分析の結果は、第VI章の報告にあるようにベンガラであることが確認された。弥生時代の石器に赤色顔料が付着する事実が確認された遺跡としては、二ツ石戎ノ前遺跡（洲本市）に次いで島内2例目となる。興味深い事実として、両遺跡で検出されたベンガラの粒子や構成元素の割合が極めて近いものであることがわかった。さらに、敲石への付着状況の特徴も非常に近いものであることが今回の報告で指摘されている。二ツ石戎ノ前遺跡の報告書（種定2003）では、島内での複数遺跡で構成される面的な存在の可能性が指摘されていたが、今回、島内での類例が1例増加したこととなる。それが、20kmの距離を隔てた五斗長垣内遺跡で確認されたことにより、相当な範囲での広がりが予測される。しかも、これら二つの遺跡がいずれも後期に出現し、古墳時代までに終焉を迎える丘陵部に立地する遺跡であり、淡路島にみられる弥生後期の集落動態の背景に鉄器や赤色顔料といった物資が関与した可能性を示唆する資料として注目される。

#### 4　まとめ

本遺跡は、初期段階の後期初頭においては石器製作に関わる建物が存在するが、次の段階では、それに代わって鍛冶作業に関わる建物が出現し、遺跡が終焉を迎える時期まで継続することが確認された。鍛冶作業に関わる遺構では、大型の建物が1～2棟と小型の建物が何棟か組み合わさる形で各時期に存在していたことが確認されており、それらが少しずつ場所を移しながら、一定のエリアで継続し続けた状況が認められる。言い換えれば、後期前半に始まった鍛冶作業が、一定のエリア内で、遺跡が終焉を

迎える後期末までの間、継続し続けていたもので、その間、鍛冶作業の工房空間として維持され続けた様相が窺えることになる。その中で出土した多様な鉄器類や石製工具類、さらには今回確認された炉の構造や建物の構成は、当時の鍛冶作業の様相やそれに関わる集落の構造を具体的に知ることができる重要な資料となろう。

また、鍛冶関連遺構の推移は、後期前半段階の出現期における大型建物を中心とする構成が、後半段階にも安定的に継続し、最終段階のⅤ期では鉄器の出土数も多く、多数の炉跡を有する最大規模の建物跡が出現するなど、本遺跡における最盛期を迎える。しかし、弥生時代の終末期に向かって急速に縮小するとともに、古墳時代には鍛冶遺構は勿論のこと、集落までも完全に姿を消してしまう。しかも、終焉はむしろ突然の感が否めない状況である。

淡路島の弥生時代に関しては、かねてより集落の動態について特徴的な動きが指摘されてきた。(岸本1998、伊藤2000ほか) 本章の冒頭にも述べたように、島北部の丘陵上を中心に後期の遺跡が急増し、その数は中期の約10倍にも達することが知られている。それらの遺跡は、弥生時代の終末に向かって急速に縮小し、古墳時代には全く姿を消してしまうといった動きを見せる。

今回の五斗長垣内遺跡では、その動きと軌を一にする集落の動向が確認されたわけであるが、その動きの中に、出現期の石器製作段階から鍛冶関連遺構の出現及びその後の推移を見ることができる。今回の調査成果は、本格的な鉄器の使用を指向する時代にあって、瀬戸内東端部地域における鉄器製作技術の伝播の時期やその様相、その後の展開を示す重要な資料を提供するものである。

## 参考文献

- 山田清朝ほか 1996 『下内膳遺跡』 兵庫県教育委員会  
岸本一宏 1998 『本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV』 兵庫県教育委員会  
森岡秀人 1999 「摂津における土器交流拠点の土器交流拠点の性格」『庄内式土器研究XXI』  
庄内式土器研究会  
伊藤宏幸 2000 「淡路島の弥生遺跡—北淡路を中心に—」 第107回考古学研究会関西例会発表資料  
森岡秀人 2003 「淡路型叩き甕」の提唱と摂津・環大阪湾をめぐる交流の一要素ー』『初期古墳と大和の考古学』 学生社  
種定淳介 2003 『二ツ石戎ノ前遺跡』 洲本市教育委員会 兵庫県教育委員会  
的崎 薫 2006 「邪馬台国時代の淡路島」『邪馬台国時代の阿波・讃岐・播磨と大和』 ふたかみ邪馬台国シンポジウム 2006 香芝市教育委員会 香芝市二上山博物館  
村上恭通 2007 『古代国家成立過程と鉄器生産』 青木書店

弥生土器観察表

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
1	Y0012	広口壺 A b	SH-202 上層	口径：14.0 器高：残存高4.4	10 体部と頸部の境は明瞭な屈折点をもたず、強く外反し、端部付近は水平となる。端部はわずかに上下に拡張し、外傾する面をもつ。端部に1条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ調整。	外：5YR4/6 赤褐 内：5YR5/6 明赤褐	
2	Y0011	短頸壺	SH-202 下層	口径：14.6	20 体部と頸部の境は明瞭な屈折点をもたず、ゆるやかに外反気味に立ち上がる頸部から、直線的に外上方へ開く口縁部。端部に直立する面を有し、2条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ調整。頸部外面は縦方向のハケ調整。	5YR6/6 橙	
3	Y0013	無頸壺	SH-202 中央土坑	口径：12.2 器高：残存高3.0	5 体部から屈折し、短く直立する口縁部。体部と口縁部の境に、小さな刺突文列を有する。内面は、体部上半までヘラケズリ。	5YR5/6 明赤褐	
4	Y0418	広口壺 C a 3	SH-202 中央土坑	口径：20.0 腹径：30.5 器高：37.4 底径：5.4	100 無花果形の体部で平底。頸部は屈折して直線的に立ち上がり、口縁部は大きく外反する。端部に拡張はなく、面を有する。口縁端部と肩部に竹管文を施す。体部外面は、丁寧なヘラミガキ調整を施す。	5YR7/6 橙	
5	Y0015	広口壺 C a 4	SH-202	口径：12.3 腹径：23.7 器高：22.4 底径：6.4	70 突出する平底に算盤玉形の体部。体部の最大径は中央部。体部と頸部の境は明瞭な屈折点をもたず、なだらかに外反する。口縁端部は丸く收める。外面はヘラミガキ、内面はハケ調整。	7.5YR6/4 にぶい橙	
6	Y0014	体部	SH-202 上層	横：4.3 器高：3.3	体部の破片。外面にヘラミガキの後、櫛描の波状文を施す。	10YR5/2 灰黄褐	
7	Y0032	底部	SH-202 上層	器高：残存高8.0 底径：7.2	20 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。外面は叩きの後、ヘラミガキ、内面は縦方向のハケ調整。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：5YR6/4 にぶい橙	
8	Y0034	底部	SH-202 上層	器高：8.3 底径：7.0	20 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。底部側面に、弱い指押さえ外面はハケ、内面はヘラケズリ調整。	外：10YR6/3 にぶい黄橙 内：7.5YR7/6 橙	
9	Y0051	底部	SH-202 下層	器高：7.3 底径：5.4	30 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。底部側面に指押さえ。	5YR6/6 橙	
10	Y0046	底部	SH-202 下層	器高：7.5 底径：5.8	20 中央部がやや凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面に叩きを残す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：10YR8/6 黄橙	
11	Y0045	底部	SH-202 下層	器高：残存高7.9 底径：6.4	20 平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。底部側面に指押さえ。外面は叩き、内面はハケ調整。	7.5YR5/3 にぶい褐	
12	Y0033	底部	SH-202 上層	器高：残存高9.5 底径：5.6	50 平底の底部から急角度で立ち上がる体部。底部側面に弱い指押さえ。外面は叩き、内面はハケ調整。	外：7.5YR6/3 にぶい褐 内：10YR6/3 にぶい黄橙	
13	Y0030	底部	SH-202 上層	器高：残存高6.7 底径：5.2	20 平底の底部から外上方へ直線的に立ち上がる体部。底部側面に弱い指押さえ。外面は叩きの後、ハケ調整。内面はナデ調整。	外：2.5YR6/6 橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
14	Y0044	甕 II 1	SH-202 下層	腹径：14.2 器高：16.1 底径：5.0	60 薄い平底の底部から急角度で立ち上がる体部。口縁部を欠く。最大径は体部中央や上方にある。外面は叩きの後、ハケ調整。内面はヘラケズリ。	外：7.5YR6/3 にぶい褐 内：10YR5/3 にぶい黄褐	
15	Y0031	底部	SH-202 上層	器高：残存高3.5 底径：5.5	10 平底の底部から外上方へ立ち上がる体部。外面は叩きの後ハケ調整。内面はヘラケズリ。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR2/1 黒 内：10YR6/4 にぶい黄橙	体部中央に 煤付着
16	Y0049	底部	SH-202 周壁溝内	器高：3.0 底径：3.8	10 突出する平底の小型の底部。底部側面に指押さえ。外面は叩き、内面はハケ調整。	5YR6/6 橙	
17	Y0041	甕 A a II 1	SH-202 上層	口径：21.0 器高：残存高4.7	5 張りの弱い肩部。「く」の字形に屈曲し、直線的に開く口縁部。端部に面を有し、1条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ。体部外面は、叩きの後ハケ調整。内面は口縁部直下までヘラケズリ。	外：7.5YR5/4 にぶい褐 内：7.5YR6/6 橙	
18	Y0042	甕 A a	SH-202 上層	口径：16.2 器高：残存高3.3	5 強く外反して開く口縁部。端部を上下につまみ出して拡張し、外傾する面を有する。口縁部は、ヨコナデ調整。	外：10YR6/2 灰黄褐 内：7.5YR6/3 にぶい褐	
19	Y0040	甕 A a I 1	SH-202 上層	口径：19.6 器高：残存高4.2	5 肩が張る体部から、「く」の字形に屈曲し、外反気味に開く口縁部。端部に面を有し、1条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ調整。体部は、内外面ハケ調整。	外：5YR5/3 にぶい赤褐 内：5YR6/6 橙	
20	Y0038	甕 A a I 1	SH-202 上層	口径：15.0 器高：残存高7.0	5 肩が張る体部から、屈曲し、外反して開く口縁部。端部にやや広めの面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面は、ナデあるいは細かいハケ調整。内面は、口縁部直下までヘラケズリを施す。	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR5/2 灰黄褐	
21	Y0026	甕 A a III 1	SH-202 下層	口径：16.5 腹径：17.1 器高：11.7	50 屈曲度合いが弱く、外反気味に開く口縁部。端部をわずかに上方へ摘み上げ、面を有する。最大径を体部上半に有する。口縁部はヨコナデ。体部外面は叩き、内面はヘラケズリ。	10YR5/2 灰黄褐	
22	Y0037	甕 C e I 1	SH-202 上層	口径：15.0 器高：残存高7・8	10 球形に近い体部から屈曲して開く口縁部。端部は丸く收める。口縁部は、ナデ調整で、指頭痕の凹凸を残す。体部外面は縦方向のハケ調整。内面はヘラケズリ。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：10YR6/3 にぶい黄橙	
23	Y0043	甕	SH-202 上層	口径：15.2 器高：残存高4.6	10 屈曲して直線的に開く口縁部。端部に面を有する。調整は観察不能。	外：7.5YR6/6 橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
24	Y0029	甕 III 2	SH-202 上層	腹径：19.2 器高：19.2 底径：5.4	40 突出する平底から直線的に立ち上がり、強く肩が張る体部。最大径を体部上半に有する。外面は叩き。内面はナデあるいは板ナデ調整。	外：7.5YR7/3 にぶい橙 内：10YR7/3 にぶい黄橙	
25	Y0035	甕 II 2	SH-202 上層	口径：13.0 器高：残存高18.9	40 張りの弱い肩部から外反気味に開く口縁部。端部は丸く收める。口縁部の調整は観察不能。体部外面は、叩きの後ハケ調整。内面はハケ調整、肩部に指押さえ。粘土紐の接合痕を認める。	外：2.5YR3/6 明赤褐 内：2.5YR3/4 暗赤褐	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
26	Y0028	甕 B e III 2	SH-202 上層	口径：14.0 器高：17.8 底径：5.4	80 わずかに上げ底気味の底部から立ち上がる張りの弱い体部。屈曲して直線的に外上方へ開く口縁部。端部は丸く收める。口縁部内面に横方向のハケ調整。体部外面に叩き。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：10R5/4 赤褐 内：2/5YR6/3 にぶい橙 2.5YR5/1 赤灰	二次焼成受ける
27	Y0027	甕 A a II 2	SH-202 中央土坑	口径：17.0 器高：29.5 底径：5.2	70 なで肩で長胴の体部から緩やかに外反し、外上方に立ち上がる口縁部を有する。端部に面を有し、1条の擬回線を施す。底部は突出する平底で、側面に指押さえ。口縁部は、ヨコナデ調整。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面は肩部に指押さえの痕跡を残し、それ以下はハケ調整。	外：5YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	
28	Y0025	甕 A a III 2	SH-202 下層	口径：20.6 器高：残存高13.8	50 強く肩の張る体部から屈曲し、「く」の字状に開く口縁部。端部に外傾気味の面を有し、1条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ調整。体部外面は叩き、内面はナデ調整を施すが、一部に粘土紐の接合痕を残す。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：5YR6/6 橙	
29	Y0039	甕 A a II 1	SH-202 上層	口径：35.8 器高：残存高10.8	10 締まりが弱い頸部の鉢に近い形状の大型の甕。屈曲して外上方に開く口縁部で、端部は水平に近い面を有し、1条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ。体部外面は叩きの後、肩部に縦方向のハケ調整。内面は口縁部直下に横方向のハケ調整を施し、それ以下はヘラケズリ。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
30	Y0006	鉢 A b 1	SH-202 下層	口径：21.0 器高：残存高5.9	30 内湾する体部から屈折して短く開く口縁部。端部に面を有する。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：2.5YR4/8 赤褐	
31	Y0005	鉢 A a	SH-202 上層	口径：17.0 器高：7.3 底径：4.8	40 突出した平底の底部から内湾気味に外上方に立ち上がる体部。口縁部は屈折して内湾気味に開く。端部は丸く收める。体部外面はハケ調整。	7.5YR7/6 橙	
32	Y0003	鉢 B a	SH-202 上層	口径：20.4 器高：8.7 底径：6.6	40 突出した平底の底部から内湾気味に外上方に立ち上がる体部。口縁部は丸く收める。体部外面は叩きが残る。	外：5YR6/6 橙 内：5YR5/4 にぶい赤褐	
33	Y0007	鉢 B b	SH-202 下層	口径：18.0 器高：残存高5.8 底径：3.4	100 中央がやや凹む突出した底部から内湾しながら大きく開き気味に立ち上がる浅い体部。口縁部はやや尖り気味。外表面はハケ調整、底部側面に指押さえ。	5YR5/6 明赤褐	
34	Y0036	鉢 B a	SH-202 下層	口径：14.8 器高：残存高9.3 底径：4.5	80 ドーナツ状の底部から急な角度で立ち上がる体部。口縁端部は丸く收める。外面は叩き調整。	外：2.5YR4/6 赤褐 内：5YR5/6 明赤褐	
35	Y0010	鉢 B b	SH-202 上層	口径：13.4 器高：7.9 底径：5.0	40 中央がわずかに凹む突出した底部から内湾気味に立ち上がる体部。端部は内傾する面を有する。外面、内面ハケ調整。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR6/6 橙	
36	Y0008	鉢 B b	SH-202 下層	口径：15.8 器高：残存高5.5 底径：3.7	100 中央がやや凹む突出した底部から内湾しながら大きく開き気味に立ち上がる浅い体部。口縁端部はやや尖り気味。外表面はハケ調整、底部側面に指押さえ。	外：5YR6/6 橙 5YR2/1 黒褐 内：5YR6/6 橙	
37	Y0009	鉢 B b	SH-202 上層	口径：15.0 器高：7.4 底径：4.9	90 中央部が凹み、外方向に踏ん張り気味に突出する底部。体部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸く收める。体部外面は叩きの後、ハケ調整。内面はハケ調整。底部は強い指押さえにより成形する。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR5/6 明褐	
38	Y0001	有孔鉢 D a	SH-202 上層	口径：16.4 器高：14.0 底径：2.4	100 小さな尖り気味の底部から急な角度で直線的に開く体部。端部は尖り気味。底部中央に直径8mmの円孔1穴を穿つ。外面は叩き。内面はハケ調整。	5YR6/6 橙	
39	Y0002	有孔鉢 D a	SH-202 上層	器高：7.7 底径：4.8	40 突出した平底の底部から直線的に開く体部。底部中央に長径13mm、短径8mmの楕円孔1穴を穿つ。外面は叩きの後、ハケ調整。内面はハケ調整。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
40	Y0022	高坏脚部	SH-202 上層	器高：残存高6.7	50 中空で細い脚柱部。外面はヘラミガキ調整。坏部との接合は挿入付加法。	7.5YR6/6 橙	
41	Y0020	高坏脚部	SH-202 下層	器高：残存高7.7	30 細い中空の脚柱部。4または5方向に縦長楕円形の透孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整。	7.5YR6/4 にぶい橙	
42	Y0016	器台脚部	SH-202	器高：残存高12.4 底径：15.0	50 直線的に開いた後、裾端部がわずかに外反する。端部に面を有し、1条の擬回線を施す。受部の開きは急角度である。外面はヘラミガキ、内面は横方向のハケ調整を認める。	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
43	Y0021	器台脚部	SH-202 上層	器高：残存高7.4	30 直線的に開く脚部。4方向に円形の透孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整を施す。	5YR6/6 橙	
44	Y0019	器台脚部	SH-202 上層	器高：残存高8.1	40 短い柱状の脚部から屈折して開く裾部を有する。3方向に縦長楕円形の透かし孔を穿つ。受部との境に2本のヘラ描き沈線を巡らせる。外面はヘラミガキ調整。	5YR5/6 明赤褐	
45	Y0018	器台脚部	SH-202 下層	器高：残存高8.6	40 柱状の脚部から屈曲して開く裾部を有する。4方向に縦長楕円形の透孔を穿つが、貫通していない穴を認める。受け部との境に2本のヘラ描き沈線を巡らせる。外面はヘラミガキ調整。	外：2.5YR4/6 赤褐 内：2.5YR5/6 明赤褐	
46	Y0017	器台脚部	SH-202 下層	器高：11.6 底径：19.5	70 柱状の脚部から屈曲して水平に近い角度で大きく開く裾部。裾端部は面を有する。脚柱部と裾部の2段、5方向に縦長楕円形の透孔を穿つ。受け部との境に6本のヘラ描き沈線、裾部に1条の擬回線を巡らせる。外面はヘラミガキ調整、裾端部付近はヨコナデ調整。脚柱部上半の内面は横方向のヘラケズリを施す。	2.5YR5/6 明赤褐	
47	Y0024	蓋	SH-202 下層	器高：残存高5.7	60 外反しながら大きく開く。頂部は平坦な面を有する。外面は縦方向のハケ調整。内面は横方向のハケ調整。	外：2.5YR4/6 赤褐 内：2.5YR5/6 明赤褐	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
48	Y0023	蓋	SH-202 上層	口径：16.4 器高：残存高8.6	80 中央部がわずかに突出する頂部から、わずかなくびれをもつて、外反気味に大きく開き、端部付近は水平になる。端部は面を有する。外面はヘラミガキ。端部付近はヨコナデ調整。	5YR4/6 赤褐	
49	Y0202	小型土器 鉢	SH-202 上層	器高：残存高3.6 底径：4.4	70 周囲が外方向へ踏ん張り気味に突出する上げ底気味の底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：10YR5/2 灰黄褐	
50	Y0201	小型土器 鉢	SH-202 上層	器高：3.4 底径：3.4	40 突出した底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。	5YR5/4 にぶい赤褐	
51	Y0208	小型土器 鉢	SH-202 上層	器高：残存高2.2 底径：2.4	40 突出した底部から、内湾気味に立ち上がる体部を有する。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。	内外：7.5YR6/6 橙	
52	Y0206	小型土器 鉢	SH-202 上層	器高：残存高4.7	40 周囲が外方向へ踏ん張り気味に突出する底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。	5YR6/6 橙	
53	Y0200	小型土器 鉢	SH-202 上層	口径：6.6 器高：5.7 底径：3.4	90 平底の底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。口縁端部は丸く收める。外面はナデ調整。内面はハケ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕が残る。体部に粘土紐の接合痕を残す。	7.5YR6/4 にぶい橙・ 7.5YR5/1 褐灰	
54	Y0203	小型土器 鉢	SH-202 上層	器高：残存高2.8 底径：3.2	40 突出した底部から、内湾気味に立ち上がる体部を有する。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR6/3 にぶい褐	
55	Y0199	小型土器 鉢	SH-202 上層	口径：6.6 器高：残存高5.5 底径：5.6	80 突出した底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。口縁端部は丸く收める。内外面はナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕が残る。体部に粘土紐の接合痕を残す。	10YR4/2 灰黄褐	
56	Y0207	小型土器 鉢	SH-202 上層	口径：6.2 器高：残存高6.0 底径：3.8	90 周囲が外方向へ踏ん張り気味に突出する上げ底気味の底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。口縁端部は丸く收める。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。	5YR6/6 橙	
57	Y0204	小型土器 鉢	SH-202 下層	口径：8.5 器高：残存高5.4 底径：3.2	90 中央部がわずかに凹む突出した底部から内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。口縁部は屈折して大きく開き、端部は尖り気味になる。内外面ナデ調整。底部は指押さえ成形により側面に指頭痕を残す。体部には粘土紐接合痕を残す。	外：2.5YR5/6 明赤褐・ N1.5/ 黒 内：5YR5/6 赤褐・ 5YR2/1 黒褐	
58	Y0004	小型土器 甕	SH-202 床面直上	器高：残存高9.5 底径：3.2	80 平底の底部から斜め上方へ直線的に立ち上がる体部。口縁部は屈折してわずかに開く。端部は欠損する。体部外面は叩き、内面はハケ調整。	5YR4/6 赤褐	
59	Y0205	小型土器 水差	SH-202 下層	口径：5.0 器高：残存高9.7 底径：2.7	90 中央部がわずかに凹む底部に球形に近い体部。短くわずかに開く口縁部を有する。体部には縦方向に取り付けられた把手の痕跡が残る。底部には、横方向に貫通する一本の穿孔が穿たれる。外面はヘラミガキ。内面は口縁部に横方向へのハケ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
60	Y0063	甕 A a II 2	SH-203 上層	口径：15.8 腹径：17.4 器高：10.9	10 張りの弱い肩部から外反気味に開く口縁部。端部は面を有し、1条の擬回線を施す。口縁部はヨコナデ調整。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面はナデ調整を施し、肩部に粘土紐接合痕を残す。	10YR5/1 褐灰	
61	Y0064	甕 B c III 2	SH-203 上層	口径：23.4 器高：残存高7.5	10 強く肩の張る体部から屈曲し、「く」の字状に開く口縁部。口縁端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面はナデ、内面は横方向のハケ調整。体部外面は叩き、内面は板ナデ調整を施す。一部に粘土紐の接合痕を残す。	5YR6/6 橙	
62	Y0057	底部	SH-203 下層	器高：残存高7.0 底径：4.6	20 中央部が凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。体部外面はナデ調整を施すが、粘土紐接合痕を残す。内面はハケ調整。底部は側面には指押さえ痕跡が残る。	外：5YR3/6 暗赤褐 内：5YR4/4 にぶい赤褐	
63	Y0058	底部	SH-203 上層	器高：残存高3.9 底径：5.0	20 中央部が凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。体部内外面をナデ調整。底部外面をヘラケズリし、凹ませる。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：10YR7/4 にぶい黄橙	
64	Y0056	底部	SH-203 上層	器高：残存高6.0 底径：4.4	20 ドーナツ状に中央が凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面はナデ調整。内面は底部付近に蜘蛛の巣状の工具痕を残し、体部は縦方向のハケ調整。	7.5YR6/6 橙	
65	Y0060	小型土器 甕	SH-203 下層	器高：残存高9.2 底径：3.9	90 歪みをもった平底底部から急な角度で立ち上がる体部。屈曲して口縁部に至るが、口縁部は欠損する。体部外面は叩きの後ナデ調整を施すが、底部付近に叩き痕跡を残す。内面はナデ調整で、粘土紐接合痕を残す。	5YR6/6 橙	
66	Y0059	短頸壺	SH-203	口径：8.0 器高：残存高3.7	5 直線的に立ち上がる口縁部。端部は丸く收める。外面に、4条の浅い沈線、体部との境に刺突文列を施文する。外面は縦方向のヘラミガキ。	5 YR6/6 橙	
67	Y0062	底部	SH-203 床面溝	器高：残存高2.6 底径：4.2	10 平底の底部。横方向に貫通する一本の穿孔が穿たれる。外面はヘラミガキ。	外：5YR5/6 明赤褐 内：2.5YR 明赤褐	
68	Y0061	底部	SH-203 上層	器高：残存高4.5 底径：5.2	10 平底の底部から外上方へ直線的に立ち上がる体部。体部内外面、ヘラケズリを施す。	7.5YR6/6 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
69	Y0065	底部	SH-203 上層	器高：残存高3.8 底径：6.0	10 薄い平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面ナデ調整。内面ヘラケズリ調整を施す。	7.5YR にぶい橙	
70	Y0054	鉢 B b	SH-203 上層	口径：16.0 器高：残存高7.5 底径：3.8	90 中央がわずかに凹む突出した底部から内湾気味に立ち上がる体部。端部は丸く收める。外面はナデ調整。内面ハケ調整。	5YR6/6 橙	二次焼成受け る
71	Y0052	鉢 A b 1	SH-203 下層	口径：24.0 器高：残存高11.5	40 内湾する体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有し、1条の擬凹線を施す。内外面ヘラミガキ調整。	7.5YR6/6 橙	二次焼成受け る
72	Y0055	鉢 A b 1	SH-203 上層	口径：17.6 腹径：13.3 器高：8.8 底径：4.8	80 突出する平底の底部から内湾して立ち上がる体部。口縁部は、屈折して短く外反する。端部に面を有する。	外：7.5YR7/6 橙 内：5YR7/6 橙	二次焼成受け る
73	Y0053	鉢 A a	SH-203 下層	口径：23.7 器高：9.7 底径：5.2	50 突出した平底の底部から直線的に外上方に立ち上がる体部。口縁部は屈折して内湾気味に開く。端部は面を有するが、稜線は不明瞭。体部外面は叩きの後ヘラミガキを施すが、底部付近に叩きを残す。内面はヘラミガキ調整であるが、いずれも調整は粗い。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：10YR8/3 浅黄橙	
74	Y0066	脚部	SH-203 上層	器高：残存高5.5 底径9.8	30 「ハ」の字状に外反しながら短く開く、中空の脚部。端部は面を有する。5方向の円形の透孔を穿つ。体部との接合は円盤充填技法を用いる。外面はヘラミガキ調整。	5YR6/6 橙	
75	Y0069	広口壺	SH-204 上層	口径：26.2 器高：残存高3.6	5 外上方に直線的に開く口縁部。端部は垂下し、内傾する面を有する。端部に烈点文を施す。口縁端部はヨコナデ調整。	7.5YR6/6 橙	
76	Y0068	甕 A a I 1	SH-204 下層	口径：20.0 器高：残存高4.7	10 肩の張る体部から屈曲して短く開く口縁部。上下わずかに拡張する端部は面を有し、2条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部外面はハケ調整、内面はヘラケズリを施す。	外：2.5YR4/6 赤褐 内：2.5YR4/4 にぶい赤褐	
77	Y0075	円盤状土製品	SH-204 上層	口径：(横) 3.0 器高：(縦) 2.6		7.5YR6/6 橙	
78	Y0074	把手	SH-204 上層	口径：(厚み) 1.4 器高：(全長) 3.4	5 曲がりが強く、小型の土器の把手か？	5YR6/6 橙	
79	Y0073	把手	SH-204 上層	口径：(太さ) 2.7 器高：(全長) 3.9	5 接合部は挿入した痕跡が残る。水差し形土器の把手か？	7.5YR6/6 橙	
80	Y0076	小型土器 脚部	SH-204 上層	器高：残存高3.4	10 底部がわずかに凹み、中実で底脚。指押さえによる成形痕を認める。	10YR7/4 にぶい黄橙	
81	Y0067	壺	SH-204 下層	腹径：24.2 器高：残存高21.6 底径：6.5	90 平底の底部に球形の体部を有する。口縁部は欠損。外面はヘラミガキ。内面は頸部近くまでヘラケズリを施す。内面肩部付近に粘土紐接合痕を残す。	外：7.5YR5/2 灰褐 内：5YR6/6 橙	
82	Y0072	脚部	SH-204 上層	器高：残存高11.2 底径：13.4	30 外反気味に開く中空の脚部。開きは弱い。端部は丸く收め、裾部に2個1組の円形の透孔を3方向に計6個穿つ。脚柱部外面には、4条のヘラ描き沈線を巡らせる。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR7/6 橙	
83	Y0097	底部	SH-205	器高：残存高2.9 底径：2.2	10 中央部が凹む底部。体部の立ち上がりはやや開き気味。底部側面に指押さえの痕跡が残る。	5YR6/6 橙	小型土器の 可能性。
84	Y0085	底部	SH-205	器高：3.3 底径：3.2	20 中央部がやや凹む底部。体部の立ち上がりはやや開き気味。外面はヘラミガキ。内面は板ナデ調整。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
85	Y0070	底部	SH-205	器高：3.3 底径：4.3	10 平底の底部。外面は叩き。内面はハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡。	外：2.5YR6/6 橙 内：7.5YR7/6 橙	
86	Y0071	底部	SH-205	器高：2.2 底径：4.8	10 中央部がやや凹む底部。体部外面は叩き。内面はヘラケズリ。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：10YR4/1 褐灰	
87	Y0086	底部	SH-205	器高：残存高4.0 底径：4.8	10 ドーナツ状に中央が凹む底部。体部は急な角度で直線的に立ち上がる。外面はハケ調整。	外：5YR6/6 橙 内：5YR6/8 橙	
88	Y0087	底部	SH-205	器高：5.5 底径：6.7	10 中央部が大きく凹み、周囲が突出し、外方に強く踏ん張る底部。体部は急な角度で直線的に立ち上がる。外面はナデ調整。内面は板ナデ調整。底部に指押さえの痕跡。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：10YR5/3 にぶい黄橙	
89	Y0091	底部	SH-205	器高：2.9 底径：3.4	10 中央部がやや凹む底部。外面はナデ。内面は板ナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡。	5YR6/6 橙	
90	Y0089	底部	SH-205	器高：残存高3.7 底径：5.5	10 突出する平底の底部。内湾気味に立ち上がる体部。外面はハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡。	外：5YR6/6 橙 内：5YR5/1 褐灰	
91	Y0088	底部	SH-205	器高：残存高5.2 底径：4.3	20 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。内外面、ナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
92	Y0084	広口壺	SH-205	腹径：14.5 器高：7.5	20 外傾気味に立ち上がる頸部から屈折して直線的に開く口縁部へ移行する。口縁部は欠損。外面はヘラミガキ。頸部内面は横方向のハケ調整。肩部に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
93	Y0092	甕 II 1	SH-205 床面直上	器高：8.2	5 肩の張る体部から「く」の字状に開く口縁部。端部は欠損する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面は肩部までヘラケズリを施す。	7.5YR6/6 橙	
94	Y0082	鉢 B a	SH-205 床面直上	口径：13.0 器高：残存高7.1 底径：4.2	90 ドーナツ状に中央部がわずかに凹む底部から直線的に開く体部。口縁部は丸く收める。内外面ナデ調整。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
95	Y0078	鉢 B b	SH-205 壁溝	口径：16.2 器高：9.2 底径：5.0	80 ドーナツ状に中央部が凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁部は丸く收める。外面ナデ調整。内面は板ナデ調整。	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/8 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
96	Y0081	鉢 A a	SH-205 床面直上	口径: 22.0 器高: 8.0 底径: 5.6	40 突出した平底の底部から大きく立ち上がる体部。口縁部は、かすかに屈折し、外傾する。端部は丸く收める。外面は叩きの後ナデ調整。内面はナデ調整。体部から口縁部にかけて、粘土紐接合痕が残る。	7.5YR6/6 橙	
97	Y0080	鉢 A a	SH-205 中央土坑	口径: 18.4 器高: 9.8 底径: 4.4	50 中央部が突出気味で丸みを帯びる底部。体部は急な角度で直線的に立ち上がり、わずかに屈折して外傾する口縁部を有する。端部は面を有する。内外面へラミガキ調整。	2.5YR6/6 橙	
98	Y0096	小型土器 鉢	SH-205	口径: 8.6 器高: 6.6 底径: 3.5	60 平底の底部から、内湾気味に急角度で立ち上がる球形に近い体部を有する。外面ナデ調整。内面はハケ調整を施す。底部は指押さえ成形により側面に指痕を残す。	5YR4/1 褐灰	
99	Y0077	台付無頸壺	SH-205 床面直上	口径: 8.9 器高: 23.1 底径: 12.6	90 球形の体部から屈曲して短く立ち上がる口縁部。端部は丸く收める。肩部に1列の刺突文列と不規則な波状文を施す。脚部は、中空の脚柱部から大きく開く裙部を有し、端部は上方へ拡張気味の外傾する面を有する。裙部に円形の透かし孔を4方向に穿つ。外面はヘラミガキ調整。	外: 5YR6/6 橙 内: 2.5YR6/8 橙	
100	Y0079	広口壺	SH-205 床面直上	口径: 9.8 器高: 11.8 底径: 3.3	100 無花果形の体部で、中央部がやや凹む底部。短く直立する頸部から口縁部は外反気味に開く。端部は面を有し、ヘラ状工具による刻みを施す。肩部に小さな穴が1孔穿たれる。	外: 5YR6/6 橙 内: 7.5YR5/3 にぶい褐	
101	Y0093	高坏 A 1	SH-205	口径: 25.0 器高: 残存高3.6	5 坏部から屈折して外上方に直線的に開く口縁部。端部は面を有する。内外面へラミガキ調整。	外: 5YR6/6 橙 内: 7.5YR6/6 橙	
102	Y0095	高坏 B 1	SH-205	口径: 17.4 器高: 3.3	5 椀形の坏部。内湾しながら外上方に伸びる口縁部。端部は外傾する面を有する。外面はヘラミガキ調整。内面は観察不能。	5YR6/6 橙	
103	Y0094	脚部	SH-205 中央土坑	器高: 残存高2.2 底径: 23.0	10 水平に近い角度で直線的に開く裙部。端部は面を有する。外面に格子に描かれた鋸歯文を施す。	外: 5YR6/8 橙 内: 10YR5/6 黄褐	
104	Y0112	広口壺 C b 3	SH-206	口径: 20.4 器高: 残存高3.0	10 外上方に直線的に開いた後、端部に向かって外反して水平に開く。端部は上下に拡張し、面を有する。端面に2条の擬回線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。	外: 2.5YR5/6 明赤褐 内: 2.5YR6/8 橙	
105	Y0119	甕 A a I 1	SH-206	口径: 17.0 器高: 残存高7.2	10 肩の張る体部から「く」の字状に開く口縁部。端部に面を有し、2条の擬回線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部外面はハケ調整。内面は肩部までヘラケゼリを施す。	外: 5YR6/8 橙 内: 7.5YR7/4 にぶい橙	
106	Y0123	甕 B d II 2	SH-206	口径: 17.6 器高: 7.7	10 綺麗が弱い頸部から屈折して外上方に開く口縁部。端部は面を有する。口縁部は外面を縱方向のハケ、内面を横方向のハケ調整で仕上げる。体部は外面に叩きの後、ハケ調整。内面はハケ調整を施す。	外: 5YR5/3 にぶい赤褐 内: 10YR4/1 褐灰	
107	Y0193	壺	SH-206	口径: (横) 3.2 器高: (縦) 3.0	5 小型の体部の破片。肩部とみられる箇所に、2条の沈線と鋸歯文の一帶とみられるヘラ描き文様が施される。	外: 5YR6/6 橙 内: 7.5YR5/4 にぶい褐	
108	Y0122	甕 A a I 2	SH-206 床面直上	口径: 17.0 器高: 残存高6.3	10 屈曲して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面はハケ調整を施す。内面は肩部に指押さえの痕跡を認め、粘土紐の接合痕を残す。	外: 2.5Y7/3 浅黄 内: 2.5YR4/8 赤褐	
109	Y0102	甕 C e III 2	SH-206	口径: 14.0 器高: 残存高10.5	20 肩の張らない体部から、口縁部は指で外方へ折り曲げて整形する。端部は尖り気味になり、内外面に指押さえの凹凸が明瞭に残る。体部外面は叩き、内面はハケ調整で仕上げるが、内外面に粘土紐の接合痕を残す。	外: 10YR7/4 にぶい黄橙 内: 7.5YR7/6 橙	
110	Y0103	底部	SH-206 床面直上	器高: 7.6 底径: 4.5	20 ドーナツ状に中央部がわざかに凹む底部から直線的に開く体部。体部外面はナデ調整、内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を認める。底部に歪みあり。	外: 5YR7/6 橙 内: 5YR6/6 橙	
111	Y0391	底部	SH-206	器高: 残存高7.8 底径: 5.2	30 中央部がわざかに凹む底部から直線的に開く体部。体部外面はハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 5YR6/8 橙 内: 7.5YR6/8 橙	
112	Y0101	底部	SH-206 床面直上	器高: 8.8 底径: 5.5	30 突出する平底の底部から急な角度でやや内湾気味に立ち上がる体部。体部外面は叩き、内面はハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 10YR5/2 灰黄褐 内: 10YR6/4 にぶい黄橙	
113	Y0126	底部	SH-206 床面直上	器高: 残存高7.8 底径: 4.8	20 中央がわざかに凹む底部から急な角度でやや内湾気味に立ち上がる体部。体部外面底部付近にヘラケゼリ、それ以上をハケ調整。内面はヘラケゼリを施す。	外: 5YR4/3 にぶい赤褐 内: 5YR4/8 赤褐	
114	Y0120	底部	SH-206	器高: 残存高5.4 底径: 5.2	10 突出する平底の底部から開き気味に立ち上がる体部。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面はヘラケゼリを施す。	外: 5YR5/4 にぶい赤褐 内: 2.5YR5/6 明赤褐	
115	Y0105	底部	SH-206 床面直上	器高: 4.3 底径: 5.5	10 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。体部と底部の境にくびれを有する。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面はヘラケゼリを施す。	外: 7.5YR7/4 にぶい橙 内: 7.5YR7/6 橙	
116	Y0121	底部	SH-206	器高: 3.1 底径: 7.0	10 突出する平底の底部。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 7.5YR6/6 橙 内: 5YR7/8 橙	
117	Y0420	底部	SH-206 PP-01	器高: 残存高4.6 底径: 5.4	20 ドーナツ状に中央部がわざかに凹む底部から直線的に外上方へ立ち上がる体部。外面は叩きの後、ハケ調整。内面は板ナデ調整で仕上げる。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 2.5YR5/4 明赤褐 内: 5YR5/4 にぶい赤褐	
118	Y0118	底部	SH-206	器高: 残存高3.7 底径: 4.4	20 突出する平底の底部から外上方へ立ち上がる体部。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面はヘラケゼリを施す。	内外: 5YR5/6 明赤褐	
119	Y0422	底部	SH-206 中央土坑	器高: 残存高2.9 底径: 4.8	10 平底の底部。体部外面はハケ調整。内面は板ナデを施す。	5YR6/6 橙	
120	Y0090	底部	SH-206	器高: 残存高3.5 底径: 5.2	10 平底の底部から急な角度で外上方へ直線的に立ち上がる体部。体部は内外面ハケ調整。	外: 7.5YR6/4 にぶい橙 内: 7.5YR5/3 にぶい褐	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
121	Y0125	底部	SH-206 床面直上	器高: 2.7 底径: 5.0	10 平底の底部から大きく開き気味に立ち上がる体部。体部は外側ハケ調整。内面はナデ調整。	5YR6/6 橙	
122	Y0127	底部	SH-206	器高: 残存高4.2 底径: 4.4	10 中央部がわずかに凹む平底の底部から急な角度で直線的に立ち上がる体部。外側は叩き。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	2.5YR4/8 赤褐	
123	Y0113	底部	SH-206 床面直上	器高: 残存高4.1 底径: 2.6	20 平底の小さめの底部から大きく開き、内湾気味に立ち上がる体部。外側は叩きの後、ナデ調整。	外: 5YR5/8 明赤褐 内: 5YR5/6 明赤褐	
124	Y0111	底部	SH-206	器高: 4.2 底径: 2.5	20 平底の小さめの底部から急な角度で立ち上がる体部。底部側面に指押さえの痕跡を認めるほか、観察不能。	2.5YR5/6 明赤褐	小型土器の可能性あり。
125	Y0115	底部	SH-206 床面直上	器高: 残存高3.0 底径: 3.4	10 平底の底部から急な角度で立ち上がる体部。体部は、外側ハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
126	Y0114	底部	SH-206 床面直上	器高: 残存高3.7 底径: 3.3	20 ドーナツ状に中央部がわずかに凹む底部から急な角度で立ち上がる体部。体部外側はナデ調整。	外: 5YR6/6 橙 内: 5YR6/8 橙	
127	Y0419	底部	SH-206 周壁溝	器高: 残存高3.2 底径: 3.9	10 突出する平底の底部から開き気味に立ち上がる体部。体部外側はハケ調整。内面はヘラケズリを施す。底部側面をヘラ状工具で横方向に器面調整。	外: 2.5YR4/6 赤褐 内: 2.5YR5/6 明赤褐・N1.5 黒	
128	Y0124	底部	SH-206	器高: 残存高2.5 底径: 5.4	10 突出する平底の底部から開き気味に立ち上がる体部。底部内面と側面に明瞭な指押さえの痕跡を残す。	2.5YR4/4 にぶい赤褐	
129	Y0116	底部	SH-206	器高: 残存高2.0 底径: 2.8	20 平底の小さめの底部。調整痕の観察不能。	外: 10YR7/6 明黄褐 内: 5YR7/6 橙	
130	Y0117	小型土器 甕	SH-206 床面直上	器高: 5.3 底径: 3.0	20 平底の底部から急な角度で立ち上がる体部。体部外側は叩き。内面はナデ調整。	外: N2/ 黒 内: 7.5YR5/6 明褐	
131	Y0106	小型土器 甕	SH-206	口径: 7.4 腹径: 7.7 器高: 9.7 底径: 3.2	100 縦まりが弱い頸部から屈折して外上方にわずかに外反して開く口縁部。端部は丸く收める。底部は中央部がわずかに凹む平底。口縁部はヨコナデ調整。体部内面の一部にハケ調整が残る。外側は観察不能。	5YR6/6 橙	
132	Y0110	鉢 B a	SH-206	口径: 13.8 器高: 4.4	20 直線的に開く体部で、端部は丸く收める。外側はヘラミガキ。内面はヘラケズリ調整を施す。	2.5YR5/8 明赤褐	脚部の可能性あり。
133	Y0104	鉢 A a	SH-206	口径: 25.4 器高: 6.1	10 内湾気味の体部から、口縁部はわずかに屈折して開くが、屈折度合いは極めて弱い。口縁端部は直立する面を有する。口縁部屈折点付近外側に指押さえの痕跡を残し、口縁端部はヨコナデ調整を施す。体部外側は叩き。体部内面から口縁部にかけて、横方向のハケ調整。	外: 7.5YR5/3 にぶい褐 内: 10YR にぶい黄橙	
134	Y0423	鉢	SH-206 PP-04	口径: 24.0 器高: 残存高2.6	10 短く外反する口縁部。端部に面を有する。内外面に指押さえの痕跡を残す。	10R5/8 赤	
135	Y0109	鉢 A b 1	SH-206	口径: 27.8 器高: 5.2	10 内湾気味の体部から、屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有し、1条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整の後、体部外側から一体にヘラミガキ調整を施す。体部内面は、ヘラミガキ調整。	外: 7.5YR6/6 橙 内: 5YR6/6 橙	
136	Y0421	蓋	SH-206 PP-05	器高: 残存高7.4 底径: 4.2	80 丸みを帯びる頂部から、外反して大きく開く体部。頂部は、上方からの押さえで角が丸みを帯びる。外側に指押さえの痕跡を残す。体部の調整は観察不能。	10YR8/4 浅黄橙 5YR7/6 橙 10YR6/2 灰黄褐	
137	Y0099	高壺 B 2	SH-206 床面直上	口径: 14.9 器高: 残存高12.0 底径: 11.5	90 浅めの椀形の壺部。口縁部は短く直立し、外側に2条の擬凹線を巡らす。中実の脚柱部から外反して開く脚部。端部は丸く收める。脚部に4方向の円形の透孔を穿つ。口縁部及び脚柱部はヨコナデ調整。壺部の内外面と脚部外側をヘラミガキ調整で仕上げる。	外: 5YR5/6 明赤褐 内: 5YR6/6 橙	
138	Y0107	器台	SH-206	口径: (横) 3.3 器高: (縦) 2.0	5 下方に垂下する口縁部。外面上部に1条の擬凹線、その下方に鋸歯文を施文する。	7.5YR6/6 橙	
139	Y0108	器台	SH-206	口径: (横) 3.2 器高: (縦) 2.0	5 下方に垂下する口縁部。外面上部に鋸歯文を施文する。	5YR7/8 橙	
140	Y0244	脚部	SH-206	器高: 残存高3.9 底径: 22.0	5 外反度合いの弱い脚部。端部に面を有する。透孔を有するが、形状や数は不明。外側にヘラ描きによる線刻絵画が描かれるが、内容は不明。端部はヨコナデ調整。外側は丁寧なヘラミガキで仕上げる。	7.5YR5/4 にぶい褐	線刻絵画土器
141	Y0098	高壺 B 1	SH-206 床面直上	口径: 21.4 器高: 残存高16.7 底径: 16.3	70 椀形の壺部。口縁部は丸く收める。「ハ」の字形に開く中空の脚部で外反度は弱く、端部は面を有する。脚部に4方向の縦長楕円形の透孔を穿つ。壺部との接合には円盤充填技法を用いる。口縁部及び脚柱部はヨコナデ。壺部内外面および脚部外側はヘラミガキ調整を施すが、調整は粗い。脚柱部内面は横方向のヘラケズリ、裾部は横方向のハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
142	Y0100	器台 B a	SH-206 床面直上	口径: 19.1 器高: 残存高15.2 底径: 17.2	90 「ハ」の字形に開く中空の脚部から外気味に開く受部。脚部の外反度合いは弱い。受部内面に1条のヘラ描きによる波状文を巡らす。口縁端部と脚柱部は面を有し。前者は1条、後者は2条の擬凹線を巡らす。脚部に4方向の縦長楕円形の透孔を穿つ。口縁部及び脚柱部はヨコナデ。受部内外面および脚部外側はヘラミガキ調整を施すが、調整は粗い。脚柱部内面は横方向のヘラケズリ、裾部は横方向のハケ調整を施す。	2.5YR5/6 明赤褐	
143	Y3003	甕 B d	SH-301	口径: 22.2 器高: 残存高3.9	5 縦まりが弱い頸部から緩やかに外反して外上方に開く口縁部。端部は内傾する面を有する。口縁から頸部外側には指押さえと縦方向のハケ、内面を横方向のハケ調整で仕上げる。	5YR6/6 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
144	Y3009	底部	SH-301 下層	器高：残存高3.9 底径：4.8	5 平底の底部から開き気味に立ち上がる体部。体部外面は丁寧なヘラミガキ。内面はハケ調整で仕上げる。	外：5YR6/6 橙 N1.5/0 黒 内：7.5Y2/1 黒	
145	Y3006	底部	SH-301 下層	器高：残存高4.8 底径：6.8	10 中央部がわずかに凹む平底の底部から急な角度で直線的に立ち上がる体部。外面は叩き、内面は板ナデ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR6/6 橙 内：10YR5/2 灰黄褐	二次焼成受け る
146	Y3002	高坏 A 1	SH-301	器高：残存高1.8	5 内湾気味に開く坏底部から屈折して外反しながら立ち上がる口縁部。端部を欠損する。口縁外面下部に1条の擬回線を巡らす。口縁部内外面をヨコナデ、坏底部内外面をヘラミガキ調整を施す。	2.5YR5/8	
147	Y3005	脚部	SH-301 下層	底径：10.8 器高：残存高2.9	5 「ハ」の字形に開く小型の脚部。端部は丸く收める。脚部に円形の透孔を穿つ。外面をヘラミガキ。内面をハケ調整で仕上げる。	5YR6/6 橙	
148	Y3004	鉢 B b	SH-301 下層	口径：8.0 器高：残存高3.6	5 内湾した体部から直立する口縁部。端部は尖り気味となる。内外面ナデ調整。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：2.5Y6/2 灰黄	小型土器の可 能性あり。
149	Y3008	器台 B b	SH-301	口径：32.2 器高：2.7	10 下方に垂下する口縁部。外面に4条の擬回線を巡らす。内外面に丁寧なヘラミガキ調整を施す。	7.5YR6/4 にぶい橙	搬入土器
150	Y3013	高坏脚部	SH-301 床面直上	器高：残存高7.0	20 中実の脚柱部。脚部に円形の透孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整。坏部との接合は挿入付加法。	5YR5/6 明赤褐	
151	Y3012	高坏脚部	SH-301 下層	器高：残存高10.8 底径：21.4	40 中実の脚柱部から強く外反し、大きく開く脚部。脚柱部には中空化を指向するように、上方から円形の穴を穿つが、貫通はしない。脚端部は丸く收め、外面に2条の擬回線を巡らす。脚部に5方向の円形の透孔を穿つ。外面は丁寧なヘラミガキを施すが、裾部付近の一部にハケ調整を認める。脚柱部内面はヘラ状工具による調整痕を残し、裾部はナデ調整で仕上げる。	7.5YR7/3 にぶい橙	
152	Y3059	広口壺 B a 1	SH-302 床面直上	口径：16.0 器高：残存高2.4	5 短く外反する口縁部。端部に面を有する。外面ナデ調整。内面ヨコ方向のハケ調整。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：10YR7/4 にぶい黄橙	
153	Y3062	広口壺	SH-302 下層	口径：18.8 器高：残存高2.1	5 外上方に直線的に開く口縁部。端部をわずかに拡張し、端面に2条の擬回線を巡らす。調整は観察不能。	5YR6/8 橙	
154	Y3019	広口壺 C b 3	SH-302 上層	口径：23.4 器高：残存高2.4	10 外反しながら開いた後、端部を下方に垂下させる口縁部。端面に格子に描かれた鋸歯文を施す。内面に横方向のハケ、外面に縦方向のハケ調整を施し、端部はヨコナデ調整で仕上げる。	外：7.5YR6/6 橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
155	Y3044	広口壺 C b 3	SH-302 下層	口径：19.2 器高：2.8	10 外上方に立ち上がった後、外反しながら開く口縁部で、端部は下方に垂下させるとともに、若干上方へ摘み上げる。端部に5条の擬回線を巡らす。内外面ともにヘラミガキ調整。	7.5YR6/6 橙	
156	Y3043	二重口縁壺	SH-302 下層	口径：24.8 器高：残存高1.7	5 外上方に開いた後、屈折して短く外反するいわゆる二重口縁壺。屈折箇所に1条の擬回線を巡らし、端部は面を有する。	10R5/8 赤	二次焼成受け る
157	Y3023	広口壺 C b 3	SH-302 上層	口径：17.2 器高：1.9	10 外反しながら開いた後、下方に垂下させ、内傾する面を有する。端面に斜格子文を施す。外面ナデ調整、内面ヘラミガキ調整を施す。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：7.5YR6/6 橙	
158	Y3076	広口壺 C b 1	SH-302 中央土坑	口径：復元20.6 器高：7.4	20 体部から屈折し外上方に開いた後、外反しながら開き、端部をわずかに拡張させ面を有する。内外面ヘラミガキ調整を施し、端部をヨコナデ調整で仕上げる。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：7.5YR7/4 にぶい橙	No163と同じ 遺物
159	Y3022	短頸壺	SH-302 上層	口径：19.8 器高：残存高6.6	5 外上方に開いた後、屈曲して短く直線的に立ち上がる口縁部。端部に面を有し、1条の擬回線を巡らす。外面を縦方向のハケ、内面を横方向のハケ調整で仕上げる。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：7.5YR6/6 明褐	
160	Y3075	広口壺 C b 1	SH-302 中央土坑	口径：22.0 器高：3.0±12.3 底径：7.0	20 外上方に開いた後、屈曲して内湾気味に開く口縁部。端部をわずかに上下に拡張し、面を有する。外面にハケ調整、内面に板ナデ調整を施す。	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	
161	Y3057	壺	SH-302 床面直上	横径：20.5 器高：7.5	10 強く肩の張る体部から屈折して直線的に立ち上がり、屈曲して開く口縁部。端部を欠損する。外面をヘラミガキ、内面をナデ調整で仕上げる。肩部内面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：7.5YR7/6 橙	
162	Y3075	壺	SH-302 中央土坑	口径：22.0 器高：3.0±12.3 底径：7.0	20 突出する平底の底部から、内湾気味に立ち上がる体部。外面ナデ調整、内面に板ナデ調整を施す。	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	
163	Y3076	壺	SH-302 中央土坑	腹径：22.6 器高：12.2	20 なで肩の体部から屈折して直線的に立ち上がった後、屈曲して開く口縁部。端部を欠損する。外面ハケ調整、内面にナデ調整を施す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：7.5YR7/4 にぶい橙	No158と同じ 遺物
164	Y3048	壺	SH-302 下層	器高：残存高29.6 底径：5.6	60 球形の体部に、突出する平底の底部を有する。外面はヘラミガキ調整、内面に板ナデ調整を施す。	外：5YR6/8 橙 内：5YR5/6 明赤褐	
165	Y3037	底部	SH-302 下層	器高：6.8 底径：3.8	20 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部外面は叩きの後、ハケ調整、内面は板ナデ調整を施す。	外：2.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
166	Y3040	底部	SH-302 下層	器高：残存高5.7 底径：4.0	20 平底の底部から外上方に内湾気味に立ち上がる体部。体部外面は叩きの後、ナデ調整、内面はハケ調整を施し、底部外面を横方向のヘラケズリ。	外：5YR6/4 にぶい黄橙 内：10YR7/3 にぶい黄橙	
167	Y3046	底部	SH-302 床面直上	器高：残存高3.1 底径：5.1	20 中央がわずかに凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面をヘラミガキ調整、内面にハケ調整を施す。	10YR6/4 にぶい黄橙	
168	Y3063	小型土器 壺	SH-302 下層	器高：6.9 底径：3.4	40 わずかに突出する平底の底部に球形の体部。肩部に3条のヘラ描きの沈線を施すが、方向は一定しない。内外面をナデ調整により仕上げる。	外：10YR8/4 浅黄橙 内：10YR7/2 にぶい黄橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
169	Y3064	甕 A a	SH-302 下層	口径：19.6 器高：1.8	5 端部を上方へ摘み上げ、端部に3条の擬凹線を巡らす。端部はヨコナデ調整、外面にハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
170	Y3055	甕 B c	SH-302 床面直上	口径：18.0 器高：2.4	5 屈曲し、外反気味に開く口縁部。口縁端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケ調整。体部外面はハケ調整。	外：10YR6/3 にぶい黄橙 内：10YR7/4 にぶい黄橙	
171	Y3071	甕 A a	SH-302 中央土坑	口径：16.0 器高：残存高1.5	5 短く外反する口縁部。端部に面を有し、1条の擬凹線を巡らす。ヨコナデ調整で仕上げるが、外面に叩きの痕跡を残す。	10YR6/4 にぶい黄橙	
172	Y3060	甕 A b	SH-302 床面直上	口径：15.6 器高：残存高2.5	5 「く」の字形に屈折して開く口縁部で、端部を上方へつまみ上げ、外面に2条の擬凹線を巡らす。ヨコナデ調整で仕上げるが、外面に叩きの痕跡を残す。	外：7.5YR6/6 橙・N3/ 暗灰 内：7.5YR6/6 橙	
173	Y3045	甕 C e	SH-302 下層	口径：17.2 器高：2.7	5 締まりが弱い頸部から屈曲して外反しながら開く口縁部。端部は尖り気味となる。口縁部はナデ調整で、内外面に指頭痕を残す。体部外面は叩き。	外：10YR5/2 灰黄褐 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
174	Y3020	甕 A a	SH-302 上層	口径：16.7 器高：2.7	10 「く」の字形に屈折して開く口縁部で、端部に面を有し、1条の擬凹線を巡らす。口縁部外面に粘土紐の接合痕を残す。	7.5YR6/6 橙	
175	Y3017	甕 A a I 1	SH-302 上層	口径：13.0 器高：残存高5.0	10 なで肩の体部から屈曲して「く」の字形に開く口縁部で、端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はハケ、内面は肩部に指押さえの痕跡を残し、それ以下をヘラケズリする。	外：2.5YR3/1 暗赤褐 内：2.5YR4/4 にぶい赤褐	
176	Y3018	甕 B d	SH-302 上層	口径：17.2 器高：2.8	10 「く」の字形に屈折して開く口縁部で、端部に面を有する。口縁部外面に縦方向のハケ調整を施す。体部外面もハケ調整。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
177	Y3014	甕 B c	SH-302 上層	口径：12.6 器高：残存高3.2	10 「く」の字形に屈折して開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。外面には指頭痕を残し、内面に横方向のハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
178	Y3049	小型土器 甕	SH-302 床面直上	口径：9.0 腹径：9.6 器高：残存高9.8	30 屈折して短く開く口縁部で、端部は丸く収める。口縁部をヨコナデ調整。体部外面は叩き、内面にナデ調整を施す。	5YR6/6	
179	Y3007	小型土器 甕	SH-302 上層	口径：7.8 器高：残存高9.5 底径：3.6	90 締まりが弱い頸部から屈曲して短く開く口縁部。端部は丸く収める。口縁部外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケ調整で仕上げる。体部外面は叩きの後ハケ調整、内面は板ナデ調整を施す。	外：5YR6/6・7.5YR7/6 橙・N1.5/ 黒 内：5YR6/6 橙	
180	Y3026	小型土器 底部	SH-302 上層	器高：1.6 底径：1.5	10 平底の底部。側面に指押さえの痕跡を残す。	N2/ 黒	
181	Y3068	鉢 A d	SH-302 下層	口径：17.6 器高：8.4 底径：2.5	20 内湾する体部から屈折して、さらに内湾しながら立ち上がる口縁部。外面に2条の擬凹線を巡らせ、端部は丸く収める。底部は小さく、中央部がわずかに凹む。口縁部はヨコナデの後、内面をヘラミガキ。体部は内外面丁寧なヘラミガキを施し、底部外面をヘラケズリする。全体に器壁が薄く、表面を緻密に仕上げた土器である。	5YR5/6 明赤褐	
182	Y3032	鉢 A c 3	SH-302 下層	口径：12.7 器高：6.6 底径：4.2	90 突出する平底の底部から、内湾気味に立ち上がる体部。口縁部は屈曲し、内湾気味に立ち上がる。口縁部外面に1条の擬凹線を巡らす。調整は観察不能。	7.5YR7/6 橙	
183	Y3047	鉢 B b	SH-302 下層	口径：9.7 器高：残存高6.0 底径：2.3	90 平底の底部から、内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。外面はナデ、内面はハケ調整で、底部外面をヘラケズリする。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：10YR5/3 にぶい黄褐	
184	Y3030	鉢 A b 3	SH-302 下層	口径：17.8 器高：4.7	10 内湾する体部から、屈折して外反気味に開く口縁部。端部は丸く収める。口縁部はヨコナデ調整。体部は内外面ハケ調整を施す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
185	Y3050	鉢 B a	SH-302 床面直上	口径：12.2 器高：残存高7.5 底径：4.2	90 中央が凹み、突出する底部から、内湾気味に立ち上がる体部。端部は丸く収める。外面は叩き、内面はナデ調整で底部側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/8 橙	二次焼成を受ける
186	Y3039	鉢 B b	SH-302 床面直上	口径：復元18.0 器高：残存高6.3 底径：2.2	60 中央が大きく凹み、突出する底部から、内湾気味に大きく開く体部。端部は尖り気味となる。外面はハケ、内面はナデ調整で底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR6/6 明赤褐 内：5YR6/8 橙	
187	Y3034	鉢 B b	SH-302 上層	口径：14.0 器高：残存高7.4 底径：2.9	90 平底の底部から、内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。外面は叩き、内面はナデ調整で、底部外面をヘラケズリする。	外：5YR5/6 明赤褐 内：7.5YR4/1 褐灰	
188	Y3061	鉢 B b	SH-302 床面直上	口径：17.0 器高：残存高13.5	30 急な角度で立ち上がり、口縁部付近で若干内湾する深めの鉢。端部は面を有する。外面は叩き、内面にナデ調整を施す。	外：5YR7/6 橙 内：7.5YR7/6 橙・N2/ 黒	
189	Y3070	鉢 B b	SH-302 中央土坑	口径：13.4 器高：7.0 底径：2.8	100 平底の底部から、内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。外面は叩きの後ナデ、内面はナデ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：5YR5/6 明赤褐	
190	Y3036	鉢 B b	SH-302 床面直上	器高：残存高3.9 底径：2.8	20 中央が大きく凹み、突出する底部から、内湾気味に大きく開く体部。調整は観察不能。	7.5YR7/6 橙	
191	Y3041	底部	SH-302 下層	器高：残存高4.3 底径：4.2	20 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部外面は叩きの後ナデ、内面はハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR5/6 明赤褐 内：5YR1.7/1 黒	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
192	Y3031	底部	SH-302 下層	器高：残存高3.8 底径：3.1	20 中央が凹み、突出する底部から、内湾気味に立ち上がる体部。外面は叩き、内面はナデ調整で底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR5/6 明赤褐 内：7.5YR5/4 にぶい橙	
193	Y3035	底部	SH-302 下層	器高：残存高1.7 底径：5	10 平底の底部。内面にヘラケズリ、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR5/3 にぶい褐	
194	Y3029	底部	SH-302 上層	器高：残存高2.8 底径：4.2	20 平底の底部。内外面にハケ調整を施す。	外：7.5YR6/8 橙 内：5YR5/6 明赤褐	
195	Y3042	底部	SH-302 下層	器高：残存高2.8 底径：4.3	10 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部内外面ハケ調整。	外：5YR3/1 黒褐・5YR 4/2 灰褐 内：5YR4/1 褐灰	
196	Y3016	器台 B b	SH-302 上層	口径：22.0 器高：残存高2.9	10 端部を上下に拡張し、波状文を施文する。内面をヘラミガキで仕上げる。	外：N3/ 暗灰 内：10YR7/3 にぶい黄橙	
197	Y3056	脚部	SH-302 床面直上	器高：1.6 底径：16.0	20 大きく開く脚部。脚端部は丸く収め、外面に2条の擬回線を巡らす。脚部に円形の透かし孔を穿つ。	7.5YR6/6 橙	
198	Y3069	底部	SH-302 中央土坑	器高：残存高4.0 底径：3.6	20 平底の底部。体部外面にハケ調整を施す。	7.5YR6/8 橙	
199	Y3033	底部	SH-302 下層	器高：4.4 底径：4.0	20 中央がわずかに凹む底部から、急な角度で外上方に立ち上がる体部。外面は叩きの後ナデ、内面はハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	10YR7/4 にぶい黄橙	
200	Y3015	底部	SH-302 上層	器高：残存高5.3 底径：4.6	20 突出する平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部内外面は叩き、内面は板ナデ調整を施し、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR3/3 明赤褐 内：10YR3/1 黒褐	
201	Y3053	底部	SH-302 床面直上	器高：5.4 底径：4.8	10 中央がわずかに凹む底部から、外上方に直線的に立ち上がる体部。内外面ナデ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：7.5YR8/4 浅黄橙	
202	Y3054	底部	SH-302 床面直上	器高：残存高4.5 底径：5.0	10 中央がわずかに凹む底部から、急な角度で外上方に立ち上がる体部。外面は叩き、内面はハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR3/1 黑褐 内：7.5YR5/4 にぶい褐	
203	Y3038	底部	SH-302 下層	器高：残存高2.9 底径：4.2	10 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部外面をヘラケズリ、内面に板ナデ調整を施す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：10YR1.7/1 黒	
204	Y3051	底部	SH-302 床面直上	器高：2.7 底径：4.2	10 中央がわずかに凹む底部から、大きく開き気味に立ち上がる体部。内外面ハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR6/8 橙 内：7.5YR6/6 橙	
205	Y3067	底部	SH-302 床面直上	器高：残存高2.3 底径：3.4	10 平底の底部から大きく開き気味に立ち上がる体部。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR8/8 黄橙	
206	Y3122	広口壺 C a 2	SH-303 上層	口径：17.6 器高：残存高7.1	20 体部から屈折し外上方に開いた後、短く外反して開く。口縁端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。外面に縦方向のハケ、内面に横方向のハケ調整を施す。肩部内面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：5YR5/8 明赤褐	
207	Y3103	広口壺 B a 1	SH-303 上層	口径：19.0 器高：10.0	20 体部から屈曲して外上方に直線的に開く口縁部。端部は面を有する。調整は観察不能。	外：5YR5/6 明赤褐 内：7.5YR6/6 橙	
208	Y3120	広口壺 B a 2	SH-303 上層	口径：18.0 器高：残存高6.8	10 体部から屈曲して外上方に直線的に開いた後、端部がわずかに外反する。口縁端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。調整は観察不能。	外：5YR6/8 橙 内：7.5YR5/8 明褐	
209	Y3131	壺	SH-303 上層	口径：21.0 器高：2.8	5 短く開く口縁部。端部に面を有し、3条の擬回線を施す。外面をヘラミガキ、内面をナデ調整で仕上げる。	5YR6/6 橙	
210	Y3110	広口壺 C b 3	SH-303 上層	口径：18.5 器高：1.9	10 外反気味に開く口縁端部。下方に垂下させ、3条の擬回線を施す。	7.5YR6/6 橙	
211	Y3134	壺	SH-303 上層	口径：20.0 器高：2.7	5 短く開く口縁部。端部を上下に摘み出し、拡張した面に竹管円形浮文を加飾する。口縁端部をヨコナデ調整。内面をヘラミガキ調整する。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR5/3 にぶい褐	
212	Y3109	広口壺 A b	SH-303 上層	口径：16.0 器高：残存高1.4	5 下方に拡張し、内傾する面に2状の擬回線を巡らす。	7.5YR6/6 橙	
213	Y3141	広口壺 D	SH-303 上層	口径：31.4 器高：残存高3.7	10 水平近くまで大きく開いた後、屈折して短く垂直に立ち上がる口縁部。外面に櫛描波状文を加飾する。外面はヘラミガキ調整。	5YR6/8 橙	
214	Y3140	無頸壺	SH-303 上層	口径：12.4 器高：残存高3.3	10 体部から屈折して短く直立する口縁部。端部は丸く収める。頸部に2条の沈線とその上部に烈点文を加飾する。口縁部はヨコナデ、外面をヘラミガキ調整する。	5YR6/6 橙	
215	Y3136	広口壺 C b 3	SH-303 上層	口径：10.1 器高：残存高3.9	20 体部から屈曲し、直立した後、外反して開く口縁部。端部は下方に垂下し、上下に2条の擬回線を巡らす。口縁端部はヨコナデ、頸部外面はハケ調整。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：5YR5/6 明赤褐	
216	Y3106	広口壺 E b	SH-303 上層	口径：14.0 器高：4.6	10 直立した後、屈折して直線的に開く口縁部。端部を下方に拡張した痕跡が窺えるが、附加した粘土が剥落し、拡張の度合いは不明。端面に擬回線を巡らす。内外面ヘラミガキ調整を施す。	外：7.5YR7/6 橙 内：N2/ 黒	
217	Y3160	短頸壺	SH-303 上層	口径：12.0 器高：残存高6.7	20 やや扁平な体部から屈曲して短く直線的に外上方に開く口縁部。口縁部外面に3条の擬回線、肩部にヘラ描きの斜格子文を加飾するが、施文は不揃いで粗い。	5YR5/8 明赤褐	
218	Y3148	広口壺 C a 1	SH-303 上層	口径：16.0 器高：口4.3・底5.7 底径：3.9	30 外上方に開いた後、端部に向かって外反しながら開く。端部は、面を有する。外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整を施す。	10YR7/3 にぶい黄橙	221と同一個体

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考	
219	Y3104	細頸壺	SH-303 上層	器高：残存高12.0	30	扁平な体部から屈折して直立する頸部。口縁部を欠損する。体部と頸部の境に刺突文列を配するが、不規則で雑な施文。外面はヘラミガキ、体部内面にハケ調整を施す。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR2/ 黒	
220	Y3082	底部	SH-303 上層	器高：残存高3.2 底径：3.6	20	中央がわずかに凹む底部から、大きく開き気味に立ち上がる体部。外面は叩きの後ナデ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR6/8 橙 内：2.5YR5/8 明赤褐	二次焼成受け る
221	Y3148	底部	SH-303 上層	口径：16.0 器高：口4.3・底 5.7 底径：3.9	30	突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。体部外面は叩き、内面はハケ調整を施す。	10YR7/3 にぶい黄橙	218と同一個体
222	Y3079	底部	SH-303 上層	底径：3.6	20	平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面はハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR6/6 橙 内：2.5Y3/2 黒褐	
223	Y3132	底部	SH-303 上層	器高：残存高4.0 底径：5.0	20	中央部が凹む底部。外面をヘラミガキ。内面にハケ調整を施す。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：7.5YR5/6 明褐	
224	Y3080	底部	SH-303 上層	器高：残存高4.9 底径：4.2	20	平底の底部から直線的に立ち上がる体部。体部内面に板ナデ調整を施す。	外：10YR6/6 明黄褐 内：2.5Y5/3 黄褐	
225	Y3085	底部	SH-303 上層	器高：残存高3.15 底径：3.2	20	中央がわずかに凹む突出した底部から、大きく開き気味に立ち上がる体部。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR7/6 橙	
226	Y3084	底部	SH-303 上層	器高：3.0 底径：4.0	10	中央部が凹む底部。外面をハケ、内面に板ナデ調整を施す。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：7.5YR6/6 橙	
227	Y3089	線刻土器	SH-303 上層	口径：(横) 4.8 器高：(縦) 4.6 底径：(厚み) 0.5		外面に4本のヘラ描き沈線を刻む。	7.5YR6/3 にぶい褐	
228	Y3099	甕 C e	SH-303 上層	口径：12.2 器高：2.2	5	締まりが弱い頸部から屈折して内湾気味に短く開く口縁部。端部は丸く收める。口縁部はナデ調整。体部外面は叩きで仕上げる。	7.5YR6/6 橙	
229	Y3092	甕 A b	SH-303 上層	口径：12.8 器高：残存高4.3	10	締まりが弱い頸部から屈折して内湾気味に短く開く口縁部。端部は上方へつまみ上げ気味で丸く收める。口縁部はヨコナデ調整。体部外面は叩きで仕上げる。	7.5YR7/8 黄橙	
230	Y3090	甕 A a II 1	SH-303 上層	口径：18.0 器高：残存高6.0	10	肩の張る体部から屈曲して「く」の字形に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部はヘラミガキ。体部外面は叩きの後ハケ調整。内面は肩部までヘラケズリを施す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
231	Y3098	甕 B d III 2	SH-303 上層	口径：13.4 器高：残存高7.0	10	体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。体部は外面が叩き、内面をハケ調整で仕上げる。	7.5YR7/6 橙	
232	Y3107	甕 B c III 2	SH-303 上層	口径：16.0 器高：残存高3.5	10	体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。体部外面は叩きの後ハケ調整で仕上げる。	7.5YR6/6 橙	
233	Y3112	甕 B c	SH-303 上層	口径：18.0 器高：残存高3.0	10	体部から屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。	10R4/6 赤	
234	Y3137	甕 B c III 2	SH-303 上層	口径：24.0 器高：残存高：4.6	10	体部から屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。体部外面は叩きが残る。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR5/6 明褐	
235	Y3135	甕 B d III 2	SH-303 上層	口径：18.4 器高：7.3	20	体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部は、丸く收める。口縁部外面は縦方向のハケ調整。体部外面は叩き、内面にハケ調整を施す。	7.5YR7/4 にぶい橙	
236	Y3091	甕 B c	SH-303 上層	口径：20.4 器高：残存高3.5	10	体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。体部は外面は叩きの後ハケ調整で仕上げる。	10YR5/4 にぶい黄褐	
237	Y3113	甕 B c III 2	SH-303 上層	口径：16.8 器高：4.7	10	体部から屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向のハケ調整。体部外面は叩き、内面はナデ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
238	Y3111	甕 A f	SH-303 上層	口径：28.0 器高：2.4	5	直線的に開いた後、端部を屈折させ外上方へつまみ上げる。端部はヨコナデ調整し、外面はハケ、内面にヘラミガキ調整を施す。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：10YR5/2 灰黄褐	
239	Y3114	甕 B e III 2	SH-303 上層	口径：19.6 器高：残存高4.6	10	体部から屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は、丸く收める。口縁部外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。体部外面は叩き、内面はハケ調整で仕上げる。	外：5YR4/3 にぶい赤褐 内：5YR5/4 にぶい赤褐	
240	Y3094	鉢 A b 2	SH-303 上層	口径：24.0 器高：残存高9.0	10	締まりが弱い頸部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部外面は縦方向のハケ、内面はヘラミガキ、体部外面は叩き、内面はヘラミガキを施す。	外：10YR7/3にぶい黄橙 内：10YR6/4にぶい黄橙 N4/ 灰	
241	Y3088	甕 A d II 2	SH-303 上層	口径：15.2 器高：9.3	40	肩の張る体部から屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部は面を有する。口縁部はヨコナデ、体部外面は叩きの後ハケ、内面は板ナデ調整を施す。	5YR7/6 橙	
242	Y3125	甕 A d III 1	SH-303 上層	口径：19.0 器高：16.3	30	屈折して「く」の字形に開く口縁部で、端部に面を有する。体部は球形に近く、最大径を胴部下半に持つ。口縁部はヨコナデ、体部外面は叩き、内面は口縁部直下までヘラケズリを施す。	外：10YR8/4 浅黄橙 内：10YR7/4 にぶい黄橙	
243	Y3178	甕 III 2	SH-303 上層	器高：18.0 底径：2.6	40	小さめの平底の底部に丈高な体部。外面は叩き、内面はハケ及び板ナデ調整で仕上げる。底部外面にヘラケズリを施す。	外：5YR4/2 灰褐 内：5YR6/6 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
244	Y3108	甕 III 1	SH-303 上層	器高：残存高13.5 底径：2.4	30 最大径を体部中位に有する体部。外面に叩き、内面をヘラケズリ調整で仕上げる。底部側面に指押さえの痕跡を有する。	外：7.5YR6/6 橙 7.5YR1.7/ 黒 内：7.5YR1.7/ 黒	
245	Y3081	甕 III 2	SH-303 上層	器高：残存高8.0 底径：4.0	20 脚台状に突出する底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面に叩き、内面にハケ調整を施す。脚部側面に強い指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	
246	Y3077	底部	SH-303 上層	器高：5.1 底径：4.5	20 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。外面に叩き、内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	10YR6/3 にぶい黄橙	
247	Y3105	底部	SH-303 上層	器高：5.1 底径：2.8	20 中央部が凹む底部から、外上方に直線的に立ち上がる体部。外面に叩き、内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
248	Y3078	底部	SH-303 上層	器高：残存高3.4 底径：3.6	10 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。外面に叩き。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR5/3 にぶい褐 内：5YR5/6 明赤褐	
249	Y3144	高坏 B 1	SH-303 上層	口径：12.2 器高：4.9	40 椀形の坏部。内湾する体部から口縁部は丸く收める。外面はナデ、内面はハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
250	Y3145	高坏 B 3	SH-303 上層	口径：15.0 器高：残存高5.6	10 椀形の坏部。内湾する体部に、口縁端部は叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。外面はナデ、内面はハケ調整を施す。	外：10YR6/3 にぶい黄橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
251	Y3087	高坏 B 2	SH-303 上層	口径：20.8 器高：3.2	10 浅い椀形の坏部。口縁端部は丸く收め、外面に3条の擬凹線を巡らす。内外面をヘラミガキ調整で丁寧に仕上げる。	5YR6/6 橙	
252	Y3157	高坏 A 1	SH-303 上層	口径：24.0 器高：残存高4.0	5 屈折して外反する口縁部で、端部は面を有する。内面にヘラミガキ調整。	5YR5/6 明赤褐	
253	Y3139	高坏 A 2	SH-303 上層	口径：27.4 器高：4.9	10 屈曲して外反する口縁部で、端部は丸く收める。	7.5YR6/4 にぶい橙	
254	Y3127	高坏 A 1	SH-303 上層	口径：30.0 器高：残存高5.8	30 屈折して外反する口縁部で、端部は丸く收める。	7.5YR7/6 橙	
255	Y3128	高坏	SH-303 上層	器高：残存高12.5 底径：15.5	40 中実の脚柱部から外反して開く脚部。端部はヨコナデ調整を施し、面を有する。脚部に円形の透孔を穿つ。脚柱部外表面はヘラミガキ、裾部はハケ調整。脚部内面はハケ調整。	5YR6/6 橙 7.5YR4/2 灰褐	
256	Y3130	高坏	SH-303 上層	器高：残存高2.7	10 中空の脚柱部。坏部との接合には円盤充填技法を用いる。坏部内面はヘラミガキ調整。	7.5YR5/3 にぶい褐	
257	Y3126	高坏	SH-303 上層	器高：残存高12.8 底径：18.0	30 中空の脚柱部から、屈折して直線的に開く脚部。坏部との接合には円盤充填技法を用いる。充填する粘土は細長い紐状を呈する。脚部に円形の透孔を穿つ。	5YR6/6 橙	
258	Y3129	高坏	SH-303 上層	器高：8.3	30 中空の脚柱部。坏部との接合には円盤充填技法を用いる。充填する粘土は細長い紐状を呈する。外面はヘラミガキ調整。脚柱部内面はヘラケズリを施す。	5YR7/6 橙	
259	Y3116	高坏	SH-303 上層	器高：残存高7.4	20 中空で細い脚柱部から屈折して開く脚部。脚柱部上端に3条のヘラ描き沈線と烈点文を加飾する。坏部との接合は挿入付加法。外面は丁寧なヘラミガキ調整。	7.5YR6/6 橙	
260	Y3138	器台 B b	SH-303 上層	口径：19.8 器高：残存高2.0	10 下方に垂下する口縁部。外面に4条のヘラ描き沈線を加飾する。沈線は不揃いで雑な施文。	外：5YR6/6 橙 内：5YR6/6 明赤褐	
261	Y3123	器台 B b	SH-303 上層	口径：23.2 器高：2.3	10 下方に垂下する口縁部。外面に格子の鋸歯文を加飾する。口縁部はヨコナデ、受部内面をハケ調整する。	7.5YR6/6 橙	
262	Y3119	器台 B c	SH-303 上層	口径：26.2 器高：3.1	10 上方へ屈折させた端部下方に粘土を付加し、面を形成する。端面上下に擬凹線を巡らせ、間にヘラ描きの斜格子文を加飾する。格子は不揃いで雑な施文となる。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：7.5YR6/6 橙	
263	Y3151	器台	SH-303 上層	腹径：6.0 器高：13.5	50 柱状の脚部から屈曲して開く裾部を有する。4方向に透孔を穿つ。受け部との境に4本のヘラ描き沈線を巡らせる。受部は斜め上方へ直線的に開き、口縁部は屈折して内傾した立ち上がりとなる。外面はハケ調整。脚柱部内面上半をヘラケズリ、下半を板ナデ調整する。	5YR6/6 橙	
264	Y3118	器台	SH-303 上層	器高：残存高10.2	20 直線的に開く脚部。外面ヘラミガキ調整。内面に横方向のヘラケズリ調整を施す。	外：5YR6/6 明赤褐 内：2.5YR5/6 明赤褐	
265	Y3121	脚部	SH-303 上層	器高：残存高5.4 底径：19.0	10 「ハ」の字形に開く脚部で、端部に直立する面を有する。端部に施す強いヨコナデにより、外面がわずかに凹む。そこに格子の鋸歯文を加飾する。外面はハケ調整で、透孔を有する。	外：7.5YR3/1 黒褐 内：7.5YR5/3 にぶい褐	
266	Y3083	脚部	SH-303 上層	器高：残存高1.8 底径：19.8	5 端部がわずかに上方へ肥厚し、内傾する面を有する。端部はヨコナデ、外面にヘラミガキ調整を施す。	10YR6/3 にぶい黄橙	
267	Y3149	鉢 B b	SH-303 上層	口径：16.4 器高：残存高5.8	10 内湾する体部で、口縁端部は丸く收める。ナデ調整。	外2.5YR5/8 明赤褐 内：5YR5/6 明赤褐	
268	Y3146	鉢 B b	SH-303 上層	口径：14.0 器高：7.2 底径：3.2	80 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸く收める。外面を叩きの後ナデ調整。	外：2.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
269	Y3096	鉢 B a	SH-303 上層	口径：16.0 器高：11.1 底径：5.0	50 平底の底部から外反しながら立ち上がる体部。口縁端部は丸く收める。外面は叩きの後ハケ調整。内面はハケ調整を施す。	外：10YR5/2 灰黄褐 内：10YR5/3 にぶい黄褐	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
270	Y3101 鉢 B b	SH-303 上層	口径：19.4 器高：10.2 底径：6.0 (5.7)	40	平底の底部から、外上方に直線的に開き、口縁部がわずかに内湾する。外面は叩きの後ナデ調整。内面はハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/8 橙 内：7.5YR6/6 橙	
271	Y3095 鉢 A d	SH-303 上層	口径：22.8 器高：3.4	5	内湾する口縁部で、下端部が肥厚し、体部との境に段を形成する。外面に4条の擬凹線を巡らす。内面をヘラミガキ調整。	7.5YR7/4 にぶい橙	
272	Y3154 鉢 A c 2	SH-303 上層	口径：31.0 器高：残存高11.0	20	内湾する体部から屈折して、さらに内湾しながら立ち上がる口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部は内外面ハケ調整。体部外面は叩き、内面をハケ調整する。	外：2.5YR6/8 橙 内：5YR6/6 橙	
273	Y3102 鉢 A b 3	SH-303 上層	口径：16.0 器高：3.0	10	体部から屈曲して短く外反する口縁部で、端部は丸く收める。口縁部をヨコナデ、体部内面にヘラミガキ調整を施す。	5YR6/6 橙	
274	Y3086 鉢 A c 3	SH-303 上層	口径：22.0 器高：4.0	10	体部から屈折して開いた後、屈曲して短く立ち上がる口縁部。端部は丸い。口縁部をナデ調整。体部内面をヘラミガキ調整する。	5YR7/6 橙	
275	Y3150 鉢 A b 2	SH-303 上層	口径：25.6 器高：5.3	20	内湾する体部から屈折して直線的に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部は外を縦方向、内面を横方向のハケ調整で仕上げる。	7.5YR6/4 にぶい橙	
276	Y3142 有孔鉢 D a	SH-303 上層	器高：5.7 底径：3.4	10	底部中央に1穴を穿つ。体部外面は叩き、内面はハケ調整。底部側面を強い指押さえで整形する。	外：5YR5/6 明赤褐 内：2.5Y4/1 黄灰	
277	Y3100 有孔鉢 D a	SH-303 上層	器高：3.5 底径：2.8	10	底部中央に1穴を穿ち、それを覆うように内面に1本の粘土紐を貼り付ける。外面は叩きで、底部側面を横方向のヘラケズリで角を整形する。	10YR5/3 にぶい黄橙	
278	Y3159 広口壺	SH-303 下層	口径：18.4 器高：残存高2.2	5	外反気味に開き、端部が上下に肥厚する。端部はヨコナデ、内面をヘラミガキする。	5YR5/6 明赤褐	
279	Y3164 広口壺	SH-303 下層	口径：19.0 器高：残存高3.4	10	外反気味に開き、端部に面を有し、1条の擬凹線を巡らす。端部をヨコナデ、内外面にヘラミガキ調整を施す。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/4 にぶい橙・N3/ 暗灰	
280	Y3152 甕 B c III 2	SH-303 上層	口径：25.8 器高：残存高4.1	5	屈折し「く」の字形に開く。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部は外を縦方向、内面を横方向のハケ調整で仕上げ、体部外面に叩きが残る。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR5/4 にぶい褐	
281	Y3153 甕 A a	SH-303 上層	口径：16.1 器高：3.1	5	屈曲して外反気味に開き、端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整、体部外面をハケ調整する。	外：7.5YR4/2 灰褐 内：7.5YR5/2 灰褐	
282	Y3177 甕 C e III 2	SH-303 床面直上	口径：12.6 器高：残存高5.6	10	締まりが弱い頸部から屈曲して短く開く口縁部。端部は丸く收める。口縁部はナデ調整。体部外面に叩きを残す。	外：7.5YR 7/6 橙 内：10YR 7/6 明黄褐	
283	Y3179 甕 B c II 2	SH-303 下層	口径：15.7 腹径：24.0 器高：26.8 底径：5.2	90	強く締まる頸部から屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。最大径を体部中位に有する。口縁部は外を縦方向、内面を横方向のハケ調整で仕上げ、体部外面は叩きの後ハケ調整を施す。内面はナデ調整で、一部に粘土紐の接合痕を残す。	5YR5/6 明赤褐	
284	Y3165 甕 II 2	SH-303 下層	器高：11.0 底径：5.4	80	突出する平底の底部で、側面に指押さえの痕跡を残す。体部外面を叩きの後ナデ調整。内面を板ナデ調整する。	外：7.5YR 6/4 にぶい橙 内：2.5YR 6/8 橙	
285	Y3156 底部	SH-303 上層	器高：残存高2.7 底径：4.1	10	突出する平底の底部。	外：5YR4/3 にぶい赤褐 内：2.5YR5/6 明赤褐	
286	Y3170 底部	SH-303 下層	器高：残存高4.5 底径：5.8	20	突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面をハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：5YR2/1 黒褐	
287	Y3158 底部	SH-303 下層	器高：残存高4.4 底径：4.7	20	ドーナツ状に中央部がわずかに凹む底部から急な角度で立ち上がる体部。体部外面は叩き、内面を板ナデ調整する。	外：7.5YR5/3 にぶい褐 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
288	Y3172 高坏 A 1	SH-303 下層	口径：26.2 器高：残存高9.2	40	内湾する深め体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部は丸く收める。屈折点は突出気味。坏部との接合には円盤充填技法を用いる。内外面ヘラミガキ調整。	5YR6/8 橙	
289	Y3167 器台 B a	SH-303 下層	口径：22.6 器高：残存高5.5	40	外反気味に開き、端部に面を有する。内外面にヘラミガキ調整を施すが、端部外面に叩きが残る。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：5YR5/6 明赤褐・N2/ 黒	
290	Y3169 底部	SH-303 下層	器高：残存高2.2 底径：4.9	10	突出する平底の底部。	外：5YR4/6 赤褐 内：5YR2/1 黒褐	
291	Y3161 鉢 B b	SH-303 下層	口径：17.2 器高：5.8 底径：4.3	80	ドーナツ状に中央部がわずかに凹む底部から大きく開き気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く收める。調整は観察不能。	外：10YR5/2 灰黄褐 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
292	Y3168 小型土器 鉢	SH-303 下層	口径：6.6 器高：3.5 底径：2.4	90	ドーナツ状に中央部がわずかに凹む底部から内湾して立ち上がる体部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。外面をナデ、内面を板ナデ調整する。	外：7.5YR4/1 褐灰 内：10YR2/1 黒	
293	Y3155 有孔鉢 D 1	SH-303 上層	器高：残存高2.4 底径：3.4	10	突出する小さめの底部から大きく開く体部。底部中央に1穴を穿つ。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：2.5YR2/1 黒	
294	Y3175 高坏 A 3	SH-303 床面直上	口径：21.6 器高：残存高3.6	20	屈折して外反気味に開く口縁部で、端部は丸く收める。口縁部外面に波状文を施す。内外面ヘラミガキ調整。	5YR6/6 橙	
295	Y3162 高坏	SH-303 下層	器高：残存高8.7 底径：11.4	60	中実の脚柱部から外反して「ハ」の字形に開く脚部。端部は面を有する。脚部に4方向の円形の透孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整。脚部内面は横方向のハケ調整を施す。坏部との接合は挿入付加法。	7.5YR7/4 にぶい橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
296	Y3166	高壺	SH-303 下層	腹径：5.0 器高：9.5	30 「ハ」の字形に開く中空の脚部で外反度は弱い。脚部に4方向の円形の透孔を穿つ。壺部との接合には円盤充填技法を用いる。外面はヘラミガキ調整。脚柱部内面は横方向のヘラケズリ調整を施す。	5YR7/6 橙	
297	Y3171	高壺	SH-303 下層	器高：11.3 底径：16.4	70 中空の脚部から強く外反して開く脚部。4方向の円形の透孔を穿つ。裾部外面に2条の擬回線を巡らす。壺部との接合には円盤充填技法を用いる。外面はヘラミガキ調整。脚部内面はハケ調整で、端部はヨコナデで調整する。	外：5YR6/8 橙 内：7.5YR6/6 橙	
298	Y3185	甕 C d	SH-304	口径：17.0 器高：残存高2.2	5 短く外反する口縁部。端部に面を有する。	外：5YR5/6 明赤褐 内：7.5YR5/3 にぶい褐	
299	Y3188	鉢 B b	SH-304 中央土坑	口径：17.4 器高：残存高5.0	5 内湾気味に立ち上がる体部。端部は丸く収める。外面に叩きを残す。	外：5YR6/8 橙 7.5YR6/ 6橙 N3/ 暗灰 内：5YR6/8 橙	
300	Y3182	高壺 B 1	SH-304	口径：17.2 器高：残存高3.5	5 浅い壺部から内湾して立ち上がる口縁部。端部は丸く収める。外面はヘラミガキ調整。	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR3/1 黒褐	
301	Y3184	底部	SH-304	器高：残存高3.9 底径：5.0	5 突出する平底の底部。	外：2.5YR 内：2.5YR3/1 暗赤灰	
302	Y3199	広口壺 C a 3	SH-305 上層	口径：21.6 器高：残存高2.8	10 外反して開く口縁部。端部に内傾する面を有し、1条の擬回線を巡らす。端部をヨコナデ調整し、内面をヘラミガキ、外面前をハケ調整する。	外：2.5YR4/8 赤褐 内：7.5YR5/6 明褐 N2/ 黒	
303	Y3200	壺 C b 3	SH-305 下層	口径：23.8 器高：3.9	5 外反して開き、端部下面に粘土を付加し、拡張する。端部に4条の擬回線を巡らす。内外面ヘラミガキで調整する。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：7.5YR6/6 橙	
304	Y3201	壺 C b 3	SH-305 下層	口径：26.0 器高：残存高4.6	5 外反して開き、端部下面に粘土を付加し、拡張する。端部に3条の擬回線を巡らす。内面をヘラミガキで調整する。	外：7.5YR6/8 橙 内：5YR6/6 橙	
305	Y3226	広口長頸壺	SH-305	口径：14.6 器高：残存高6.8	10 直立気味の頸部から短く外反する口縁部。端部は下方に肥厚し、内傾する面を有する。口縁部はヨコナデ調整、頸部外面にヘラミガキ調整を施す。	外：5YR7/6 橙 内：5YR6/6 橙	
306	Y3207	甕 C d	SH-305 上層	口径：19.5 器高：1.2	5 端部をわずかに上下に肥厚し、竹管文を加飾する。内外面ナデ調整。	2.5YR6/8 橙	
307	Y3209	甕 A a	SH-305 上層	口径：18.6 器高：残存高2.1	5 端部をわずかに上下に肥厚し、2条の擬回線を巡らす。ヨコナデ調整。	外：7.5YR5/1 褐灰 内：7.5YR4/2 灰褐 7.5YR6/4 にぶい橙	
308	Y3202	鉢 B b	SH-305 上層	口径：18.8 器高：残存高5.2	5 急な角度で立ち上がり、口縁端部を丸く収める。外面を叩き、内面をナデ調整する。	外：10YR3/1 黒褐 内：2.5YR5/6 明赤褐	
309	Y3232	甕 I 1	SH-305	器高：残存高3.8	5 肩部に烈点文を加飾する。外面ハケ調整。内面は頸部までヘラケズリを施す。	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：5YR6/6 橙	搬入土器
310	Y3191	底部	SH-305	器高：残存高3.8 底径：6.4	5 中央部がわずかに凹む底部から、外上方に直線的に立ち上がる体部。外面をヘラケズリ、内面に板ナデ調整を施す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：10YR4/1 褐灰	
311	Y3227	底部	SH-305 下層	器高：残存高3.0 底径：6.6	5 中央部が凹む底部から、外上方に直線的に立ち上がる体部。外面を板ナデ調整する。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：5YR2/1 黒褐	
312	Y3198	高壺 A 2	SH-305 上層	口径：20.4 器高：残存高2.2	5 屈折して短く直立する口縁部で、端部に水平の面を有する。口縁部外面の上下に2条の擬回線を巡らす。	外：10YR6/6 明黄褐 内：7.5YR6/6 橙	
313	Y3210	脚部	SH-305 上層	器高：残存高1.5 底径：9.8	5 「ハ」の字形に開く脚部。端部に面を有する。内外面ハケ調整で、小さな円形の透孔を穿つ。	5YR6/6 橙	
314	Y3224	脚部	SH-305 上層	器高：3.5 底径：10.0	5 「ハ」の字形に開く脚部。裾部に1条の擬回線を巡らせ、端部に面を有する。2個1組の円形の透孔を穿つ。	7.5YR8/6 浅黄橙	
315	Y3196	高壺 A 1	SH-305	口径：26.0 器高：残存高3.5	20 浅い壺部から屈折して短く直立する口縁部で、端部に水平の面を有する。外面にヘラミガキ調整痕を残す。	外：5YR6/6 橙 N21黒 内：2.5YR6/8 明赤褐	
316	Y3190	高壺 A 1	SH-305 上層	口径：27.6 器高：3.3	5 屈折して強く外反する口縁部で、端部は丸く収める。口縁部はヨコナデ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：N2/ 黒	
317	Y3195	高壺	SH-305 上層	器高：残存高4.3	10 細い中空の脚柱部。壺部との接合には円盤充填技法を用いる。	7.5YR8/6 浅黄橙	
318	Y3192	脚部	SH-305	器高：残存高6.5 底径：9.8	20 短く「ハ」の字形に開く脚部。外面ハケ調整。内面にヘラケズリを施す。体部との接合には円盤充填技法を用いる。	7.5YR6/6 橙 N3/暗灰 (一部)	
319	Y3238	広口壺 A a	SH-306 床面直上	口径：13.8 腹径：18.9 器高：21.4 底径：2.9	90 なで肩の体部から短く外反して開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。最大径を体部下半に有する。口縁部から体部上半はナデ調整を施すが、下半に叩きを残し、底部外面をヘラケズリすることで丸底を指向する。内面は頸部に指頭痕を残し、肩部に粘土紐接合痕を残す。内面はナデ調整。	外：N2/ 黒 5YR5/6 明赤褐 内：N2/ 黒	
320	Y3257	甕 B c III 2	SH-306 中央土坑	口径：26.3 器高：6.9	10 肩の張る体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部は、外面に縦方向、内面に横方向のハケ調整を施す。体部外面は叩き、内面は板ナデ調整。	5YR6/6 橙	
321	Y3246	広口壺 C b 3	SH-306 中央土坑	口径：24.0 器高：2.8	5 下方に垂下する口縁部。外面上下に2条の擬回線を巡らせ、間に鎧齒文と斜格子文で加飾する。内外面ヘラミガキ調整。	5YR6/6 橙	
322	Y3242	器台 B b	SH-306	口径：20.8 器高：残存高2.5	5 下方に垂下する口縁部。外面上下に2条の擬回線を巡らせ、間に鎧齒文で加飾する。	5YR6/8 橙	
323	Y3243	短頸壺	SH-306	口径：8.2 器高：残存高5.3	5 外反気味に直立する口縁部で、端部を丸く収める。内面に粘土紐の接合痕を残す。	5YR5/6 明赤褐	
324	Y3239	鉢 B b	SH-306	口径：15.8 器高：8.2 底径：3.8	30 突出する底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。調整は観察不能。	外：5YR6/8 橙 内：10YR4/1 褐灰	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
325	Y3254	広口壺	SH-307	口径：19.0 器高：残存高2.3	5 短く外反する端部下面に粘土を付加し、面を形成する。外面に3条の擬凹線を巡らす。	7.5YR6/6 橙	
326	Y3248	甕 B c	SH-307	口径：17.4 器高：残存高3.0	5 屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部は外面はナデ、内面を横方向のハケ調整で調整する。	外：7.5YR7/6 橙 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
327	Y3263	底部	SH-307 床面直上	口径：12.0 器高：残存高3.6	5 屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部はわずかに上方へつまみ上げる。体部外面に叩きを残す。	5YR6/8 橙	
328	Y3261	底部	SH-307 上層	器高：残存高6.8 底径：4.1	20 中央部が凹む底部から、内湾して立ち上がる球形の体部。外面を叩き、内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
329	Y3259	底部	SH-307 床面直上	器高：残存高4.7 底径：4.5	20 平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面は叩き、内面にハケ調整を施す。底部外面を叩きで整形する。	外：5YR6/6 橙 内：5YR5/6 明赤褐	
330	Y3249	底部	SH-307	器高：残存高4.3 底径：3.1	10 突出する平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。内外面ナデ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：7.5YR7/6 橙	
331	Y3264	底部	SH-307 床面直上	器高：残存高3.6 底径：4.2	20 突出する底部から内湾気味に立ち上がる体部。内外面ハケ調整。底部側面に2条の沈線を巡らす。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR4/1 灰褐 内：10YR6/3 にぶい黄橙 10YR2/1 黒	
332	Y3260	鉢 B b	SH-307 床面直上	口径：16.1 器高：8.0 底径：4.2	90 突出する底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は内傾する面を有する。外面ナデ調整。内面にハケ調整を施す。	外：10YR7/3 にぶい黄橙 内：10YR4/1 褐灰	
333	Y3255	底部	SH-307	器高：残存高2.9 底径：2.7	20 中央部が凹む底部から、大きく開き、立ち上がる体部。外面は叩きの後ナデ調整。内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	2.5YR4/8 赤褐	
334	Y3262	脚部	SH-307 上層	器高：残存高7.5 底径：18.0	30 直線的に開く脚部。裾部に3条の擬凹線を巡らす。外面に叩きを残し、円形の透孔を穿つ。	5YR6/6 橙	
335	Y3250	脚部	SH-307	器高：残存高5.7 底径：15.4	5 直線的に開いた後、外反し、端部を上方へ肥厚させ、面を有する。裾に近い部分に円形の透孔を穿つ。外面をハケ調整。内面にヘラケズリを施す。端部はヨコナデ調整である。	7.5YR6/6 橙	
336	Y3251	脚部	SH-307	器高：残存高8.0	10 中空で円柱形の脚柱部。器壁が薄く、外面にヘラミガキ調整を施す。	10YR7/4 にぶい黄橙	
337	Y3252	脚部	SH-307	器高：残存高3.2 底径：20.6	5 「ハ」の字形に開く脚部。端部が上方へ肥厚し、刻みを施す。端面には2条の擬凹線巡らす。外面をヘラミガキ調整する。	5YR6/6 橙	
338	Y3281	細頸壺	SH-308	器高：残存高5.0	10 球形の体部から屈曲して直立気味に立ち上がる頸部。外面ヘラミガキ。内面ハケ調整を施す。	外：5YR6/4 にぶい橙 内：5YR2/1 黒褐	
339	Y3274	広口壺 D	SH-308 上層	器高：残存高4.2	5 直立気味の短い頸部から屈曲して水平近くまで開いた後、屈折して短く垂直に立ち上がる口縁部。口縁部外面には多条の沈線を巡らす。頸部外面はヘラミガキ調整。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙	
340	Y3284	広口壺	SH-308 上層	口径：16.0 器高：残存高2.4	5 外反して開く口縁部で、端部に面を有する。内外面ヘラミガキ調整。	2.5YR5/8 明赤褐	
341	Y3275	甕 II 2	SH-308 上層	腹径：19.0 器高：10.4	5 球形に近い体部から屈折して開く口縁部。最大経を体部中位に持つ。口縁部内面は横方向のハケ調整。体部外面を叩きの後ハケ調整。内面をハケ調整する。	5YR6/6 橙	
342	Y3268	底部	SH-308 上層	器高：残存高3.9 底径：4.0	20 平底の底部から開き気味に立ち上がる体部。体部外面はナデ調整。内面をハケ調整する。底部外面に木葉痕を残す。	外：5YR6/6 橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
343	Y3285	長頸壺	SH-308 上層	口径：8.6 器高：残存高13.2	30 算盤玉形に近い体部から、直立する頸部。口縁部はわずかに外反する。口縁部はヨコナデ調整。頸部から体部外面をヘラミガキ。内面にハケ調整を施す。	2.5YR6/6 橙	
344	Y3283	甕 C e III 2	SH-308	口径：20.4 器高：残存高3.6	10 屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は丸く收める。体部外面は叩き、口縁部外面に粘土紐接合痕を残す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：7.5YR7/4 にぶい橙	二次焼成受け る
345	Y3282	底部	SH-308	器高：残存高5.4 底径：4.4	10 突出する平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部外面は叩き。内面を板ナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR5/6 明赤褐	
346	Y3011	底部	SH-308 床面直上	器高：残存高5.0 底径：4.6	10 中央がわずかに凹む突出する底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。体部内面をハケ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 7.5YR1.7/1 黒 内：2.5YR5/8 明赤褐	
347	Y3271	甕 C e III 2	SH-308 上層	口径：18.0 器高：残存高10.0	10 屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部は尖り気味となる。口縁部はナデ調整。体部外面は叩き、内面はナデ調整を施すが、口縁部から肩部内面にかけて指頭痕を残す。	5YR6/6 橙	
348	Y3269	底部	SH-308	器高：残存高3.7 底径：2.7	10 小さめの平底底部。体部の立ち上がりは急角度で直線的。調整は観察不能。	外：7.5YR7/6 橙 内：5YR7/6 橙	
349	Y3286	高坏 B 1	SH-308 上層	口径：17.0 器高：残存高3.8	10 椀形の坏部。内湾しながら外上方に伸びる口縁部。端部は丸く收める。内外面はヘラミガキ調整。	5YR5/6 明赤褐	
350	Y3270	脚部	SH-308	腹径：4.5 器高：8.0	20 中空の脚柱部から外反して「ハ」の字形に開く脚部。脚部に4方向の円形の透孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整。脚部内面は横方向のハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
351	Y3266	脚部	SH-308	器高：残存高4.6 底径：17.0	10 外反して「ハ」の字形に開く脚部。端部は面を有し、1条の擬凹線を巡らす。脚部に4方向の円形の透孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整。脚部内面は横方向のハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
352	Y3293	広口壺 E a	SH-309	口径：21.4 器高：残存高3.5	5 頭部から屈折して外上方に開く口縁部。端部をわずかに上下に肥厚させ面を有する。調整は観察不能。	7.5YR6/6 橙	
353	Y3292	二重口縁壺	SH-309	口径：24.8 器高：残存高3.7	10 屈折し外反して開く二重口縁部。端部は丸く収める。外面に2個1組の円形浮文を加飾する。内面はヘラミガキ調整。	5YR6/6 橙	
354	Y3288	甕 A d I 1	SH-309	口径：20.8 器高：残存高9.8	10 肩の張る体部から屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面はハケ調整、内面にヘラケズリを施す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：N2/ 黒	
355	Y3301	甕 A b	SH-309	口径18.0 器高：残存高2.6	10 屈折して外反気味に開く口縁部。端部をわずかに上方へつまみ上げる。	7.5YR6/4 にぶい橙	
356	Y3297	甕 C e	SH-309	口径：16.0 器高：残存高2.6	5 屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は丸く収める。ナデ調整。	5YR5/6 明赤褐	
357	Y3289	甕 C e	SH-309	口径：15.6 器高：残存高2.9	5 屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は丸く収める。	2.5YR5/8 明赤褐	
358	Y3287	鉢	SH-309	口径：24.0 器高：残存高10.0	10 内湾する体部から外方に短くつまみ出し、口縁部とする。端部は丸く、内面に外傾する面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面はヘラケズリ、内面はハケ調整を施す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：2.5YR2/1 赤黒	
359	Y3295	底部	SH-309	器高：残存高1.9 底径：4.0	10 中央がわずかに凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面をヘラミガキ調整。内面にヘラケズリを施す。	10YR3/2 黒褐	
360	Y3291	底部	SH-309	底径：6.0	20 突出する平底の底部。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR6/4 にぶい橙 内：N4/ 灰	外面二次焼成受ける
361	Y3027	底部	SH-309	器高：残存高2.1 底径：3.0	10 中央がドーナツ状に凹む突出する底部。体部は内湾気味に立ち上がり、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR6/8 橙 内：7.5Y6/6 橙	
362	Y3296	小型土器 高坏	SH-309	口径：8.8 器高：残存高2.8	20 内湾気味に開く体部で、口縁端部は丸く収める。外面は叩きの後ナデ調整。内面はナデ調整を施す。	10YR7/4 にぶい黄橙	
363	Y3298	高坏 A 1	SH-309	口径：20.0 器高：残存高5.5	5 屈折して外反する口縁部。端部は丸く収める。体部外面はハケ調整。内面はヘラミガキで調整する。	10YR7/4 にぶい黄橙	
364	Y3290	脚部	SH-309	器高：残存高5.4	10 中空の脚柱部。外面にヘラミガキを施す。	5YR3/2 暗赤褐 2.5YR4/8 赤褐	
365	Y3303	広口壺 上層	SH-310 上層	口径：21.4 器高：残存高1.5	5 下方に垂下する口縁部。外面に1条の擬凹線を巡らす。内面をヘラミガキ調整する。	5YR6/6 橙	
366	Y3313	広口壺 D	SH-310 上層	口径：24.5 器高：残存高4.2	5 屈折して内傾気味に直立する口縁部。端部に内傾する面を有する。外面に3条の擬凹線を巡らせ、間を波状文で加飾する。	7.5YR6/6 橙	
367	Y3316	甕 B d	SH-310 上層	口径：23.0 器高：残存高2.8	5 屈折して開く口縁部。端部に面を有する。内面に横方向のハケ調整。	外：10YR5/2 灰黄褐 内：7.5YR7/6 橙	
368	Y3306	甕 A a	SH-310 上層	口径：23.4 器高：残存高2.8	5 屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。ヨコナデ調整を施す。	2.5YR4/6 赤褐	
369	Y3315	甕 A a	SH-310 上層	器高：残存高4.0	5 屈折して外反気味に開く口縁部。端部を下方に肥厚させる。外面に1条の擬凹線を巡らす。ヨコナデ調整を施す。	10YR7/3 にぶい黄橙	
370	Y3305	甕	SH-310 上層	口径：32.8 器高：残存高2.6	5 大きく外反して開く口縁部。端部は丸く収める。口縁端部はヨコナデ調整。外面をハケ調整。内面にナデ調整を施す。	10YR5/4 にぶい黄褐	
371	Y3312	甕 B d	SH-310 上層	口径：23.8 器高：3.6	5 屈折して直線的に開く口縁部。端部に面を有する。外面を縦方向のハケ、内面を横方向のハケ調整を施す。	外：10YR5/3 にぶい黄褐 内：7.5YR6/6 橙	
372	Y3324	甕 A a I 2	SH-310 上層	口径：24.0 器高：残存高3.3	5 屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部に内傾する面を有し、3条の退化凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部の内外面にハケ調整を施す。	7.5YR7/4 にぶい橙	
373	Y3322	甕 A d III 2	SH-310 上層	口径：19.8 器高：残存高5.3	20 肩の張る体部から屈折して内湾して開く口縁部。端部に面を有する。口縁部は粗いヨコナデ調整。体部外面を叩き。内面をハケで調整する。	5YR4/3 にぶい赤褐	
374	Y3317	甕 I 1	SH-310 上層	口径：21.0 器高：残存高2.3	5 肩の張る体部。外面をハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：10YR6/6 明黄褐	
375	Y3323	底部	SH-310 上層	器高：残存高3.8 底径：5.0	5 平底の底部。外面を板ナデ。内面にヘラケズリを施す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
376	Y3318	脚部	SH-310 上層	器高：7.3 底径：14.0	20 中空の脚部から強く外反して開く脚部で、円形の透孔を穿つ。裾部外面に3条の擬凹線を巡らす。外面はヘラミガキ調整。脚部内面はナデあるいは板ナデ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：5YR7/6 橙	
377	Y3320	脚部	SH-310 上層	腹径：2.7 器高：残存高5.0	5 中実の脚柱部。体部は急な角度で立ち上がる。調整は観察不能。	5YR6/6 橙	
378	Y3343	壺	SH-311	口径：13.4 器高：残存高3.5	5 体部から屈曲して外反気味に開き、屈折して短く直立する口縁部。端部は丸く収める。ヨコナデ調整で仕上げる。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR5/6 明褐	
379	Y3338	短頸壺	SH-311	口径：11.2 器高：残存高4.9	20 直立する頸部から短く外反する口縁部。端部は面を有する。口縁部はヨコナデ調整。頸部外面はハケ調整。内面はナデ調整で、粘土紐の接合痕を残す。	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR3/1 黒褐	
380	Y3348	広口壺 C b 3	SH-311 上層	口径：24.0 器高：残存高3.1	10 下方に垂下する口縁部。外面に2個1組の円形浮文を等間隔に配し、その間を4個の竹管文で加飾する。内面にヘラミガキ調整を施す。	外：5YR5/6 明赤褐 内：5YR2/1 黒褐	
381	Y3327	細頸壺	SH-311	腹径：6.8 器高：6.5	5 体部から屈折し、直線的に長く立ち上がる頸部。口縁部は欠損する。調整は観察不能。	7.5YR6/6 橙	
382	Y3332	無頸壺	SH-311	口径：10.8 器高：残存高5.0	10 扁平な体部からわずかに屈曲して短く立ち上がる口縁部。端部は丸く収める。肩部に2列の櫛描き波状文を施文する。	2.5YR6/8 橙	
383	Y3344	甕 A a I 1	SH-311	口径：17.6 器高：残存高4.7	5 「く」の字形に開く口縁部。端部に面を有する。体部内面の肩部以下をヘラケズリする。	外：10YR7/2 黄橙 内：10YR4/1 褐灰	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
384	Y3328	甕 Aa I 1	SH-311 上層	口径：21.6 器高：5.6	10 屈折して外反して開く口縁部。端部を上下に肥厚させ、2条の擬回線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部外面をハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	外：10YR7/2 灰黄褐 内：10YR7/3 にぶい黄橙	
385	Y3336	甕 Af I 1	SH-311	口径：17.8 器高：残存高6.9	10 肩の張る体部から屈折して短く外反し、端部を上方へつまみ上げる。口縁部はヨコナデ調整。体部外面をハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	7.5YR5/2 灰褐	搬入土器
386	Y3334	甕 Aa I 2	SH-311	口径：14.4 器高：1.8	5 締まりが弱い頸部から屈折して水平に短く開く口縁部。端部は面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面はハケ調整。内面にナデ調整を施す。	5YR6/8 橙	
387	Y3346	底部	SH-311	器高：残存高2.8 底径：5.6	5 平底の底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。境はくびれを有する。体部外面をナデ調整。内面にハケ調整を施す。	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：5YR2/1 黒褐	
388	Y3335	高坏 A 1	SH-311	口径：20.2 器高：残存高3.5	5 屈折して外反する口縁部。端部は尖り気味となる。口縁部はヨコナデ調整。体部外面をヘラミガキ調整する。	7.5YR7/4 にぶい橙	
389	Y3329	脚部	SH-311	器高：残存高6.7	5 外反気味に開く脚部。端部をわずかに上方へ肥厚させる。端部に面を有し、1条の擬回線を巡らす。外面をヘラミガキ調整。内面をハケ調整で仕上げる。	5YR6/6 橙	
390	Y3349	脚部	SH-311	器高：残存高10.1	20 中空の脚柱部。円形の透穴を穿つ。内面に工具痕を残す。坏部との接合に円盤充填技法を用いる。	5YR6/8 橙	二次焼成受け る
391	Y3330	脚部	SH-311 上層	器高：残存高10.1	20 中実の脚柱部。外面をヘラミガキ調整する。坏部との接合は挿入付加法。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：5YR6/6 橙	
392	Y3337	脚部	SH-311	器高：残存高7.8	20 中実の脚柱部。外面をヘラミガキ調整する。坏部との接合は挿入付加法。	7.5YR7/4 にぶい橙	
393	Y3331	小型土器 鉢	SH-311	器高：残存高2.7 底径：3.6	30 平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。	外：10YR5/2 灰黄褐	
394	Y3342	小型土器 鉢	SH-311	口径：6.8 器高：残存高4.0 底径：2.8	30 平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部で、口縁端部は丸く収める。	外：5YR5/8 明赤褐 N3/ 暗灰 内：5YR5/8 明赤褐	
395	Y3369	広口壺	SH-312 下層	口径：17.6 器高：残存高1.5	5 端部をわずかに上下に肥厚させる口縁部。外面に2条の擬回線を巡らせ、その上から竹管文を施す。	5YR5/8 明赤褐	
396	Y3354	広口壺	SH-312 上層	口径：20.6 器高：残存高3.4	10 外反して開く口縁部で、端部を上下に肥厚する。端部に面を有し、1条の擬回線を巡らす。	5YR6/8 橙	二次焼成受け る
397	Y3359	甕 A a	SH-312 上層	口径：20.6 器高：残存高2.2	5 短く外反する口縁部。端部に面を有し、1条の擬回線を巡らす。ヨコナデ調整で仕上げる。	外：10YR5/4 にぶい黄褐 内：10YR5/3 にぶい黄褐	
398	Y3358	広口壺	SH-312 上層	口径：18.2 器高：残存高2.1	5 外反して開く口縁部で、端部を下方に肥厚する。端部に面を有する。	7.5YR5/6 明褐	
399	Y3352	短頸壺	SH-312 上層	口径：13.4 器高：残存高3.6	5 内湾して外方に立ち上がる口縁部。端部を丸く收める。端部をヨコナデ調整し、それ以外の外面をヘラミガキ調整する。	7.5YR6/6 橙	
400	Y3364	甕 A a	SH-312 上層	—	5 屈折して外反気味に開く口縁部。端部をわずかに上方につまみ上げ、面を有する。口縁部をヨコナデ調整。体部内面にヘラケズリを施す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
401	Y3361	甕 A a	SH-312 上層	口径：24.0 器高：残存高2.8	5 短く外反する口縁部。端部を下方に肥厚させ、面を有する。ヨコナデ調整で仕上げる。	5YR5/6 明赤褐	
402	Y3353	甕 A b	SH-312 上層	口径：17.4 器高：1.6	5 屈折して直線的に開く口縁部。端部に外傾する面を有する。ヨコナデ調整で仕上げる。	10YR6/4 にぶい黄橙	
403	Y3392	鉢 Ab 3	SH-312 上層	口径：36.0 器高：残存高3.0	5 屈折して開く口縁部。端部を丸く收める。体部と口縁部の境に指押さえの痕跡を残す。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：10YR6/3 にぶい黄橙 10YR2/1 黒	
404	Y3362	底部	SH-312 上層	器高：残存高3.1 底径：3.1	10 中央が凹む底部から、急角度で立ち上がる体部。調整は観察不能。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：7.5YR6/6 橙	
405	Y3355	底部	SH-312 上層	器高：残存高2.7 底径：3.8	5 中央が凹む底部。体部外面は叩き。内面は板ナデ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：2.5Y5/2 暗黄灰	
406	Y3368	底部	SH-312 下層	器高：残存高3.1 底径：5.0	10 平底の底部から急角度で立ち上がる体部。体部外面は叩き。内面はナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：10YR5/2 灰黄褐	
407	Y3367	底部	SH-312 下層	器高：残存高3.4 底径：3.9	10 中央が凹む底部から急角度で立ち上がる体部。体部外面は叩き。内面はナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR7/6 橙	
408	Y3363	高坏 A 3	SH-312 上層	口径：21.8 器高：3.5	10 屈折し、外反して開く口縁部。端部は丸く收める。外面に5条の擬回線を巡らす。	外：5YR5/6 明赤褐 内：5YR6/6 明赤褐	
409	Y3357	器台	SH-312 上層	口径：19.8 器高：残存高2.6	5 直線的に開き、端部が下方にわずかに肥厚する。	5YR6/6 橙	
410	Y3360	高坏 A 1	SH-312 上層	—	5 内湾気味の体部から屈折して直線的に開く口縁部。屈折する稜は不明瞭。	5YR7/6 橙	
411	Y3351	脚部	SH-312 上層	腹径：5.1 器高：7.0	5 中空の脚柱部。調整は観察不能。	外：5YR6/6 橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
412	Y3400	広口壺 A a	SH-313 上層	口径：18.4 器高：残存高3.3	5 頸部から外反して開く口縁部。端部に面を有する。	5YR5/6 明赤褐	二次焼成受け る
413	Y3409	広口壺 Ca 3	SH-313 上層	口径：26.0 器高：残存高3.7	5 頸部から外反気味に開き、端部を肥厚させる。端部外面に櫛描波状文を加飾する。端部はヨコナデ調整。外面にヘラミガキを施す。	外：5YR7/6 橙 内：5YR4/1 褐灰	
414	Y3387	短頸壺	SH-313 下層	口径：13.8 器高：7.5	10 直立する頸部から、端部がわずかに外反し、丸く收める。ハケ調整で仕上げる。	2.5YR5/8 明赤褐	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
415	Y3374	短頸壺	SH-313 下層	口径：8.3 器高：残存高4.7	20 外反気味に直立する口縁部。端部はヨコナデ調整で丸く收める。外面はヘラミガキ調整で、内面に粘土紐の接合痕を残す。	5YR7/6 橙	
416	Y3391	甕 A a	SH-313 上層	口径：16.0 器高：残存高1.6	5 端部が肥厚する口縁部で、外面に2条の擬凹線を施す。ヨコナデ調整。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：10YR7/4 にぶい橙	
417	Y3402	甕 A a	SH-313 上層	口径：17.0 器高：残存高2.3	5 短く外反して開く口縁部。端部を上方へつまみ上げ、外面に1条の擬凹線を巡らす。ヨコナデ調整で仕上げる。	7.5YR5/4 にぶい褐	
418	Y3388	甕 A a	SH-313	口径：15.0 器高：残存高1.4	5 短く外反して開く口縁部。端部をわずかに上方へつまみ上げ、面を有する。	2.5YR5/8 明赤褐	
419	Y3383	甕 A a	SH-313 下層	—	5 端部に面を有する口縁部。ヨコナデ調整で仕上げる。	7.5YR6/6 橙	
420	Y3381	甕 A b	SH-313 上層	口径：20.2 器高：残存高2.5	5 屈折して内湾気味に開く口縁部。端部を上方につまみ上げ気味とし、面を有する。	5YR6/6 橙	
421	Y3397	小型土器 鉢	SH-313 上層	器高：残存高3.7 底径：4.3	20 中央が凹む底部。体部は内湾して立ち上がり、外面をナデ、内面をハケ調整する。底部側面に明瞭な指押さえの痕跡を残す。	5YR5/6 明赤褐	
422	Y3376	底部	SH-313 下層	器高：残存高2.1 底径：4.7	10 平底の底部から大きく開く体部。調整は観察不能。	外：10YR5/6 赤 内：7.5YR7/6 橙	
423	Y3410	底部	SH-313 上層	器高：残存高3.4 底径：2.5	10 丸底に近い小さな底部から内湾する体部。外面に叩きが残る。	外：5YR4/6 赤褐 内：7.5YR6/6 橙	
424	Y3396	底部	SH-313 上層	器高：残存高3.1 底径：4.6	10 中央が凹む底部。側面に明瞭な指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
425	Y3393	底部	SH-313 上層	器高：2.8 底径：3.5	10 中央が凹む小さな底部から内湾して立ち上がる体部。外面は叩きの後ハケ、内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR5/6 明赤褐	
426	Y3406	鉢 A b 1	SH-313 上層	口径：22.6 器高：残存高4.0	10 内湾する体部から屈折して開く口縁部。端部に外傾する面を有し、1条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部内面にハケ調整を施す。	5YR5/6 明赤褐	
427	Y3377	底部	SH-313 下層	器高：残存高4.2 底径：4.0	10 中央が凹む底部から内湾して立ち上がる体部。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR6/6 橙	
428	Y3407	底部	SH-313 上層	器高：5.5 底径：5.6	20 平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面に叩き。内面にハケ調整を施す。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：2.5Y4/1 黄灰	
429	Y3385	鉢 A b 1	SH-313 下層	口径：19.0 器高：残存高3.5	10 内湾する体部から屈曲して短く水平に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部内面にハケ調整を施す。	外：7.5YR5/4 にぶい褐 内：7.5YR3/1 黒褐	
430	Y3371	小型土器 鉢	SH-313 下層	口径：6.7 器高：3.0 底径：3.0	90 中央がわずかに凹む底部から内湾して立ち上がる体部。端部は尖り気味となる。	7.5YR7/6 橙	
431	Y3372	小型土器 鉢	SH-313 下層	口径：8.1 器高：4.4 底径：3.0	90 中央が凹む底部から内湾気味に立ち上がる体部。端部は丸く收める。内面を板ナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5Y2/1 黒	
432	Y3382	鉢 B a	SH-313 下層	口径：11.0 器高：残存高3.0	10 直線的に開く体部。端部は丸く收める。内面をハケ調整。	7.5YR6/4 にぶい橙	
433	Y3380	鉢 A b 3	SH-313 下層	口径：19.8 器高：8.5 底径：3.9	70 平底の底部から直線的に開く体部。口縁部は屈曲し、水平に開く。端部は丸く收める。ナデ調整で仕上げる。	2.5YR5/8 明赤褐	
434	Y3379	高坏	SH-313 上層	器高：3.0	10 内外面ハケ調整。脚部との接合に円盤充填技法を用いる。	外：2.5YR6/6 橙 内：10YR3/1 黒褐	
435	Y3373	鉢 B b	SH-313 下層	口径：13.5 器高：残存高7.8 底径：4.2	90 平底の底部から内湾して立ち上がる体部。端部を丸く收める。外面を叩き。内面にハケ調整を施す。	外：7.5YR6/6 橙 7.5YR2/1 黒 内：7.5YR6/6 橙	
436	Y3375	高坏 A 1	SH-313 下層	口径：22.4 器高：残存高4.7	10 内湾する浅めの体部から屈折して外反する口縁部。端部を欠損する。口縁部はヨコナデ調整。	2.5YR4/6 赤褐	
437	Y3404	鉢 A a	SH-313 上層	口径：27.8 器高：残存高5.7	5 内湾気味に立ち上がる体部からわずかに屈折し、外方に直線的に開く口縁部。端部は丸く收める。	外：5YR6/8 橙 内：5YR5/8 明赤褐	
438	Y3399	器台 B b	SH-313 上層	口径：24.6 器高：残存高2.5	5 下方に垂下する口縁部。外面上端に1条の擬凹線とその下部に櫛描波状文を巡らせ、その上に2個1組の竹管円形浮文を加飾する。	7.5YR5/6 明褐	
439	Y3389	器台 B b	SH-313 上層	口径：19.3 器高：残存高1.8	5 下方に垂下する口縁部。外面に4条の擬凹線を巡らせ、その上に竹管円形浮文を加飾する。内面はヘラミガキ調整を施す。	10YR7/4 にぶい黄橙	
440	Y3519	器台 A	SH-313 床面直上	口径：16.1 器高：15.1 底径：14.2	80 円筒形の脚柱部から屈曲して開く脚部。裾部はヨコナデ調整し、端部に面を有する。4方向に円形の透穴を穿つ。受部は外方に外反気味に開き、端部をヨコナデ調整し面を有する。内外面にヘラミガキ調整を施す。	7.5YR7/6 橙	
441	Y3413	広口壺 A b	SH-314 上層	口径：15.4 器高：残存高4.1	10 体部から屈折し、短く直立した頸部から外反して開く口縁部。端部をわずかに肥厚させ、面を有する。	5YR5/6 明赤褐	
442	Y3417	甕 A b	SH-314 上層	口径：18.0 器高：残存高3.7	10 屈曲して外方に開く口縁部。端部をわずかに上方につまみ上げる。	外：7.5YR4/2 灰褐 内：7.5YR5/6 明褐	
443	Y3411	鉢 B b	SH-314 上層	口径：13.0 器高：残存高6.6 底径：4.4	40 突出する平底の底部から内湾して立ち上がる体部。口縁端部は丸く收める。体部はナデ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	N2/ 黒	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
444	Y3416	甕 A a I 1	SH-314 上層	口径：16.7 器高：残存高5.4	10 体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部をヨコナデで調整。体部外面をハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	7.5YR6/6 橙	
445	Y3412	鉢 B a	SH-314 上層	口径：20.8 器高：残存高8.9	10 外上方に直線的に立ち上がる体部から内湾して短く立ち上がる口縁部。端部は丸く収める。外面に叩き。内面にハケ調整を施す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：N2/ 黒	
446	Y3414	脚部	SH-314 上層	器高：残存高3.6	10 短く「ハ」の字形に開く脚部。円形の透穴を穿つ。端部を欠損する。	外：7.5YR7/6 橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
447	Y3421	広口壺 C a 1	SH-316 上層	口径：17.2 器高：残存高1.9	5 外反気味に開く口縁部。端部を下方に肥厚させ、内傾する面を有する。端部をヨコナデ調整。内外面をヘラミガキで調整する。	5YR6/8 橙	
448	Y3419	甕 B c	SH-316 下層	—	5 屈曲して開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。内外面ナデ調整。	外：2.5YR4/2 灰赤 内：2.5YR4/4 にぶい赤褐	
449	Y3423	甕 A b	SH-316 下層	口径：20.0 器高：残存高2.7	5 体部から屈折して開き、端部を上方へつまみあげる。口縁部はヨコナデ調整。体部内面はヘラミガキを施す。	外：10YR3/2 黒褐 5YR5/4 にぶい赤褐 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
450	Y3429	底部	SH-316 下層	器高：3.4 底径：5.2	10 中央が凹む底部。体部外面はハケ調整。底部側面に明瞭な指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
451	Y3426	底部	SH-316 下層	器高：残存高3.0 底径：4.4	10 中央が凹む底部。体部内外面をハケ調整。底部側面に明瞭な指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR6/8 橙 内：7.5YR6/6 橙	
452	Y3430	底部	SH-316 下層	器高：残存高6.0 底径：5.5	20 中央が凹む底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。外面をナデ調整、内面をハケ調整する。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：5YR5/6 明赤褐	
453	Y3428	底部	SH-316 下層	器高：残存高3.2 底径：4.0	10 中央が凹む底部から外上方に開き気味に立ち上がる体部。外面に叩き。内面をハケ調整する。	5YR6/8 橙	
454	Y3439	有孔鉢 D 1	SH-316 上層	器高：4.6 底径：4.3	20 突出する底部から外上方に直線的に開く体部。底部中央に1穴を穿つ。外面は叩き。内面にハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
455	Y3437	有孔鉢 D 1	SH-316 上層	器高：残存高2.1 底径：4.2	10 突出する平底底部の中央に1穴を穿つ。内面にハケ調整を施す。	外：10YR3/2 黒褐 内：5YR4/3 にぶい赤褐	
456	Y3422	小型土器 鉢	SH-316 下層	口径：10.0 器高：残存高4.1	20 内湾する体部から屈折して外上方に直線的に開く口縁部。端部は丸く収める。ナデ調整で、内面に粘土紐の接合痕を残す。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/6 橙 2/1 黒	
457	Y3420	小型土器 鉢	SH-316 下層	器高：残存高2.5 底径：4.4	30 中央が凹む底部から内湾して立ち上がる体部。外面をナデ調整、内面をハケ調整する。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
458	Y3433	高坏 A 3	SH-316 上層	口径：21.6 器高：残存高4.0	10 屈折して外反する口縁部。外面に6条の擬凹線を巡らす。端部はヨコナデ調整で丸く収める。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/8 橙	
459	Y3427	高坏脚部	SH-316 下層	器高：残存高5.8	30 短い脚柱部から「ハ」の字形に開く脚部。内外面にハケ調整を施す。体部は内湾する。	5YR6/6 橙	
460	Y3424	高坏脚部	SH-316 下層	器高：残存高5.6	30 中実の脚柱部。屈折して開く脚部を有する。円形の透穴を穿つ。外面はヘラミガキで調整するが、脚柱部上半にハケあるいは板ナデ調整痕を認める。坏部との接合は付加挿入法を用いる。	5YR7/6 橙	
461	Y3434	高坏脚部	SH-316 上層	腹径：3.4 器高：残存高6.3	20 丈高な円筒形の脚柱部から短く外反し開く脚部。端部はヨコナデ調整で面を有する。受部は外反して大きく開き、端部がわざかに肥厚する。内傾する面に1条の擬凹線を施す。脚柱部に2段4方向の円形の透穴を穿つ。外面をヘラミガキ、脚部内面を板ナデ調整する。	5YR7/6 橙	
462	Y3431	器台 A	SH-316 上層	口径：18.6 腹径：7.6 器高：17.3 底径：14.8	100 脚部・受部ともに外反気味に開く単純な作りの器台。端部に面を有する。外面は叩きの後ハケ調整するが、調整が粗く叩きを残す。内面も粗いハケ調整。	7.5YR7/4 にぶい橙	粗製淡路型器台
463	Y3520	器台 C	SH-316 下層	口径：14.0 器高：残存高16.7 底径：12.5	70 細い円筒形の中空脚柱部。屈曲して開く脚部に円形の透穴を穿つ。外面はヘラミガキ調整。坏部との接合に円盤充填技法を用いる。	5YR5/6 明赤褐	
464	Y3441	高坏脚部	SH-317 壁溝	器高：残存高8.4	20 中空で円筒形の脚柱部。脚部は屈折して開く。外面上部に6条、中位に2条、下部に3条のヘラ描き沈線を巡らし、その間にヘラ先端で斜めに刻み状の文様を施す。坏部との接合は、円盤充填技法を用いる。	2.5YR6/8 橙	
465	Y0163	鉢 B b	SD-201	口径：11.1 器高：9.5 底径：5.0	90 中央が凹む突出する底部から内湾して立ち上がり、直立する口縁部。端部は丸く収める。外面にハケ調整、内面にナデ調整を施す。	7.5YR7/4 にぶい橙	
466	Y0162	鉢 C	SD-201	口径：12.6 底径：4.4	60 平底の底部から内湾して立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。体部中央部に把手が付く。体部外面をヘラケズリ調整し、口縁部および内面をナデ調整する。	7.5YR7/4 にぶい橙	
467	Y0167	底部	SD-201	底径：5.6	5 平底の底部から直立気味に立ち上がる体部。	7.5YR6/4 にぶい橙	
468	Y0169	底部	SD-202	器高：残存高3.1 底径：4.6	10 平底の底部から開き気味に立ち上がる体部。外面を叩きの後板ナデ。内面にハケ調整を施す。	5YR6/6 橙	
469	Y0166	底部	SD-202	底径：5.1	20 中央が凹む底部から大きく開き気味に立ち上がる体部。内面ハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
470	Y0165	底部	SD-202	器高：残存高3.5 底径：4.1	20 中央が凹む底部から大きく開き気味に立ち上がる体部。内面ハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR6/6 橙 内：5YR6/8 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
471	Y0171	底部	SD-202	底径: 3.8	10 中央が凹む底部から大きく開き気味に立ち上がる体部。外面は叩きの後板ナデ。内面はナデ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
472	Y0172	底部	SD-202	器高: 3.1 底径: 4.0	5 中央が凹む底部から開き気味に立ち上がる体部。外面はヘラミガキ。内面はハケ調整。	外: N4/ 灰 内: 7.5YR6/6 橙	
473	Y0174	高杯 B 1	SD-202	口径: 16.0 器高: 残存高3.5	5 内湾し、口縁部が内傾する杯部。口縁端部は尖り気味となる。ナデ調整で仕上げる。	2.5YR4/4 にぶい赤褐	
474	Y0168	底部	SD-202	底径: 4.9	10 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。外面は叩きの後板ナデ。内面はハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 10R5/6 赤 内: 2.5Y3/1 黒褐色	
475	Y0164	鉢 B a	SD-202	口径: 15.1 器高: 8.8 底径: 3.4	70 中央が凹む底部から外上方に直線的に立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。外面は叩きの後、ナデ調整。内面はナデ調整で、底部外面をヘラケズリする。	外: 7.5YR5/3 にぶい褐 内: 10YR6/3 にぶい黄橙	
476	Y0173	鉢 A b 1	SD-202	口径: 24.0 器高: 残存高4.0	5 内湾する体部から屈曲して外反する口縁部。端部に面を有し、2条の擬凹線を施す。口縁部はヨコナデ調整。体部内外面をヘラミガキする。	外: 7.5YR4/1 褐灰 内: 7.5YR5/2 灰褐	
477	Y0180	甕 A b	SD-204	口径: 15.0 器高: 1.4	5 屈曲して開き、端部を上方につまみ上げる口縁部。ヨコナデ調整を施す。	外: 10YR7/4 にぶい黄橙 内: 10YR6/4 にぶい黄橙	
478	Y0179	甕 A a	SD-204	—	5 外反気味に短く開く口縁部。端部に面を有する。ヨコナデ調整。	外: 7.5YR5/1 褐灰 内: 7.5YR5/4 にぶい褐	
479	Y0175	鉢 A a	SD-203	口径: 18.8 器高: 3.4	5 内湾気味に体部から屈折して外上方に開く口縁部。端部は内傾する面を有し、1条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整を施す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
480	Y0177	甕 C e	SD-203	口径: 18.4 器高: 2.9	5 外反気味に開く口縁部。端部は丸く収める。	5YR6/6 橙	
481	Y0176	底部	SD-203	器高: 3.4 底径: 3.6	5 小さめの平底底部から急な角度で立ち上がる体部。内面をハケ調整。	外: 7.5YR3/1 黒褐 内: 2.5YR5/6 明赤褐	
482	Y0181	甕 C e	SD-204	—	5 短く直線的に開く口縁部。端部は丸く収める。	外: 5YR5/4 にぶい赤褐 内: 7.5YR6/4 にぶい橙	
483	Y0178	脚部	SD-204	器高: 残存高1.9 底径: 18.0	5 外反気味に大きく開く脚部。裾部に3条の擬凹線を巡らす。円形の透孔を穿つ。外面をヘラミガキ調整し、端部はヨコナデ調整で仕上げる。	5YR6/6 橙	
484	Y0184	底部	SD-210	器高: 残存高4.7 底径: 6.2	5 平底の底部から急な角度で立ち上がる体部。外面に叩き。底部側面に指押さえの痕跡を有する。	外: 7.5YR3/3 暗褐 内: 2.5YR5/6 明赤褐	
485	Y0191	甕	SD-210	口径: 16.0 器高: 残存高2.1	5 屈折して内湾気味に開く口縁部。端部に水平な面を有する。	5YR5/6 明赤褐	
486	Y0183	底部	SD-209	器高: 残存高3.3 底径: 3.8	5 中央部が凹む底部。体部外面に叩き。内面はナデ調整。	外: 7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR5/1 褐灰 内: 7.5YR6/6 橙	
487	Y0188	底部	SD-210	器高: 4.2 底径: 4.8	10 平底の底部から外上方に直線的に開く体部。外面に叩きの後ナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 5YR4/1 褐灰 内: 7.5YR5/2 灰褐	
488	Y0186	甕 A a I 1	SD-210	口径: 20.0 器高: 残存高6.0	10 体部から屈曲し、外反する口縁部。端部に面を有し、1条の擬凹線を施す。口縁部はヨコナデ調整。体部外面をハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	外: 7.5YR6/4 にぶい橙 内: 5YR5/4 にぶい赤褐	
489	Y0187	壺	SD-210	口径: 13.6 器高: 残存高3.2	5 扁平な体部から屈曲し、短く外反する口縁部。端部は丸く収める。口縁部はヨコナデ調整。	7.5YR6/6 橙	
490	Y0185	底部	SD-210	器高: 2.3 底径: 5.2	10 平底の底部。外面にハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	外: 10YR6/3 にぶい黄橙 内: 10YR5/1 褐灰	
491	Y0190	高杯脚部	SD-210	腹径: 3.2 器高: 7.9	10 中実の脚柱部から屈折して開く脚部。外面にヘラミガキ調整を施す。	外: 7.5YR6/4 にぶい橙 内: 7.5YR7/4 にぶい橙	
492	Y0182	甕 A a III 1	SD-210	口径: 18.7 器高: 5.1	10 肩の張る体部から屈折し、外反する口縁部で、端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部外面に叩き。内面にヘラケズリを施す。	外: 10YR7/3 にぶい黄橙 内: 7.5YR7/4 にぶい橙	
493	Y0192	脚部	SD-210	底径: 15.4	5 内湾気味に大きく開く脚部。裾部に2条の擬凹線を巡らす。	7.5YR7/4 にぶい橙	
494	Y0194	広口壺 C a 1	SD-214	口径: 14.4 器高: 残存高2.1	5 直立気味に頸部から強く外反して開く口縁部。端部をわずかに上方に肥厚させ、直立する面を有する。	5YR6/8 橙	
495	Y0197	脚部	SD-214	口径: 17.2 器高: 残存高2.7	5 外反気味に開く脚部で、端部に面を有する。外面をヘラミガキ調整する。	外: 7.5YR5/3 にぶい褐 内: 7.5YR5/4 にぶい褐	
496	Y0195	広口壺	SD-228	口径: 17.4 器高: 3.0	5 上方に外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。ヨコナデ調整で仕上げる。	2.5YR5/6 明赤褐	
497	Y3501	器台 B b	SD-302	口径: 17.6 器高: 残存高2.4	5 口縁部外面に粘土を付加し、端部に外傾する面を有する。端面に鋸歯文を加飾する。	外: 10YR6/4 にぶい黄橙 内: 10YR6/3 にぶい黄橙	
498	Y0196	底部	SD-214	器高: 5.9 底径: 5.2	5 平底の底部から、急な角度で直線的に立ち上がる体部。内外面ハケ調整で、底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外: 10YR6/4 にぶい黄橙 内: 10YR4/1 褐灰	
499	Y3506	甕 A a III 1	P-3389	口径: 16.4 器高: 残存高7.0	30 肩の張る体部から屈折し、開く口縁部。端部に面を有し、2条の擬凹線を施す。口縁部はヨコナデ調整。体部外面に叩き。内面にヘラケズリを施す。	外: 2.5YR5/6 明赤褐 5YR4/2 灰褐 内: 5YR5/6 明赤褐	
500	Y3509	有孔鉢 D 1	SD-304	器高: 残存高3.7 底径: 2.0	10 尖底気味の底部。中央に1穴を穿つ。外面をナデ調整。内面板ナデ調整。	5YR7/4 にぶい橙	
501	Y0129	鉢 A c 3	SK-205	口径: 12.4 器高: 4.6	5 体部から屈折し、内湾気味に短く開く口縁部。端部は丸く収める。口縁部はヨコナデ調整。体部外面にハケ調整を施す。	外: 7.5YR5/3 にぶい褐 内: 10YR7/4 にぶい黄橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
502	Y0133	壺	SK -205	器高：残存高4.4	20 扁平な体部。外面ハケ調整を施す。	2.5YR5/8 明赤褐	
503	Y0138	小型土器	SK -205	口径：3.0 腹径：3.2 器高：2.5 底径：2.0	100 手捏のミニチュア土器。	10YR6/4 にぶい黄橙	
504	Y0131	甕 A a II 1	SK -205	口径：20.0	20 屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。頸部外面に粘土紐の接合痕を残す。口縁部はヨコナデ調整。体部外面は叩きの後、下半にハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	7.5YR7/4 にぶい橙	
505	Y0130	甕 A a	SK -205	口径：13.8 器高：残存高3.1	5 屈曲して外反気味に開く口縁部。ヨコナデ調整により、端部に面を有する。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR7/4 にぶい橙	
506	Y0136	高坏脚部	SK -205	腹径：4.4 器高：8.4	20 中空の脚柱部。外面にヘラミガキ調整を施す。坏部との接合に円盤充填技法を用いる。	外：7.5YR6/2 灰褐 内：10YR8/3 浅黄橙	
507	Y0135	脚部	SK -205	器高：残存高8.6 底径：12.6	30 「ハ」の字形に開く脚部。裾部に1条の擬凹線を巡らせ、端部に面を有する。2個一対の円形の透孔を3方向に穿つ。外面をヘラミガキ調整する。体部との接合に円盤充填技法を用いる。	10YR7/4 にぶい黄橙	
508	Y0128	鉢 A a	SK -205	口径：29.0 器高：10.2 底径：4.6	60 内湾気味の体部からわずかに屈折し、外反気味に開く口縁部。端部に面を有し、1条の擬凹線を施す。外面をヘラミガキ、内面にハケ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	2.5YR6/6 橙	
509	Y0146	甕 A a	SK -206	口径：15.8	5 外反気味に開く口縁部。ヨコナデ調整で、端部に面を有する。	7.5YR7/6 橙	
510	Y0144	小型土器 甕	SK -206	器高：残存高2.9 底径：2.4	10 小さな平底底部から内湾気味に立ち上がる体部。ナデ調整を施す。	2.5YR5/6 明赤褐	
511	Y0143	底部	SK -206	器高：残存高2.8 底径：4.4	5 平底の底部から、開き気味に立ち上がる体部。外面ナデ調整。	外：2.5YR6/8 橙 内：2.5Y3/1 黒褐	
512	Y0145	甕 III 2	SK -206	腹径：18.6 器高：8.6	5 口縁部端部を欠損。口縁部はナデ調整。体部は外面叩き。内面にハケ調整を施す。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
513	Y0141	底部	SK -207	器高：残存高4.9 底径：6.0	5 突出する平底の底部。外面にハケ調整。内面をナデ調整。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR5/6 明赤褐 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
514	Y0142	底部	SK -207	器高：残存高3.0 底径：4.6	5 平底の底部。体部外面は叩きの後、板ナデ調整。内面はナデ調整。	5YR6/6 橙	
515	Y0139	壺 C a 1	SK -207	口径：21.0 器高：残存高5.6	5 頸部から屈折し、大きく開く口縁部。端部を上下に肥厚させ、直立する面を有する。口縁部はヨコナデ調整。	外：5YR7/6 橙 内：10YR8/4 浅黄橙 10YR5/1 褐灰	
516	Y0148		SK -207	腹径：3.3 器高：6.2	5 ハケ調整の後、平行沈線と波状文で加飾する体部の破片。	外：7.5YR6/3 にぶい褐 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
517	Y0140	高杯脚部	SK -207	器高：残存高7.3	20 外反気味に開く中空の脚柱部。脚部に円形の透孔を穿つ。外面をヘラミガキ調整する。坏部との接合に円盤充填技法を用いる。	外：5YR4/4 にぶい赤褐 内：2.5YR4/3 にぶい赤褐	
518	Y0150	壺	SK -208	頸径：12.6残存部位	10 屈折して直立する頸部。体部との境に断面三角形の貼付凸帯を巡らし、その上下に1列の竹管文列を加飾する。頸部外面はハケ調整。内面はナデ調整を施すが、粘土紐の接合痕を残す。	5YR6/4 にぶい橙	
519	Y0153	甕 A a III 1	SK -208	口径：17.8 器高：残存高5.1	10 屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部に面を有し、2条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部外面に叩き。肩部内面に指押さえの痕跡を残し、それ以下をヘラケズリする。	内外：5YR6/6 橙	
520	Y0151	甕 B a III 2	SK -208	口径：18.6 器高：残存高6.3	10 屈曲して外反気味に開く口縁部。端部に面を有し、2条の擬凹線を巡らす。口縁部外面に縦方向のハケ調整。体部外面に叩きを残す。	外：5YR5/8 明赤褐 内：5YR6/6 橙	
521	Y0159	器台	SK -208	器高：残存高12.9	40 円筒形の脚柱部から屈曲して開く脚部。受部は屈折して外上方に開く。脚柱部と裾部に4方向の円形透孔を穿つ。脚柱部の透孔に、貫通しないものがある。外面と受部内面にヘラミガキ調整。脚柱部内面にヘラケズリを施す。	2.5YR5/6 明赤褐	
522	Y0161	壺	SK -210	腹径：24.2 器高：6.5	5 球形の体部。外面にヘラミガキ調整。内面をヘラケズリする。	7.5YR7/4 にぶい橙	
523	Y0160	壺	SK -210	腹径：26.8 器高：残存高31.7 底径：8.0	60 突出する平底の底部に丈高の体部。屈曲して直立する頸部を有する。外面ハケ調整。内面に板ナデ調整を施す。底部上方を打ち欠き、円孔1穴を穿つ。	外：10YR5/3 にぶい黄橙 内：10YR3/1 黑褐	
524	Y0158	底部	SK -217	器高：残存高3.4 底径：4.1	10 平底の底部。調整は観察不能。	10YR7/3 にぶい黄橙	
525	Y3446	鉢 B b	SX -301	口径：14.7 器高：13.0 底径：5.0	30 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁部は直立し、端部を丸く収める。底部側面に叩きを残す。	2.5YR5/8 明赤褐	
526	Y3444	高坏 A 2	SX -301	口径：19.4	5 屈折して外反する口縁部。端部は丸く収める。口縁部下端に1条の擬凹線を巡らす。内面にヘラミガキ調整を施す。	7.5YR6/6 橙	
527	Y3450	底部	SX -301	器高：残存高3.0 底径：6.0	5 平底の底部。内面にヘラケズリを施す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：5YR6/6 橙	
528	Y3469	壺 C b 3	SX -302	口径：37.0	20 体部から屈折し外上方に開いた後、屈曲して大きく開く口縁部。端部は下方に垂下する。外面に3個1組の竹管文を等間隔で配置する。内面にヘラミガキ調整を施す。	7.5YR6/6 橙	二次焼成を受ける

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
529	Y3454	甕 A a	SX -302	口径：16.6 器高：残存高1.8	5 端部に面を有する口縁部。ヨコナデ調整で仕上げる。	外：7.5YR4/3 褐 内：7.5YR5/6 明褐	
530	Y3462	甕 A a	SX -302	口径：16.0 器高：残存高2.0	5 外反して開く口縁部。端部をわずかに上下に肥厚させ、面を有する。ヨコナデ調整で仕上げる。	5YR4/4 にぶい赤褐	
531	Y3456	甕 A a	SX -302	口径：18.8 器高：残存高2.6	5 外反して開く口縁部。端部をわずかに上下に肥厚させ、面を有する。	外：2.5YR6/8 橙 内：5YR6/8 橙	
532	Y3479	甕 A f	SX -302	口径：19.0 器高：残存高2.9	5 屈折して水平に開いた後、屈折して上方に短く立ち上がり、端部は丸く收める。外傾する面を有し、2条の擬凹線を巡らす。ヨコナデ調整で仕上げる。	7.5YR6/8 橙	
533	Y3465	広口長頸壺	SX -302	口径：21.8 器高：残存高17.3	30 体部から屈折し、長く伸びる頸部から外反して開く口縁部。端部は下方に肥厚し、端面に2条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。頸部内外面にハケ調整を施す。	2.5YR4/8 赤褐	
534	Y3460	短頸壺	SX -302	口径：11.0 口径：残存高11.3	20 体部からなだらかに屈曲して直立する口縁部。端部は丸く收める。	外：10YR8/3 浅黄橙 内：2.5Y8/4 淡黄 2.5Y 5/1 黄灰	
535	Y3471	底部	SX -302	器高：残存高8.5 底径：5.6	10 中央が凹む底部で外上方に直線的に立ち上がる体部。	10R5/8 赤	二次焼成を受ける
536	Y3451	底部	SX -302	器高：残存高3.1 底径：4.6	10 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。	5YR6/6 橙	
537	Y3458	底部	SX -302	器高：残存高3.2 底径：5.6	20 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。底部側面に指押さえの痕跡を有する。	外：5YR4/3 にぶい赤褐 内：5YR2/1 黒褐	
538	Y3464	底部	SX -302	器高：残存高3.3 底径：4.9	10 平底の底部から急な角度で立ち上がる体部。外面にハケ調整を施す。	外：2.5YR4/4 にぶい赤褐 内：2.5YR4/8 赤褐	
539	Y3466	底部	SX -302	器高：残存高3.7 底径：5.0	20 ドーナツ状に中央が凹む底部。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：7.5YR7/6 橙	
540	Y3476	底部	SX -302	器高：残存高6.8 底径：5.3	20 中央が凹む底部から直線的に立ち上がる体部。外面をハケ調整、内面にヘラケズリを施す。	外：7.5YR4/2 灰褐 内：7.5YR5/6 明褐 7.5 YR2/1 黒	
541	Y3463	甕 A a II 1	SX -302	口径：15.0 器高：19.8 底径：5.0	90 肩の張る体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。底部はドーナツ状に中央部が凹む。外面は叩きの後ハケ調整。内面にヘラケズリを施す。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
542	Y3467	鉢 B b	SX -302	口径：15.7 器高：7.9 底径：5.1	90 突出する平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く收める。内面は板ナデ調整。	外：10YR6/6 明黄褐 内：2.5Y3/1 黒褐	
543	Y3448	高杯 A 1	SX -302	口径：20.0 器高：残存高3.0	5 屈折して強く外反する口縁部。端部は丸く收める。	外：5YR5/6 明赤褐 5YR 2/1 黑褐 内：5YR5/6 明赤褐	
544	Y3452	脚部	SX -302	器高：残存高6.2	10 短い中実の脚部。脚部に円形の透かし孔を穿つ。	5YR6/6 橙	
545	Y3455	脚部	SX -302	器高：残存高5.2 底径：16.6	5 「ハ」の字形に開く脚部。裾部に2条の擬凹線を巡らせ、端部に面を有する。円形の透孔を穿つ。	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/8 橙	
546	Y3468	脚部	SX -302	残存高：7.2 底径：26.6	20 内湾気味に開いた後、わずかに外反し、端部に面を有する。円形を透孔を穿つ。	5YR5/8 明赤褐	
547	Y3665	受口壺	④-3 J 黒褐色土	口径：23.0 器高：7.2 残存高	10 外反して開いた後、屈折して直立する口縁部。外面に4条の凹線文を巡らせ、円形浮文を加飾する。口縁部はヨコナデ調整。頸部内外面にハケ調整を施す。	5YR5/8 明赤褐	
548	Y3640	甕 A a I 2	④-3 I 黒褐色土	口径：26.0 器高：5.5 残存高	10 肩の張る体部から屈折して「く」の字形に開く口縁部。端部を上下に肥厚させ、内傾する面に3条の凹線文を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部は内外面ハケ調整。	外：5YR5/6 明赤褐 内：5YR6/6 橙	
549	Y0266	広口壺 E a	④-2 D 黒褐色土	口径：16.4 器高：9.7 残存高	20 直立する頸部から屈折して水平に開く口縁部。口縁部はヨコナデ調整で、端部に面を有する。体部への移行はなだらかな曲線を描く。外面にヘラミガキ調整を施す。	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	搬入土器
550	Y0364	二重口縁壺	④-1 G 黒褐色砂混 りシルト	口径：27.6 器高：4.4	10 外反する口縁部外面に断面三角形の粘土紐を貼り付ける。端部は下方に肥厚し、外傾する面に2条の擬凹線を巡らす。その上に2個1組の竹管円形浮文を加飾する。外面にハケ調整を施す。	外：2.5YR6/8 橙 内：10YR6/6 明赤褐	
551	Y0323	鉢 A d	④-1 F 黒褐色土	口径：24.6	20 内湾する体部から屈折し、内湾して立ち上がる口縁部。外面に4条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部内外面に丁寧なヘラミガキを施す。	5YR6/6 橙	
552	Y0263	無頸壺	④-2 D 黒褐色土	口径：9.5 腹径：16.5 器高：10.7	30 屈曲して短く直立する口縁部。外面に2条の擬凹線を巡らす。体部への移行はなだらか。屈折して、平らな底部に移行する。底部との境に2条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部外面にヘラミガキ。内面にハケ調整を施す。	外：7.5YR6/6 橙 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
553	Y0378	器台 B b	④-1 G 黒褐色砂混 りシルト	口径：20.0 器高：5.6	20 外上方に直線的に開き、端部は下方に垂下する。外面に竹管円形浮文を加飾する。体部外面をヘラミガキ調整。	2.5YR5/6 明赤褐	
554	Y3581	広口壺 D	③-北 黒褐色土	口径：14.0 器高：4.0 残存高	10 頸部から外反気味に開いた後、屈折して直立する口縁部。外面に多条沈線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。頸部外面にヘラミガキ調整を施す。	外：5YR6/6 橙 内：5YR5/6 明赤褐	
555	Y0251	高杯 A 3	④-1 F 黒褐色砂混 りシルト	口径：17.6	20 内湾気味に開く体部から屈折して外反気味に立ち上がる口縁部。端部は丸く收める。外面に5条の擬凹線を巡らす。口縁部はヨコナデ調整。体部内外面にヘラミガキ調整を施す。	5YR	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
556	Y3615	高杯 A 1	④-3 C 地山面上	口径：14.7 器高：11.5 残存高	70 中空の脚柱部。坯部は、内湾気味に開き、屈折して強く外反して立ち上がる。端部は丸く収める。外面へラミガキ調整を施す。坯部との接合は、円盤充填技法を用いる。	5YR6/8 橙	
557	Y3542	甕 A f	①-C 黒褐色土	口径：18.0 器高：2.7 残存高	5 屈折して水平に開いた後、屈折して上方に短く立ち上がり、端部は丸く収める。外傾する面を有し、2条の擬凹線を巡らす。ヨコナデ調整で仕上げる。	5YR6/6 橙	
558	Y3589	蓋	③ 灰黃褐色粗砂	口径：16.2 器高：5.4 残存高	40 平坦な頂部から屈曲して大きく開く。端部は面を有する。ナデ調整。	7.5YR6/4 にぶい橙	
559	Y3631	杯型土器	④-3 D 地山直上	口径：10.6 器高：2.8 残存高	30 内湾する体部から屈折して内傾する口縁部。立ち上がりは外反気味で、端部は丸く収める。ナデ調整を施す。	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
560	Y0229	甕 C d III 2	④-2 A 旧耕作土	口径：9.9 腹径：13.0 器高：15.7 底径：4.0	90 短く外反し、端部に面を有する口縁部。底部は平底。最大径を体部中位にもつ。口縁部はナデ調整。頸部を縦方向のハケ調整。体部外面を叩き。内面を板ナデ調整する。	7.5YR7/4 にぶい橙	
561	Y3668	蓋	④-3 J 黒褐色土	器高：9.9 残存高 底径：18.0	60 外方に摘み出す頂部から外反気味に開く体部。端部は丸く収める。外面は叩きを残し、内面はナデ調整。	2.5YR5/6 明赤褐	
562	Y0273	有孔鉢 D b	④-1 E 遺構面上	器高：4.1 底径：3.2	20 丸底に近い底部に小さな円孔を2箇所穿つ。外面は叩き。内面を板ナデ調整する。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 N2/ 黒 内：10YR6/4 にぶい黄橙	
563	Y0227	底部	④-2 A 黒褐色土	器高：3.9 底径：4.0	10 平底の底部。側面から底に向けて斜めに細い円孔を穿つ。底部の対面する位置に2箇所穿たれる。体部外面はヘラミガキ調整。内面はナデ調整。	外：7.5Y6/4 にぶい橙 内：10YR5/2 灰黄褐	
564	Y0283	脚部	④-2 E 黒褐色砂混 りシルト	器高：7.8 残存高 底径：7.3	20 短く「ハ」の字形に開く脚部から、外上方に立ち上がる体部。外面をヘラケズリする。	外：10YR7/3 にぶい黄橙 内：10YR5/1 暗褐	
565	Y0340	有孔鉢 D a	④-1 F	口径：21.0 器高：14.4 底径：3.6	60 小さな底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸く収める。底部中央に円孔1穴を穿つ。体部外面は叩きを残す。	外：5YR5/3 にぶい赤褐 内：7.5YR5/2 灰褐	
566	Y3604	小型土器 壺	④-3 B 旧耕作土	口径：4.0 腹径：9.2 器高：5.8	40 算盤玉形の体部から屈曲して短く直立する口縁部。肩部内面に指押さえの痕跡を有する。	外：7.5YR6/4 にぶい橙 内：5YR6/4 にぶい橙	
567	Y0265	小型土器 壺	④-1 E 黒褐色土	口径：4.8 器高：6.2	60 扁平な体部から屈曲して短く直立する口縁部。底部は平坦。	外：3/ 暗灰 内：7.5YR にぶい橙	
568	Y0375	小型土器 壺	④-1 G 灰黃褐色砂 混りシルト	口径：5.0 器高：3.8 残存高	10 扁平な体部から短く直立する口縁部。頸部に2条の沈線と刺突文列を巡らす。	5YR6/8 橙	
569	Y0390	小型土器 壺	④-1 G 灰黃褐色砂 混りシルト	口径：7.0 器高：4.5	40 算盤玉形の体部から屈曲して短く直立する口縁部。	外：5YR6/6 橙 内：7.5YR6/4 にぶい橙	
570	Y0287	小型土器 甕	④-1 E 黒褐色砂混 りシルト	腹径：9.0 器高：3.5	5 屈折して外上方に短く開く口縁部。	7.5YR6/6 橙	
571	Y3630	小型土器 底部	④-3 D 地山面上	器高：9.7 残存高 底径：1.9	40 突出する平底の底部から細身の体部。内面にハケ調整を施す。	外：10YR7/4 にぶい黄橙 内：10YR6/3 にぶい黄橙	
572	Y0354	小型土器 底部	④-1 G 黒褐色砂混 りシルト	口径：8.6 器高：12.1 底径：3.7	70 無花果形の体部から屈折して短く開く口縁部。口縁部や体部内面に指頭痕を残す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：N4/ 灰	
573	Y0288	小型土器 底部	④-1 E 灰黃褐色シ ルト	器高：1.8 底径：2.1	30 中央がわずかに凹む底部。	外：7.5YR7/6 橙 内：5YR7/6 橙	
574	Y3610	小型土器 底部	④-3 B 地山上面	器高：3.3 残存高 底径：2.0	20 突出する底部から急角度で立ち上がる体部。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	外：5YR5/6 明赤褐 内：5YR2/1 黑褐	
575	Y0358	小型土器 底部	④-1 E 黒褐色砂混 りシルト	器高：1.8 底径：2.4	10 中央がわずかに凹む突出する底部。側面に指押さえの痕跡を残す。	外：2.5YR6/6 橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
576	Y3633	小型土器 底部	④-3 D 黒褐色土	器高：2.5 残存高 底径：3.0	20 突出する底部。側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR3/3 暗褐	
577	Y3626	小型土器 底部	④-3 D 黒褐色土	器高：1.8 残存高 底径：2.4	20 中央が凹む底部。側面に指押さえの痕跡を残す。	5YR6/6 橙	
578	Y3641	小型土器 底部	④-3 I 黒褐色土	器高：1.6 残存高 底径：1.7	20 突出する底部。側面に指押さえの痕跡を残す。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：7.5YR6/6 橙	
579	Y0383	小型土器 底部	④-1 G 黒褐色砂混 りシルト	底径：3.0	30 中央がわずかに凹む底部から急な角度で直線的に立ち上がる体部。内面に板ナデ調整を施す。底部側面に指押さえの痕跡を残す。	7.5YR6/4 にぶい橙	
580	Y3552	小型土器 高杯	①-C 黒褐色土	口径：9.8 器高：5.6	30 中空の脚部から直線的に開く。屈折して直立する口縁部で、端部は丸く収める。	5YR7/6 橙	
581	Y3644	小型土器 脚部	④-3 J 黒褐色土	器高：3.2 底径：4.8	30 短く「ハ」の字形に開く。外面へラミガキ調整を施し、端部は丸く収める。	外：7.5YR7/4 にぶい橙 内：10YR6/3 にぶい黄橙	
582	Y3546	イイダコ壺	① C 黒褐色土	口径：6.8 器高：3.6 残存高	5 内湾する口縁部の側面に円孔を穿つ。	外：10YR6/4 にぶい黄橙 内：5YR6/6 橙	

遺物 No.	器種	出土地区 遺構・層位	法量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色調	備考
583	Y3598	イイダコ壺 ④-3 A 旧耕作土	口径：8.2 器高：5.6	10	口縁部下に円孔を穿つ。口縁端部は丸い。	外：5YR6/6 橙 内：2.5YR6/6 橙	
584	Y3548	イイダコ壺 ① C 黒褐色土	器高：5.2 残存高	40	尖底の底部。	5YR6/6 橙	
585	Y3549	イイダコ壺 ① C 黒褐色土	器高：5.2 残存高	30	尖底の底部。	外：7.5YR6/6 橙 内：2.5YR5/6 明赤褐	
586	Y3618	イイダコ壺 ④-3 D 黒褐色土	底径：2.4	40	小さな平底底部。	2.5YR5/6 明赤褐	
587	Y3635	イイダコ壺 ④-3 D 攪乱土	器高：4.4 底径：3.0	10	小さな平底底部。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：2.5YR4/4 にぶい赤褐	
588	Y3553	イイダコ壺 ①-C 黒褐色土	口径：8.8 腹径：10.0 器高：11.1 底径：2.5	50	小さな平底の底部。口縁部は内湾する。	2.5YR5/6 明赤褐	
589	Y3617	イイダコ壺 ④-3 D 黒褐色土	口径：7.0 器高：10.5 残存高 底径：3.0	30	小さな平底の底部。口縁部は内湾する。口縁部下に円孔1穴を穿つ。	外：2.5YR4/4 にぶい赤褐 内：2.5YR4/6 赤褐	
590	Y3636	イイダコ壺 ④-3 D 黒褐色土	器高：7.8 残存高 底径：3.0	30	小さな平底底部。口縁部は内湾する。	5YR4/4 にぶい赤褐	
591	Y3547	イイダコ壺 ① C 黒褐色土	器高：2.3	5	小さな平底底部。	外：7.5YR5/4 にぶい褐 内：10YR5/2 灰黄褐	
592	Y0274	有孔円盤 ④-1 E 遺構面直上	直径：4.1cm 厚さ：1.0cm	100	土器片を転用した土製円盤。中央に両面から円孔を穿つが、貫通していない。外面にハケ調整痕を残す。	外：2.5YR5/6 明赤褐 内：2.5YR1.7/ 赤黒	未製品
593	Y0411	短頸壺 ⑦	口径：9.4 器高：8.8 残存高	30	体部から屈曲して直立する口縁部。端部は丸く收める。体部への移行はなだらか。肩部内面に指押さえの痕跡を残す。	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR6/6 橙	
594	Y0413	鉢 Ab1	⑦ 黒褐色土	口径：26.0 器高：5.7	内湾する体部から屈折して外反気味に開く口縁部。端部に面を有する。口縁部はヨコナデ調整。体部は内外面ハケ調整。	外：5YR5/4 にぶい赤褐 内：5YR6/6 橙	
595	Y0394	甕 Cc	⑦ 黒褐色土	口径：20.4 器高：4.1 残存高	屈曲して外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部はナデ調整で、外面に指頭痕を残す。体部外面は叩き。	2.5YR5/6 明赤褐	
596	Y0395	甕 Bc	⑦ 黒褐色土	口径：17.0	外反気味に開く口縁部。端部は、叩き原体による面成形の痕跡が刻み状に残る。口縁部内面に横方向のハケ調整を施す。	7.5YR5/3 にぶい褐	
597	Y0414	鉢 Ab3	⑦ 黒褐色土	口径：25.0 器高：9.2 残存高	内湾する体部から屈折して開く口縁部。端部は丸く收める。口縁端部はナデ調整。内外面ヘラミガキ調整。	外：2.5YR3/1 黒褐 内：2.5YR5/8 明赤褐	
598	Y0264	甕 CeIII2	⑦ 黒褐色土	口径：18.0 器高：5.7 残存高	体部から短く外反する口縁部。口縁部はナデ調整。体部外面に叩き。内面をナデ調整。	2.5YR4/8 赤褐	
599	Y0415	高杯 A1	⑦ 黒褐色土	口径：22.8 器高：4.2 残存高	屈折して外反気味に大きく開く口縁部。端部に面を有する。口縁端部をヨコナデ調整。外面をナデ調整。内面にヘラミガキ調整を施す。	外：7.5YR6/3 にぶい褐 7.5YR2/ 黒 内：5YR5/4 にぶい赤褐	
600	Y0410	底部	⑦ 黒褐色土	底径：6.3	突出する平底の底部。体部外面は叩き。内面はナデ調整で、側面に指押さえの痕跡を残す。底部外面にも叩きの痕跡を有する。	2.5YR5/6 明赤褐	
601	Y0417	底部	⑦ 黒褐色土	器高：2.0 残存高 底径：2.3	小さめの突出する底部。底部側面を貫通する円孔1穴を穿つ。	外：10YR7/3 にぶい黄橙 内：7.5YR7/4 にぶい橙	
602	Y0400	脚部	⑦ 旧耕作土	器高：10.7 残存高 底径：14.0	「ハ」の字形に開く脚部。端部に面を有する。外面にヘラミガキ調整を施す。	5YR6/6 橙	
603	Y0412	高杯 A1	⑦ 黒褐色土	口径：18.0 器高：15.0 残存高 底径：12.2	中空の「ハ」の字形に開く脚部。6方向に円形の透孔を穿つ。深めの坏部で、屈折して外上方に直線的に立ち上がる口縁部。端部は丸く收める。坏部はナデ調整。脚部外面にハケ調整を施す。坏部との接合に円盤充填技法を用いる。	外：5YR6/6 橙 内：2.5YR6/6 橙	
604	Y0406	脚部	⑦ 黒褐色土	底径：4.7 残存高	短く「ハ」の字形に開く脚部。体部との接合部に指押さえの痕跡を残す。脚部はナデ調整。	2.5YR5/8 明赤褐	
605	Y0405	脚部	⑦ 黒褐色土	器高：6.0 残存高 底径：11.2	短く「ハ」の字形に開く脚部。体部との接合部に指押さえの痕跡を残す。脚部はナデ調整。	外：2.5YR5/8 明赤褐 内：2.5YR4/8 赤褐	

## 土器観察表

遺物 No.	種別	器種	出土地区 遺構・層位	法 量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色 調	備 考
606 U3001	須恵器	鉢	SD - 302	口径：22.8 器高：2.1 残存高	5	断面が三角形に肥厚する。内外面ともにヨコナデ調整。	N 6 / 灰	東播系須恵器
607 U3002	須恵器	鉢	P - 3002	口径：22.0 器高：2.1 残存高	5	口縁端部を上方につまみ上げる。内外面回転ナデ調整。	外：N 5 / 0 灰 内：N 6 / 0 灰	東播系須恵器
608 H3013	土師器	皿	SB - 302 P - 02	口径：12.0 器高：2.6 残存高 底径：3.8	40	平底。底部と体部の境は不明瞭。体部は緩やかに斜め上方に開く。口縁部は強いヨコナデ調整。体部には指頭痕を残す。	7.5YR7 / 4 にぶい橙	轆轤未使用
609 H3014	土師器	皿	SB - 302 P - 02	口径：15.2 器高：3.5 残存高	20	体部は緩やかに斜め上方に開く。口縁部は強いヨコナデ調整。体部には指頭痕を残す。	外：7.5YR4 / 2 灰褐 内：7.5YR5 / 4 にぶい褐	轆轤未使用
610 H3007	土師器	皿	SD - 303	器高：2.1 底径：6.0	20	平底。底部と体部の境は強く屈曲する。体部はヨコナデ調整。	10YR7 / 4 にぶい黄橙	轆轤未使用
611 H3017	土師器	皿	P - 3137	口径：11.8 器高：2.5 残存高 底径：7.3	60	平底。体部は内湾して急な角度で立ち上がる。口縁端部は丸い。体部は回転ナデ調整。底部外面は未調整で回転糸切り痕を残す。	7.5YR7 / 6 橙	轆轤使用
612 H3006	土師器	皿	SD - 303	器高：1.5 底径：8.0	10	平底。底部と体部の境は強く屈曲する。体部はヨコナデ調整。	7.5YR7 / 8 黄橙	轆轤未使用
613 H3003	土師器	皿	② 北	器高：1.8 残存高 底径：9.5	10	平底。底部と体部の境は強く屈曲する。体部はヨコナデ調整。	7.5YR6 / 4 にぶい橙	轆轤未使用
614 H3009	土師器	皿	SD - 303	口径：13.0 器高：2.8 残存高 底径：5.8	60	平底高台の底部。内湾気味に斜め上方に開く体部。口縁部は丸い。体部は回転ナデ調整。底部外面は未調整で回転糸切り痕を残す。	7.5YR7 / 4 にぶい橙	轆轤使用
615 H3016	土師器	皿	P - 3129	器高：3.7 残存高	60	平底。底部と体部の境は強く屈曲する。体部はヨコナデ調整。	外：10YR5 / 2 灰黄褐 内：10YR7 / 2 にぶい黄橙	轆轤未使用
616 H3015	土師器	鍋	P - 3087	口径：17.0 器高：5.8	10	内湾する体部。口縁部は内傾し、端部は傾斜する面を有する。口縁部外面に断面三角形の短い鍔をもつ。口縁部はヨコナデ調整。体部は外面叩き。内面にハケ調整。	外：7.5YR4 / 1 褐灰 内：7.5YR5 / 1 褐灰	
617 H3012	土師器	鍋	④-3 P - 3294	口径：19.8 腹径：24.6 器高：12.2	70	内湾する体部。口縁部は内傾し、端部は傾斜する面を有する。口縁部外面に断面三角形の短い鍔をもつ。口縁部はヨコナデ調整。体部は外面叩き。内面は板ナデ調整。	5YR6 / 6 橙	
618 H3011	土師器	鍋	SD - 303	口径：20.5 器高：7.1	10	内湾する体部から短く外反する口縁部。口縁端部は水平な面を有する。口縁部は強いヨコナデ調整。体部外面は叩き。内面はハケ調整。	外：7.5YR4 / 2 灰褐 内：7.5YR5 / 3 にぶい褐	
619 H3005	土師器	鍋	SD - 303	口径：22.0 器高：6.0 残存高	5	内湾気味の体部からわざかに外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。口縁部は強いヨコナデ調整。体部外面は叩き。内面はナデ調整。	外：5YR2 / 1 黒褐 内：7.5YR5 / 3 にぶい褐	
620 H3010	土師器	鍋	SD - 303	口径：22.8 器高：2.8 残存高	10	口縁部は内傾し、端部は傾斜する面を有する。口縁部外面に断面三角形の短い鍔をもつ。口縁部はヨコナデ調整。体部は外面叩き。	5YR6 / 6 橙	
621 H3002	土師器	鍋	SD - 302	口径：19.4 器高：4.4	5	内湾する体部。口縁部は内傾し、端部は傾斜する面を有する。口縁部外面に断面三角形の短い鍔をもつ。口縁部はヨコナデ調整。体部は外面叩き。内面はハケ調整。	外：5YR7 / 4 にぶい橙 内：5YR7 / 6 橙	
622 H3004	土師器	鉢	SD - 303	口径：21.6 器高：5.2 残存高	5	直線的に斜め上方に立ち上がる体部。口縁部は上方に肥厚し。丸みをもつ。ナデ調整。	外：10YR7 / 4 にぶい黄橙 内：7.5YR7 / 4 にぶい橙	
623 G3001	瓦器	椀	④-3 SK - 301	口径：12.5 器高：3.8 底径：6.0	100	平底の底部から内湾気味に立ち上がる体部。口縁端部は丸い。体部内面に粗い平行ミガキを施す。	N 5 / 灰	
624 B3001	黒色土器	椀	SB - 302 P - 04	口径：14.6 器高：5.1	20	内湾する体部。口縁部はヨコナデ調整で、端部がわざかに外反し、内面に1条の回線を有する。	外：7.5YR7 / 6 橙 内：2.5Y3 / 1 黒褐	
625 D3001	無釉陶器	擂鉢	④-3 P - 3294	口径：27.8 器高：9.7 残存高 底径：12.2	10	口縁部を上下につまみ出し、内傾する面を有する。口縁部はヨコナデ調整。内面に5条1单位の擂目を刻む。片口を有する。	外：5YR5 / 3 にぶい赤褐 内：5YR4 / 2 灰褐	備前焼擂鉢IV A類
626 U3004	須恵器	鉢	④-3 B 旧耕作土	口径：27.2	5	断面三角形に肥厚する。内外面ともにヨコナデ調整。	N4 / 灰	東播系須恵器
627 U3003	須恵器	鉢	④-3 B 旧耕作土	口径：24.0 器高：3.2 残存高	5	断面三角形に肥厚する。内外面ともにヨコナデ調整。	外：N 4 / 0 灰 内：5 / 0 灰	東播系須恵器

遺物 No.	種別	器種	出土地区 遺構・層位	法 量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色 調	備 考
628	U0001	須恵器	杯	⑦ 暗褐色砂質土 器高：2.0 底径：6.5	5	平底。体部は内湾気味に立ち上がる。体部は回転ナデ調整。底部外面は未調整で回転糸切り痕を残す。	2.5YR8 / 1 灰白	
629	H0004	土師器	皿	④-2 E 暗褐色砂質土 口径：8.8 器高：0.8 残存高	10	底部と体部の境は不明瞭。体部は緩やかに斜め上方に開く。口縁部は強いヨコナデ調整で、「て」の字形に外反。体部には指頭痕を残す。	7.5YR7 / 6 橙	轆轤未使用
630	H3030	土師器	皿	④-3 D 暗褐色砂質土 口径：11.1 器高：1.7 残存高	90	平底。底部と体部の境は不明瞭。体部は緩やかに斜め上方に開く。口縁部は強いヨコナデ調整で、「て」の字形に外反。体部には指頭痕を残す。	5YR6 / 6 橙	轆轤未使用
631	H3029	土師器	皿	④-3 D 暗褐色砂質土 口径：13.8 器高：3.2	100	底部と体部の境は不明瞭。体部は緩やかに斜め上方に開く。口縁部は強いヨコナデ調整で、わずかに外反する。体部はナデ調整。	7.5YR8 / 4 浅黄橙	轆轤未使用
632	H3020	土師器	皿	① C 口径：9.2 器高：2.0 残存高 底径：6.0	70	平底。体部は短く、直線的に斜め上方に開く。口縁端部は丸い。体部は回転ナデ調整。底部外面に静止糸切り痕を残す。	7.5YR7 / 4 にぶい橙	轆轤使用
633	H3023	土師器	皿	④-3 旧耕作土 口径：8.5 器高：2.0 底径：5.3	60	平底。体部は短く、直線的に斜め上方に開く。口縁端部は丸い。体部は回転ナデ調整。底部外面に静止糸切り痕を残す。	7.5YR6 / 4 にぶい橙	轆轤使用
634	H3024	土師器	皿	④-3 B 旧耕作土 口径：6.8 器高：1.3 底径：5.2	100	平底。体部は短く、直線的に斜め上方に開く。口縁端部は丸い。体部は回転ナデ調整。底部外面に静止糸切り痕を残す。口縁部に煤付着箇所あり。	7.5YR6 / 4 にぶい橙	灯明皿
635	H3019	土師器	皿	① G 搅乱 口径：5.6 器高：0.95 底径：3.25	90	平底。底部と体部の境は不明瞭。体部は緩やかに斜め上方に開く。口縁部は尖り気味。回転ナデ調整で、底部に糸切り痕を残す。透明釉を施釉し、橙色に発色。体部外面は露台。口縁部に煤付着箇所あり。	外：7.5YR8 / 4 浅黄橙 内：5YR6 / 8 橙	いわゆる柿釉の灯明皿
636	H0005	土師器	鍋	⑦ 旧耕作土 口径：23.0 器高：6.1 残存高	10	内湾する体部。口縁部は内傾し、端部は傾斜する面を有する。口縁部外面に断面三角形の短い鋸をもつ。口縁部はヨコナデ調整。体部は外面叩き。内面にナデ調整。	外：2.5YR5 / 3 にぶい赤褐 内：2.5YR5 / 6 明赤褐	
637	H3031	土師器	甕	④-3 D 暗褐色砂質土 口径：20.0 腹径：25.4 器高：22.0	70	球形の体部から屈曲して短く外反する口縁部。端部は丸い。口縁部はヨコナデ調整。体部は内外面へラケズリ。	外：10YR5 / 3 にぶい黄橙 内：10YR6 / 3 にぶい黄橙	
638	B0008	黒色土器	椀 底部	④-1 E 暗褐色砂質土 器高：1.5 底径：8.0	5	断面が台形の輪高台を貼り付ける。	外：10YR8 / 3 浅黄橙 内：7.5Y2 / 1 黒	
639	B0010	黒色土器	椀 口縁部	④-2 E 暗褐色砂質土 口径：15.0 器高：3.0	5	内湾する体部。口縁部はヨコナデ調整で、端部がわずかに外反し、内面に1条の凹線を有する。内外面、黒色。	N 4 / 灰	
640	B0014	黒色土器	椀 底部	④-2 E 暗褐色砂質土 底径：6.6	5	断面三角形の低い輪高台を貼り付ける。	外：7.5YR7 / 6 橙 内：2.5YR4 / 1 黄灰	
641	B0012	黒色土器	椀 口縁部	④-2 E 暗褐色砂質土 口径：14.1	5	内湾する体部。口縁部はヨコナデ調整で、端部がわずかに外反し、内面に外傾する面を有する。	外：5YR6 / 6 橙 内：10YR3 / 1 黒褐	
642	B0003	黒色土器	椀 底部	④-1 E 地山面 器高：2.5 残存高 底径：8.7	5	断面三角形の低い輪高台を貼り付ける。	外：10YR8 / 3 浅黄橙 内：N 3 / 暗灰	
643	B0013	黒色土器	碗 口縁部	④-2 E 暗褐色砂質土 口径：14.8 器高：2.9 残存高	5	内湾する体部。口縁部はヨコナデ調整で、端部がわずかに外反し、内面に外傾する面を有する。	外：7.5YR7 / 6 橙 内：2.5Y2 / 1 黑	
644	N0001	綠釉陶器	皿	④-1 E 地割れ跡 口径：16.0 器高：1.6	20	水平に開く体部から内湾気味にわずかに立ち上がる口縁部。端部は丸い。須恵質の素地に内外面釉を施釉する。	5GY6 / 1 オリーブ灰	
645	T3001	土師器		④-3 I 口径：15.6 器高：3.0	5	厚手で直立する口縁部。端部に面を有する。内面にハケ調整。	外：10YR7 / 3 にぶい黄橙 内：10YR7 / 4 にぶい黄橙	
646	G3002	瓦器	椀	③-南 口径：12.4 器高：4.0 残存高 底径：4.6	70	底部は断面三角形の低い高台を貼り付ける。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸い。体部内面に粗い平行ミガキを施す。口縁部は強いヨコナデ調整。体部外面に指頭痕を残す。	N 3 / 暗灰	
647	D3003	施釉陶器	皿	④-3 B 旧耕作土 口径：11.0 器高：2.5 残存高 底径：4.6	30	幅が広く低い削り出し高台。底部と体部の境は屈曲。体部は直線的に斜め上方に開き、口縁部は外反する。内外面に施釉。体部の外面下半以下は露台。底部内面に3箇所の砂目跡あり。	7.5YR5 / 2 灰オリーブ	肥前系。唐津。

遺物 No.	種別	器種	出土地区 遺構・層位	法 量 (cm)	残存率 (%)	形態・技法の特徴	色 調	備 考
648 H3018	土師器	蛸壺	① G 撿乱土	口径：15.6 底径：10.6	20	平底。体部は直立する。口縁端部は短く外反し、丸みをもつ。底部外面に回転糸切り痕を残す。底部側面は横方向にへラケズリを施す。内外面回転ナデ調整。	10YR8 / 4 浅黄橙	
649 D3002	無釉陶器	擂鉢	① A 地山直上	口径：30.0 器高：7.8 残存高	10	端部が上下に肥厚し、面を有する。ナデ調整。内面に6条1単位の擂目を有する。	外：10YR6 / 4 にぶい黄橙 内：2.5 Y 6 / 1 黄灰	備前焼IVA類
650 D3005	無釉陶器	擂鉢	④-3 B 旧 耕作土	口径：29.8	5	屈折して上方に拡張する口縁部。ヨコナデ調整。	外：N 5 / 灰 内：10 R 4 / 1 暗赤灰	備前焼VII類

石器観察表

遺物番号	地区	遺構	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考	
1	S0036	④	SH-202	敲石 砥石	5.5	5.0	4.3	158.6	砂岩	上下端を折損。裏面が平滑で、使用面となる可能性あり。下端部付近に被熱による赤変箇所あり。		
2	S0035	④	SH-202	下層	敲石	10.6	3.3	2.4	138.0	砂岩	上下端部に敲打痕。裏面から左右側面にかけて、被熱による赤変。	
3	S0009	④	SH-202	敲石	11.7	10.3	4.6	850.8	石英	上下両端に敲打痕。下端面の敲打面は広範囲に広がる。裏面の一部に色調が赤変する部分あり。		
4	S0008	④	SH-203	敲石	12.5	8.0	5.0	714.9	砂岩	上下の両端に敲打痕。両端部から側面にかけて黒ずむ。正面・裏面が平滑で、砥石としても使用された可能性あり。		
5	S0016	④	SH-204	敲石	7.0	5.4	2.3	130.0	石英	上下端部及び左側面に敲打痕。いずれの面も使用頻度少ない。		
6	S0018	④	SH-204	敲石	10.1	5.4	4.5	361.0	石英	上下端部、及び右側面に敲打痕。下端部敲打痕内に、わずかなベンガラ付着。	ベンガラ付着	
7	S0017	④	SH-204	敲石	9.2	5.7	2.2	213.1	石英	上端左角及び下端右角を使用。左右の側面にも敲打痕を残す。		
8	S0007	④	SH-205	壁溝	敲石	7.9	3.4	2.5	94.9	砂岩	上下両端に敲打痕。下端部の潰れが激しく、円形の面を形成。上端部の敲打痕は小さい。正面が平滑で、砥石として使用された可能性もあり。	
9	S0013	④	SH-205	敲石	10.9	2.9	3.0	167.9	ハンレイ岩	下端部に敲打痕。潰れは弱い。		
10	S0010	④	SH-205	敲石	14.4	7.0	4.8	594.8	砂岩	上下両端に敲打痕。潰れは弱い。正面・裏面に、打ち欠きによる上下に並ぶ2個一対の凹みを穿つ。また、側面にも打ち欠きによる凹みを付ける。凹みは不整形で、φ 1.0 ~ 2.0cm、深さは 0.2 ~ 0.4cm を測る。	敲石No11 に共通する凹みを有する	
11	S0006	④	SH-205	敲石	11.1	7.5	6.4	992.5	ハンレイ岩	上下両端に敲打痕。両端の潰れが激しく、広い敲打面を形成する。四方側面に、打ち欠きによる上下に並ぶ2個一対の凹みを穿つ。凹みは梢円形で、2.0 × 1.5cm ~ 3.0 × 2.0cm、深さは 0.3 ~ 0.4cm を測る。	敲石No10 に共通する凹みを有する	
12	S0005	④	SH-205	敲石 砥石	15.5	11.7	6.1	1395.0	砂岩	上下端部、左側面に敲打痕。また、裏面及び下半両側面を研ぎ面として使用。特に、裏面は平滑な面となり、中央部がわずかに凹む。裏面から左側面にかけて、色調の黒ずみが認められる。		
13	S3038	④-3	SH-302	敲石 砥石	13.2	9.4	6.2	1295.0	ハンレイ岩	下端及び右側面に敲打痕。裏面を研ぎ面として使用。中央部がわずかに凹む。全体的に色調は黒ずむ。		
14	S3035	④-3	SH-302	下層	敲石	4.1	8.1	4.0	139.6	砂岩	上半折損。下端及び左側面に敲打痕。全体的に被熱による色調の赤変が認められるほか、部分的に黒ずむ範囲を認める。	
15	S3036	④-3	SH-302	下層	敲石	9.0	4.3	3.8	225.3	石英	上下端、右側面に敲打痕。	
16	S3041	④-3	SH-303	上層	敲石 砥石	4.8	5.9	3.8	139.3	砂岩	左側先端部に小さな敲打痕。上面、両側面が研ぎ面で、わずかに凹む。正面から左側面・裏面上部に被熱による色調の黒変を認める。	
17	S3042	④-3	SH-303	上層	敲石 砥石	5.6	8.5	4.4	300.3	ハンレイ岩	下端部に敲打痕を有し、広い範囲が潰れる。左側面に平滑な面を有し、研ぎ面として使用か?強く凹む部分あり。上半部が折損するとともに、裏面も破面となる。全体的に色調は黒ずむ。	
18	S3043	④-3	SH-303	敲石	15.8	5.8	3.0	504.0	結晶片岩	上下の両端部に敲打痕。		
19	S3045	④-3	SH-304	敲石	8.0	7.4	4.5	401.6	石英	上下端部に敲打痕。下端面の敲打痕は左右両側面にまで広がる。上部、下部側面の敲打痕内部にわずかな鉄錆付着。		
20	S3056	④-3	SH-305	敲石	8.0	4.5	3.5	187.6	石英	上下端部に敲打痕。敲打面は小さい。		
21	S3057	④-3	SH-305	敲石	9.7	8.1	6.2	670.8	砂岩又は ハンレイ岩	目が細かく、重量感がある石材。下端部及び左側面に敲打痕を持つ。潰れの面積は小さい。		
22	S3060	②	SH-310	敲石	5.0	2.7	1.5	31.7	砂岩	上部が折損。下端部に敲打痕が残る。		
23	S3061	②	SH-310	敲石	7.2	6.5	2.6	171.9	結晶片岩	上部折損。下端部に著しい敲打痕を持つ。		
24	S3058	④-3	SH-306	敲石 砥石	12.0	7.8	5.3	681.0	砂岩又は ハンレイ岩	上下端部及び左側面が敲打により激しく潰れる。裏面の一部に、擦痕を認める。表面が極めて滑らかな石材。		
25	S3050	③	SH-309	敲石	7.4	7.1	4.3	349.3	石英	左上部角及び右下部角に強い敲打痕。その他の2角にも弱い敲打痕あり。		
26	S3065	①	SX-302	敲石	8.7	6.0	3.2	243.1	石英	下端部に敲打痕を持つ。使用頻度は少ない。		
27	S3072	②・南	黒褐色土	敲石	10.7	3.9	3.7	283.1	石英	上下両端部に敲打痕。上端の敲打痕際に微量のベンガラが付着。	ベンガラ付着	
28	S3089	④-3・J	黒褐色土	敲石	5.8	6.7	2.8	174.0	石英	上端部から右側面にかけて、敲打痕を有する。左側面の一部に、ベンガラが付着する。	ベンガラ付着	
29	S0044	④	SD-202	敲石	6.1	6.8	3.1	275.0	石英	上下端部、及び右側面に敲打痕。左側面にベンガラが付着。	ベンガラ付着	
30	S3095	①・C	灰黄褐色土	敲石	7.1	5.2	4.5	277.0	石英	上端部にわずかな敲打痕。また、上端部と左側面及び裏面の一部にベンガラが付着する。	ベンガラ付着	

遺物番号	地 区	遺 構	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴	備 考
31	S3088	④-3・J		黒褐色土	敲石	7.7	3.9	4.0	156.2	石英	下端部に敲打痕。敲打の範囲は小さい。
32	S3074	③・南	流路		敲石	14.9	3.3	2.3	194.6	ハンレイ岩 又は砂岩	下端部に敲打痕。下端部の色調が黒ずむ部分を認める。
33	S3076	④-3・A		黒褐色土	敲石	8.5	4.4	3.6	209.8	砂岩	上下の両端に敲打痕。下端部の潰れが著しい。裏面及び右側面が平滑で、わずかな凹みを有することから、砥石としても使用された可能性がある。
34	S0004	④	SH-203		砥石	7.5	3.3	0.6	20.4	緑色片岩	中央部で二つに折れている。両端も破面となっており、折損した可能性がある。裏面も破面となっており、剥離した可能性がある。使用面である正面と上端面に細かな擦痕が多数残る。正面下半には円弧を描くようなかすかな凹みが認められる。肌理の細かな石材である。
35	S0014	④	SH-203		砥石	3.9	2.5	1.3	18.9	砂岩	正面が平滑で、擦痕を認める。表面に多量のマンガンが付着。裏面及び側面は破面となる。
36	S0019	④	SH-204		砥石 (磨石)	5.5	4.9	3.5	123.6	砂岩	上下端部の一部破損。正面と左側面が成す角度は鈍角。正面及び左側面に擦痕が認められる。特に、左側面の使用が著しく、平坦な平滑面を呈する。肌理の細かな石材。
37	S0002	④	SH-205	壁溝	砥石	6.9	3.7	2.9	126.9	凝灰岩	上下両端を折損。平滑な四方の側面を研ぎ面として使用。正面左右の角も使用し、面取りを行ったような形状となる。裏面は平坦で、正面及び両側面は中央部がわずかに凹む。特に、左側面は斜めに走る浅い溝状の凹みを認める。四面ともに細かな擦痕が多数残る。極めて肌理の細かな石材である。
38	S0113	④	SH-205		砥石	7.5	3.1	1.1	47.2	凝灰岩	正裏・左右の4面を研ぎ面として使用。表面は平滑で、細かな擦痕を多数認める。肌理細かな石材である。
39	S0001	④	SH-205		砥石	7.2	7.6	2.9	218.7	花崗岩	各面に使用痕。正面・裏面は中央部が大きく凹む。右側面には、幅約0.5cm、長さ約6.0cmの溝状の凹みを認める。正面外周の角が、わずかに面取りを行ったような細い面を有するが、裏面には認められない。上下側面に打ち欠いたような浅い凹みがある。全体に熱を受け、赤変するが、正面の色調は黒ずむ。非常に肌理の細かな石材。
40	S0003	④	SH-202		砥石	21.6	9.0	6.6	1301.0	凝灰岩	裏面上半部が折損。残存する各面が平滑で、著しい擦痕を認める。特に、正面及び右側面の使用が激しい。正面中央部はわずかに凹むが、右側面は平坦な面となる。左側面及び裏面は自然の凹凸が激しい。
41	S3063	①	SH-312	上層	砥石	8.6	7.5	1.9	215.9	結晶片岩	下端面と右側面に著しい使用痕跡が残る。いずれも平滑な面となり、特に右側面中央部はわずかに凹む。正面及び裏面も平滑な面を呈するが、使用頻度は低い。
42	S3054	④-3	SH-305		敲石 砥石	6.1	5.5	5.3	204.0	砂岩又は ハンレイ岩	上部を破損。正面が平滑で、平坦な面となる。下端部に敲打痕を有する。
43	S3039	④-3	SH-302		砥石	5.1	2.0	1.5	30.7	凝灰岩?	上下両端が折損。四方の側面が平滑で、わずかな擦痕を認める。
44	S3064	①	SH-312	上層	砥石	5.7	5.7	0.7	42.8	凝灰岩?	正面・裏面が平滑で、擦痕を認める。
45	S3055	④-3	SH-305		砥石 (磨石)	10.6	7.2	3.5	363.3	砂岩	他の砂岩製品と比べ、粒子が粗い。正裏及び左側面が研ぎ面となる。いずれも表面の砂粒が潰れ、平滑な面となり、中央部分が浅く凹む。
46	S3053	④-3	SH-305		砥石	11.8	12.0	7.3	1461.0	砂岩	正裏、側面を研ぎ面とし、平滑な面となる。特に、正面及び上部端面に激しい擦痕が残り、上端面は平坦となる。裏面は、一部を残し、表面が剥離する。
47	S3046	④-3	SH-304		砥石	12.4	10.3	6.0	1098.3	砂岩	正面・裏面、各側面を研ぎ面として使用。特に、正面及び裏面中央部は強く凹む。右側面の中央附近には、浅い溝状の凹みが残る。頂部から左側面は円弧を描く曲面を成すが、そこにも擦痕を残す。
48	S3059	②	SH-310		砥石 (台石)	19.0	17.1	6.2	3180.0	砂岩	表面中央部及び裏面中央部が平滑で、多数の擦痕を残す。裏面全体が被熱により赤変するが、周縁部は黒ずむ。
49	S0114	④	SH-204		台石	45.7	40.3	11.8	33370.0	花崗岩	正面の石目の潰れが激しく、平滑な面となる。使用面は、正面であり、裏面及び側面は未使用。
50	S0107	④	SH-205	中央土坑	台石	17.2	6.3	5.0	900.6	花崗岩	正面と右側面の石目の潰れが顕著であるが、使用頻度は高くない。
51	S0020	④	SH-206		台石	10.9	7.7	4.0	451.8	ハンレイ岩	正面と裏面の一部が使用面で、表面の石目が潰れ、平滑な面となる。正面に被熱による赤変箇所が認められる。
52	S3031	④-3	SH-301		台石	26.0	27.0	8.5	9615.0	花崗斑岩	正面及び裏面の石目の潰れが激しく、平滑な面となる。また、上端面にも使用痕を認める。

遺物番号	地 区	遺 構	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	材 質	特 徴	備 考	
53	S3033	④-3	SH-302	床面直上	台石	20.2	29.2	8.7	11110.0	花崗岩	正面及び上下側面の石目の潰れが激しく、平滑な面となる。また、正面上下の角の部分も激しく敲かれており、丸みを帯びる。左側面及び裏面の石目の潰れが認められ、特に左側面の角も丸みを帯びる。	
54	S3034	④-3	SH-302	床面直上	台石	47.9	28.8	9.0	15110.0	花崗斑岩	正面、裏面の石目が潰れ、平滑な面となる。裏面から側面にかけて、被熱による変色が認められる。また、正面にも部分的な弱い被熱による変色がある。裏面には鉄錆が付着する箇所あり。	
55	S3047	④-3	SH-304		台石	23.0	29.0	5.5	5443.0	花崗岩	粒子が粗く、二次的な剥離が進行しており、表面の残りが悪い。正面は石目の潰れが著しく、鉄錆状の付着物が激しい。また、上下端面、左右側面も石目が潰れるが、裏面は自然面がそのまま残り、使用痕は認められない。	
56	S3049	④-3	SH-306		台石 砥石	21.5	18.4	8.0	3700.0	砂岩	正面に、3箇所の凹みを認める。右側面の中央部が強く凹む。いずれの面も表面は平滑。正面は、鉄錆状の付着物による汚れが著しい。裏面から側面にかけて、被熱による変色を認める。裏面は赤、側面は赤から黒色に変色。下端面及び裏面は欠損し、上端部は破損。	
57	S3048	④-3	SH-306		台石	12.2	11.0	8.5	1359.0	花崗岩	正面及び上端面の石目が潰れ、平滑となる。正面中央付近に、鉄錆の汚れが多量に付着する。被熱の痕跡があり、特に側面の変色が著しい。	
58	S3067	②	SH-311		台石	42.5	29.5	13.4	22800.0	花崗岩	各面に石目の潰れが認められるが、潰れは弱い。風化が激しく、表面の残りが悪いほか、剥離や割れが激しい。	
59	S3068	①	SH-316		台石	34.0	26.1	10.4	13800.0	花崗岩	正面の石目の潰れが著しく、主な使用面である。裏面もわずかな潰れが認められるが、使用頻度は低い。	
60	S3051	③	SH-309		台石	12.8	11.9	9.9	1302.0	花崗斑岩	正面と上端面に使用面が残る。使用面の表面は石目が激しく潰れ、平滑な面となる。使用面の表面には、鉄分（鉄錆）が付着するほか、被熱によるとみられる変色が認められる。背面は四角錐の形状となるが、三角形を呈する四面は未使用的破面である。破損により小さくなった可能性がある。	
61	S0043	④	SD-201		台石	16.2	17.0	7.9	1991.0	砂岩	正面、裏面、上端面と右側面の平坦な面を使用面とする。各面ともに被熱による著しい色調の赤変が認められるほか、正面の一部に黒ずみが認められる。目の細かな石材であるが、風化が進行し、脆弱な石材である。	
62	S3066	①	SX-302		台石	23.0	9.6	6.3	2270.0	花崗岩	方柱状の六面体の石材。上下端面以外の4面で石目の潰れが認められるが、いずれの面も潰れが弱く、使用頻度は低い。	
63	S3083	④-3・C		地山面	石斧	5.9	5.5	2.5	90.8	片麻岩	石斧の刃部である。基部を折損。	
64	S0041	④	SH-206		投弾	6.0	3.9	3.5	104.1	砂岩	使用痕跡なし。	
65	S0040	④	SH-206		投弾	4.9	3.1	2.0	41.0	砂岩	使用痕跡なし。	
66	S3071	②・南		黒褐色土	投弾	6.1	4.1	2.0	71.1	砂岩	投弾状の円錐の両側面が欠け、破面が抉られたように凹む。敲打痕は認められないが、小型の敲石として加工した可能性もある。全体に、被熱による変色あり。	両側面欠損
67	S0015	④	SH-202	上層	投弾	5.5	5.0	4.2	151.0	砂岩	使用痕なし。	
68	S3044	④-3	SH-303		投弾	7.0	4.2	3.8	160.0	砂岩	使用痕なし。	
69	S3094	②	SH-310	第2層	軽石	5.6	5.2	2.2	13.0	軽石	下端面及び左側面がカットされた平坦面となる。	
70	S3062	②	SH-310	第2層	軽石	4.4	4.5	2.9	9.5	軽石	右側面と裏面が、カットされた平坦面となる。	
71	S3052	③	SH-309	中央土坑	軽石	12.9	7.9	6.5	101.3	軽石	下端部の一部に抉り採られたような凹みが認められる。また、中央部付近に側面が削り取られたような凹みが認められる。	
72	S0054	④	SK-210		石鎌	1.5	1.1	0.4	0.4	サヌカイト	凹基式の基部で、両端が丸みを帯びる。先端部及び右基部欠損。	
73	S0095	④	SH-204		石鎌	3.3	1.4	0.4	2.2	サヌカイト	凸基式基部の有茎鎌。先端を形成する2側縁が鋭角を成す。正面に自然面を残す。	
74	S3021	②・南		旧耕土 盛土	石鎌	3.4	1.4	0.5	2.3	サヌカイト	凸基式の基部の有茎鎌。先端は2側縁が鋭角を成す。正面の一部に自然面を残す。	
75	S3018	③	SD-302		石鎌	1.7	1.2	0.3	0.3	サヌカイト	凹基式の基部で、両端が尖る。両側縁がS字状を呈する。	
76	S0085	④		黒褐色砂 混じりシルト	石鎌	2.0	1.6	0.3	1.0	サヌカイト	平基式の基部。湾曲する2側縁により丸みのある先端部を成す。先端を欠損。	
77	S0061	⑥		黒褐色土	石鎌	3.9	2.1	0.7	5.3	サヌカイト	先端部及び基部が欠損。中央部がわずかに突出する凸基式の基部。先端部は、2側縁が湾曲し、丸みを帯びる。	
78	S0050	④	SH-205		石錐	4.1	2.0	0.7	5.4	サヌカイト	打製石錐。正面に自然面を残す。	
79	S0092	④	SH-204		楔形石器	4.2	4.3	0.6	14.9	サヌカイト	上下の対面する2側縁に階段状の剥離痕を有する。	

遺物番号	地 区	遺 構	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材 質	特 徴	備 考
80	S0110	④	SH-204	不明	2.9	2.6	0.6	2.8	サヌカイト	銳角を成す2側縁に、両面からの剥離による刃部を設ける。	
81	S0058	④	SH-206	削器	3.8	5.4	0.6	15.7	サヌカイト	表面に自然面を残す剥片の一側縁に、刃部を設ける。	
82	S0109	④	SH-204	剥片	3.2	2.5	0.4	4.7	チャート	チャート製の剥片	
83	S0075	④	遺構面直上	石匙	4.1	5.1	0.7	13.3	サヌカイト	周囲を両面からの剥離により形を整える。刃部は一方向からの剥離により設ける。	
84	S0057	④	SH-204	楔形石器	3.9	1.9	1.2	8.0	サヌカイト	正面に自然面を残す。上辺に階段状の剥離痕を残す。剪断面を有し、スパール状の形態を成す。	
85	S0073	④	黒褐色砂混じりシルト	石匙	3.8	4.8	0.5	12.5	サヌカイト	両端を直線的に切断。裏面は剥離面をそのまま残す。刃部は一方向からの剥離による。表面の風化が激しい。	
86	S3030	④-3	黒褐色土	石核	8.8	8.2	2.3	173.0	サヌカイト	周縁から中心部に向かって剥片を剥離する石核。	